

新 体系日本史 全18巻 別巻2

企画委員＝五味文彦 佐藤 信 高埜利彦 宮地正人 吉田伸之



A5判 上製・カバー装 本文9ボ縦二段組
平均500頁

21世紀の新しい日本史研究をめざし、
最新の研究成果を18部門に体系化！

最新の研究成果を新しい枠組みや視点から18部門に集大成した部門別の日本通史。各部門に精通した第一線の研究者が平易に執筆し、政治や文化・経済などの諸領域が、社会とどのような関係において歴史的变化を遂げてきたかを考え、問う。本文記述と関連して、研究上重要な、興味ある話題を扱うコラムも収載。歴史研究者だけでなく、一般の読書人や教師・学生の教養書として、また文学・経済学・社会学など隣接する諸分野の基礎資料としても最適。

1 国家史

宮地正人 佐藤 信 五味文彦 高埜利彦 編

倉本一宏 森公章 大津透 近藤成一 新田一郎
池享 紙屋敦之 谷本晃久 鈴木正幸

古代から現代まで、各時代の国家の観念とその社会への浸透諸手段、国家諸機構、国家諸機能とその制度的仕組み、社会からの合意調達などの視点から言及した通史。
576頁

4,950円(本体4,500円)

53010-2 C1321 (06, 8)

2 法社会史

水林 彪 大津 透 新田一郎 大藤 修 編

森謙二 岩谷十郎 高橋良彰

法を通して、前近代の秩序と支配の実相を分析し、近代国家成立期の社会を明らかにする。最新の研究成果による日本法の通史。
592頁

4,950円(本体4,500円)

53020-1 C1321 (01, 10)

3 土地所有史

渡辺尚志 五味文彦 編

小口雅史 西谷地晴美 飯沼賢司 川合康 伊藤俊一
稲葉継陽 大塚英二 金行信輔 後藤雅知 岩崎奈緒子 岩淵令治
塚田孝 豊見山和行 坂根嘉弘 奥田晴樹 名武なつ紀 岩本純明

土地所有の実体とその思想、土地に対する人々の意識・観念、土地をめぐる民衆的諸慣行や分節化した社会構造の土地所有の特質などを明らかにした通史。
560頁

4,730円(本体4,300円)

53030-0 C1321 (02, 2)

4 政治社会思想史

宮地正人 河内祥輔 藤井譲治 栄沢幸二 編

大平聡 西山良平 上杉和彦 新田一郎 榎原雅治
若尾政希 頼祺一 菊池勇夫 佐藤能丸 赤澤史朗

日本での政治的社会の成立から1945年の日本の敗戦までの総過程における日本人の自覚的意識のあり方とその変化を解明した通史。政治思想と社会思想に分けて叙述。
452頁

4,620円(本体4,200円)

53040-9 C1321 (10, 10)

5 対外交流史

村井章介 荒野泰典 編

石井正敏 千葉功

原始から太平洋戦争終戦までの対外交流の展開をとらえなおした通史。時代や問題設定によって変化する「日本」の「内」と「外」の姿に視点をあて、「日本」「日本人」とは何かという問題を掘りさげる。
520頁

5,500円(本体5,000円)

53050-8 C1321 (21, 8)

6 都市社会史

佐藤 信 吉田伸之 編

五味文彦 宇佐見隆之 山中章 北村優季 高橋照彦 高橋慎一朗
宮瀧交二 杉森哲也 真栄平房昭 杉森玲子 多和田雅保 小林信也
佐賀朝

日本における2つの重要な伝統都市類型である都城（京都）と城下町の生成・発展・解体を基軸にすえ、近代以前の日本都市史の全体像を解明する。

448頁

4,400円(本体4,000円)

53060-7 C1321 (01, 6)

7 村落社会史

坂上康俊 服部英雄 久留島典子 久留島浩 編

松村恵司 大門正克

未刊

53070-6 C1321

8 社会集団史

塚田 孝 編

鷲下徹 三枝暁子 大山喬平 三田智子 ジョン・ポーター 神田由築
久堀裕朗 飯田直樹 吉元加奈美 朴澤直秀 町田哲 西田かほる
松本和明 山下聡一 原直史 渡辺祥子 島崎未央 彭浩 谷直樹
齊藤絃子 森下徹 後藤雅知

社会を構成する多様な社会集団を取り上げて、諸集団の具体的な把握を試みる。近世を中心に、社会集団の内部構造や複合構造を分析し、身分社会を総体的にとらえる。

416頁

4,950円(本体4,500円)

53080-5 C1321 (22, 6)

9 ジェンダー史

大口勇次郎 成田龍一 服藤早苗 編

五味文彦 西野悠紀子 高橋秀樹 柳谷慶子
中野節子 長志珠絵 吉澤夏子

広く社会的・文化的に形成された性別であるジェンダーの視点からあらたな対象を設定し、原始・古代から最現代までをとらえなおした通史。

484頁

4,950円(本体4,500円)

53090-4 C1321 (14, 7)

10 生産技術史

深谷克己 吉村武彦 木村茂光 編

石川日出志 小笠原好彦 田村憲美 春田直紀 須田努
川鍋定男 君塚仁彦 高橋美貴 今西一

未刊

53100-0 C1321

11 産業技術史

中岡哲郎 鈴木 淳 堤 一郎 宮地正人 編

橋本毅彦 荻慎一郎 青木隆夫 野原建一 玉川寛治
高松亨 田中國昭 堀勇良 山崎正勝 藤江邦男 富田徹男

幕末以降の産業技術全体の推移や、機械など各分野の技術史的展開、および技術と社会との関わりを平易に叙述。

514頁

4,400円(本体4,000円)

53110-9 C1321 (01, 8)

12 流通経済史

桜井英治 中西 聡 編

栄原永遠男 櫛木謙周 本城正徳
真栄平房昭 岩橋勝 齋見誠良

品切

貨幣の使用から信用の展開へ、商業の発生から市場取引へと、商品経済が社会に浸透していく歴史的過程を明らかにした通史。

552頁

4,730円(本体4,300円)

53120-8 C1321 (02, 8)

13 交通・情報史

館野和己 原 直史 小風秀雅 編

木本雅康 藤原良章 山田邦明 渡辺浩一
老川慶喜 山田朗 藤井信幸 荻野富士夫

未刊

53130-7 C1321

14 生活文化史

小泉和子 編

福田アジオ 上江洲均 沢山美果子 川本重雄 玉井哲雄 泉万里
中村琢巳 江原絢子 熊倉功夫 藤原里香 潮田鐵雄 谷田有史
板橋春夫 菅野則子 志田原重人 小島美子 塚本学 神崎宣武

日本列島では、古来から各地域に対応した特色を持ちつつ、全体的に共通した生活文化の様式を形成してきた。衣食住など、庶民レベルにまで広まった生活文化の諸相を、通史的に概観する。

468頁

4,950円(本体4,500円)

53140-6 C1321 (14, 4)

15 宗教社会史

高埜利彦 安田次郎 編

曾根正人 平雅行 谷本晃久 赤嶺政信 佐々木利和 柚田善雄
中島圭一 三浦俊明 勝浦令子 細川涼一 高田陽介 澤博勝 神田千里
保坂博興 榎原雅治 西田かほる

日本宗教の特性を歴史的に社会との関わりの中で解明する。通史編は黎明期から各時代及び、琉球・アイヌ社会の宗教を、テーマ編は現代との関連から主題を設定し、通史的に概観する。

512頁

4,950円(本体4,500円)

53150-5 C1321 (12, 3)

16 教育社会史

辻本雅史 沖田行司 編

鈴木理恵 大戸安弘 高野秀晴 八嶽友広
橋本昭彦 森川輝紀 駒込武

日本人はこれまでどのように学んできたのか。教える教育の制度史よりも、歴史的社会的なかで、実際に生まれ育ち学んできた視点からとらえた通史。

484頁

4,400円(本体4,000円)

53160-4 C1321 (02, 5)

17 美術社会史

五味文彦 佐野みどり 佐藤道信 編

島尾新 佐藤康宏 藤井恵介 長岡龍作 玉蟲敏子 泉万里
小林純子 古田亮 児島薫 川本重雄 川本桂子 河田明久
未刊

53170-3 C1321

18 芸能社会史

五味文彦 吉田伸之 石橋健一郎 編

新川登亀男 松岡心平 神田由築
神山彰 林公子 池宮正治 児島恭子
未刊

53180-2 C1321

別巻1 日本史史料論

佐藤 信 五味文彦 宮地正人 編

藤田覚 中野日徹 寺崎保広 金田章裕 林譲 鶴田啓 杉本史子 松井洋子 有山輝雄 真栄平房昭
綾村宏 古尾谷知浩 海老澤英 伊藤正義 富善一敏 伊藤裕久 大久保純一 野島陽子 安藤正人
未刊

53190-1 C1321

別巻2 日本史研究法

宮地正人 吉田伸之 高埜利彦 五味文彦 編

水林彪 渡辺尚志 河内祥輔 荒野泰典 辻本雅史 佐野みどり 服部英雄
塚田孝 大口勇次郎 深谷克己 鈴木淳 中西聡 原直史 小泉和子
未刊

53200-7 C1321

新版 県史 全47巻

児玉幸多 監修



四六判 布クロス装 上製・カバー装 本文
9ポ一段組 平均360頁 カラー口絵8頁
各2,640円(本体2,400円)

日本史の専門学者が、最新の研究成果を取り入れて四半世紀ぶりに、全面的に書き下ろす

47都道府県の歴史を日本史の流れの中に正しく位置づけた、郷土史であると同時に地域別の日本史。地域で活躍した人物や歴史上の重要事件を県民の立場から叙述。コラムなどを挿入し平易に描く。

2015年1月、市町村合併対応の第2版の刊行完結。

1 北海道の歴史

田端 宏 桑原真人 船津 功 関口 明 著

384頁 32011-6 C0321 (00. 9)

2 青森県の歴史

長谷川成一 村越 潔 小口雅史 斉藤利男 小岩信竹 著

376頁 32021-5 C0321 (00. 2)

3 岩手県の歴史

細井 計 伊藤博幸 菅野文夫 鈴木 宏 著

372頁 32031-4 C0321 (99. 8)

4 宮城県の歴史

渡辺信夫 今泉隆雄 大石直正 難波信雄 著

368頁 32041-3 C0321 (99. 3)

5 秋田県の歴史

塩谷順耳 富樫泰時 熊田亮介 渡辺英夫 古内龍夫 著

400頁 32051-2 C0321 (01. 5)

6 山形県の歴史

横山昭男 誉田慶信 伊藤清郎 渡辺 信 著

360頁 32061-1 C0321 (98. 12)

7 福島県の歴史

丸井佳寿子 工藤雅樹 伊藤喜良 吉村仁作 著

352頁 32071-0 C0321 (97. 4)

8 茨城県の歴史

長谷川伸三 糸賀茂男 今井雅晴 秋山高志 佐々木寛司 著

400頁 32081-9 C0321 (97. 6)

9 栃木県の歴史

阿部 昭 橋本澄朗 千田孝明 大嶽浩良 著 384頁 32091-8 C0321 (98. 2)

10 群馬県の歴史

西垣晴次 山本隆志 丑木幸男 編 松田猛 関口功一 田畑勉 岡田昭二 384頁 32101-4 C0321 (97. 5)

11 埼玉県の歴史

田代 脩 塩野 博 重田正夫 森田 武 著 368頁 32111-3 C0321 (99. 6)

12 千葉県の歴史

石井 進 宇野俊一 編 吉村武彦 加藤友康 佐藤博信 酒井右二 筑紫敏夫 三浦茂一 392頁 32121-2 C0321 (00. 7)

13 東京都の歴史

竹内 誠 古泉 弘 池上裕子 加藤 貴 藤野 敦 著 408頁 32131-1 C0321 (97. 1)

14 神奈川県の歴史

神崎彰利 大貫英明 福島金治 西川武臣 著 368頁 32141-0 C0321 (96.12)

15 新潟県の歴史

田中圭一 桑原正史 阿部洋輔 金子 達 中村義隆 本間恂一 著 392頁 32151-9 C0321 (98. 1)

16 富山県の歴史

深井甚三 本郷真紹 久保尚文 市川文彦 著 356頁 32161-8 C0321 (97. 8)

17 石川県の歴史

高澤裕一 河村好光 東四柳史明 本康宏史 橋本哲哉 著 376頁 32171-7 C0321 (00. 3)

18 福井県の歴史

隼田嘉彦 白崎昭一郎 松浦義則 木村 亮 著 384頁 32181-6 C0321 (00.11)

19 山梨県の歴史

飯田文弥 秋山 敬 笹本正治 齋藤康彦 著 360頁 32191-5 C0321 (99. 1)

20 長野県の歴史

古川貞雄 福島正樹 井原今朝男 青木歳幸 小平千文 著 384頁 32201-1 C0321 (97. 3)

21 岐阜県の歴史

松田之利 谷口和人 筧 敏生 所 史隆 上村恵宏 黒田隆志 著 352頁 32211-0 C0321 (00. 9)

22 静岡県の歴史

本多隆成 荒木敏夫 杉橋隆夫 山本義彦 著

368頁 32221-9 C0321 (98. 6)

23 愛知県の歴史

三鬼清一郎 編 梅村喬 渡邊正男 加藤益幹 桐原千文
西田真樹 岸野俊彦 津田多賀子

384頁 32231-8 C0321 (01. 1)

24 三重県の歴史

稲本紀昭 駒田利治 勝山清次 飯田良一 上野秀治 西川 洋 著

360頁 32241-7 C0321 (00. 7)

25 滋賀県の歴史

畑中誠治 井戸庄三 林 博通 中井 均 藤田恒春 池田 宏 著

392頁 32251-6 C0321 (97. 7)

26 京都府の歴史

朝尾直弘 吉川真司 石川登志雄 水本邦彦 飯塚一幸 著

392頁 32261-5 C0321 (99. 8)

27 大阪府の歴史

藤本 篤 前田豊邦 馬田綾子 堀田暁生 著

368頁 32271-4 C0321 (96.11)

28 兵庫県の歴史

今井修平 小林基伸 鈴木正幸 野田泰三 福島好和 三浦俊明 元木泰雄 著

436頁 32281-3 C0321 (04. 8)

29 奈良県の歴史

和田 萃 安田次郎 幡鎌一弘 谷山正道 山上 豊 著

464頁 32291-2 C0321 (03.10)

30 和歌山県の歴史

小山靖憲 武内雅人 栄原永遠男 弓倉弘年 笠原正夫 高嶋雅明 著

392頁 32301-8 C0321 (04. 7)

31 鳥取県の歴史

内藤正中 真田廣幸 日置条左エ門 著

368頁 32311-7 C0321 (97. 2)

32 島根県の歴史

松尾 寿 田中義昭 渡辺貞幸 大日方克己 井上寛司 竹永三男 著

408頁 32321-6 C0321 (05. 4)

33 岡山県の歴史

藤井 学 狩野 久 竹林榮一 倉地克直 前田昌義 著

400頁 32331-5 C0321 (00. 6)

34 広島県の歴史

岸田裕之 編 室山敏昭 西別府元日 秋山伸隆
中山富廣 頼祺一 兒玉正昭 宇吹暁

368頁 32341-4 C0321 (99.11)

35 山口県の歴史

小川国治 編 中村徹也 倉住靖彦 平瀬直樹 森下徹
金谷匡人 三宅紹宣 日野綾彦 368頁 32351-3 C0321 (98. 3)

36 徳島県の歴史

石躍胤央 北條芳隆 大石雅章 高橋 啓 生駒佳也 著 340頁 32361-2 C0321 (07. 6)

37 香川県の歴史

木原溥幸 丹羽佑一 田中健二 和田 仁 著 376頁 32371-1 C0321 (97.10)

38 愛媛県の歴史

内田九州男 寺内 浩 川岡 勉 矢野達雄 著 360頁 32381-0 C0321 (03. 8)

39 高知県の歴史

荻慎一郎 森 公章 市村高男 下村公彦 田村安興 著 384頁 32391-9 C0321 (01. 2)

40 福岡県の歴史

川添昭二 武末純一 岡藤良敬 西谷正浩 梶原良則 折田悦郎 著 376頁 32401-5 C0321 (97.12)

41 佐賀県の歴史

杉谷 昭 佐田 茂 宮島敬一 神山恒雄 著 368頁 32411-4 C0321 (98. 4)

42 長崎県の歴史

瀬野精一郎 新川登龜男 佐伯弘次 五野井隆史 小宮木代良 著 376頁 32421-3 C0321 (98. 9)

43 熊本県の歴史

松本寿三郎 板楠和子 工藤敬一 猪飼隆明 著 376頁 32431-2 C0321 (99. 4)

44 大分県の歴史

豊田寛三 後藤宗俊 飯沼賢司 末廣利人 著 400頁 32441-1 C0321 (97. 9)

45 宮崎県の歴史

坂上康俊 長津宗重 福島金治 大賀郁夫 西川 誠 著 384頁 32451-0 C0321 (99. 9)

46 鹿児島県の歴史

原口 泉 永山修一 日隈正守 松尾千歳 皆村武一 著 376頁 32461-9 C0321 (99. 8)

47 沖縄県の歴史

安里 進 高良倉吉 田名真之 豊見山和行 西里喜行 真栄平房昭 著 384頁 32471-8 C0321 (04. 8)

歴史散歩

全47巻57冊



B6変型判 ビニールカバー付 並製・カバー装
本文9ポ横組 各巻平均320頁
カラー口絵8頁 本文2～4色刷
4色刷全県地図 各1,320円(本体1,200円)

好評を博した全国歴史散歩シリーズ(新書判)を全面的に改訂。判型も大きく、文字も大きく、2～4色刷になって全巻完結。

各地域で歴史研究・歴史教育に携わる著者たちが、新たな要素や研究成果を取り入れ、自らの足で歩いて収録。住所・交通機関・電話番号と地図により、実際にたやすく史跡・文化財を散策できるように配慮した。項目・コラムには、一目でわかる見所などを色刷りで加えた。各巻の冒頭には、代表的な史跡・文化財・芸能・民俗などがその所在地とともに一目で確認できるように、カラー写真で構成した4テーマの特集頁を設けた。

付録：各県のあゆみ／地域の概観／文化財公開施設／無形民俗文化財・おもな祭り・有形民俗文化財／散歩便利帳／参考文献／年表／索引

1 北海道の歴史散歩

北海道高等学校日本史教育研究会 編

344頁

24601-0 C0321 (06.12)

2 青森県の歴史散歩

青森県高等学校地方史研究会 編

336頁

24602-7 C0321 (07.5)

3 岩手県の歴史散歩

岩手県高等学校教育研究会地歴・公民部会歴史部会日本史部会 編

328頁

24603-4 C0321 (06.12)

4 宮城県の歴史散歩

宮城県高等学校社会科(地理歴史科・公民科)教育研究会歴史部会 編

328頁

24604-1 C0321 (07.7)

5 秋田県の歴史散歩

秋田県の歴史散歩編集委員会 編

336頁

24605-8 C0321 (08.7)

6 山形県の歴史散歩

山形県の歴史散歩編集委員会 編

336頁

24606-5 C0321 (11.10)

7 福島県の歴史散歩

福島県高等学校地理歴史・公民科(社会科)研究会 編

328頁

24607-2 C0321 (07.3)

8 茨城県の歴史散歩

茨城県地域史研究会 編

288頁

24608-9 C0321 (06.1)

9 栃木県の歴史散歩

栃木県歴史散歩編集委員会 編 352頁 24609-6 C0321 (07. 3)

10 群馬県の歴史散歩

群馬県高等学校教育研究会歴史部会 編 304頁 24610-2 C0321 (05.12)

11 埼玉県の歴史散歩

埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会 編 336頁 24611-9 C0321 (05. 2)

12 千葉県の歴史散歩

千葉県高等学校教育研究会歴史部会 編 352頁 24612-6 C0321 (06. 5)

13 東京都の歴史散歩

東京都歴史教育研究会 編	上 下町 280頁 中 山手 304頁 下 多摩・島嶼 304頁	24613-3 C0321 (05. 8) 24713-0 C0321 (05. 8) 24813-7 C0321 (05. 8)
--------------	--	---

14 神奈川県歴史散歩 上 川崎・横浜・北相模・三浦半島 下 鎌倉・湘南・足柄

神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会 編 328頁 24614-0 C0321 (05. 5)
296頁 24814-4 C0321 (05. 5)

15 新潟県の歴史散歩

新潟県の歴史散歩編集委員会 編 312頁 24615-7 C0321 (09. 8)

16 富山県の歴史散歩

富山近代史研究会歴史散歩部会 編 328頁 24616-4 C0321 (08. 1)

17 石川県の歴史散歩

石川県の歴史散歩編集委員会 編 304頁 24617-1 C0321 (10. 7)

18 福井県の歴史散歩

福井県の歴史散歩編集委員会 編 340頁 24618-8 C0321 (10.12)

19 山梨県の歴史散歩

山梨県高等学校教育研究会地歴科・公民科部会 編 296頁 24619-5 C0321 (07. 2)

20 長野県の歴史散歩

長野県の歴史散歩編集委員会 編 304頁 24620-1 C0321 (06.11)

21 岐阜県の歴史散歩

岐阜県高等学校教育研究会公民・地歴部会、地理部会 編 320頁 24621-8 C0321 (06. 8)

22 静岡県の歴史散歩

静岡県日本史教育研究会 編

360頁

24622-5 C0321 (06. 8)

23 愛知県の歴史散歩

愛知県高等学校郷土史研究会 編

上 尾張 308頁
下 三河 320頁

24623-2 C0321 (05. 3)

24823-6 C0321 (05. 3)

24 三重県の歴史散歩

三重県高等学校日本史研究会 編

320頁

24624-9 C0321 (07. 7)

25 滋賀県の歴史散歩

滋賀県歴史散歩編集委員会 編

上 大津・湖南・甲賀 256頁
下 彦根・湖東・湖北・湖西 272頁

24625-6 C0321 (08. 5)

24825-0 C0321 (08. 5)

26 京都府の歴史散歩

京都府歴史遺産研究会 編

上 352頁
中 336頁
下 352頁

24626-3 C0321 (11. 8)

24726-0 C0321 (11. 8)

24826-7 C0321 (11. 8)

27 大阪府の歴史散歩

大阪府の歴史散歩編集委員会 編

上 大阪市・豊能・三島 288頁
下 河内・堺・和泉 328頁

24627-0 C0321 (07. 9)

24827-4 C0321 (07. 9)

28 兵庫県の歴史散歩

兵庫県の歴史散歩編集委員会 編

上 神戸・阪神・淡路 272頁
下 東播磨・西播磨・丹有・但馬 280頁

24628-7 C0321 (06. 6)

24828-1 C0321 (06. 6)

29 奈良県の歴史散歩

奈良県高等学校教科等研究会歴史部会 編

上 奈良北部 312頁
下 奈良南部 296頁

24629-4 C0321 (07. 6)

24829-8 C0321 (07. 6)

30 和歌山県の歴史散歩

和歌山県高等学校社会科研究協会 編

336頁

24630-0 C0321 (09. 5)

31 鳥取県の歴史散歩

鳥取県の歴史散歩編集委員会 編

352頁

24631-7 C0321 (12.12)

32 島根県の歴史散歩

島根県の歴史散歩編集委員会 編

312頁

24632-4 C0321 (08. 3)

33 岡山県の歴史散歩

岡山県の歴史散歩編集委員会 編

352頁

24633-1 C0321 (09. 8)

34 広島県の歴史散歩

広島県の歴史散歩編集委員会 編

336頁

24634-8 C0321 (09. 4)

35 山口県の歴史散歩

山口県歴史散歩編修委員会 編	336頁	24635-5 C0321 (06. 3)
----------------	------	-----------------------

36 徳島県の歴史散歩

徳島県の歴史散歩編集委員会 編	320頁	24636-2 C0321 (09. 7)
-----------------	------	-----------------------

37 香川県の歴史散歩

香川県の歴史散歩編集委員会 編	352頁	24637-9 C0321 (13.12)
-----------------	------	-----------------------

38 愛媛県の歴史散歩

愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会 編	280頁	24638-6 C0321 (06. 3)
-------------------------	------	-----------------------

39 高知県の歴史散歩

高知県高等学校教育研究会歴史部会 編	336頁	24639-3 C0321 (06. 8)
--------------------	------	-----------------------

40 福岡県の歴史散歩

福岡県高等学校歴史研究会 編	328頁	24640-9 C0321 (08.10)
----------------	------	-----------------------

41 佐賀県の歴史散歩

佐賀県高等学校地歴公民部会歴史部会 編	292頁	24641-6 C0321 (12. 7)
---------------------	------	-----------------------

42 長崎県の歴史散歩

長崎県高等学校教育研究会地歴公民部会歴史分科会 編	296頁	24642-3 C0321 (05. 6)
---------------------------	------	-----------------------

43 熊本県の歴史散歩

熊本県高等学校地歴・公民科研究会日本史部会 編	328頁	24643-0 C0321 (10. 3)
-------------------------	------	-----------------------

44 大分県の歴史散歩

大分県高等学校教育研究会地理歴史科・公民科部会 編	288頁	24644-7 C0321 (08. 4)
---------------------------	------	-----------------------

45 宮崎県の歴史散歩

宮崎県高等学校社会科研究会歴史部会 編	256頁	24645-4 C0321 (06. 2)
---------------------	------	-----------------------

46 鹿児島県の歴史散歩

鹿児島県高等学校歴史部会 編	328頁	24646-1 C0321 (05.10)
----------------	------	-----------------------

47 沖縄県の歴史散歩

沖縄県の歴史散歩編集委員会 編	352頁	24647-8 C0321 (14. 1)
-----------------	------	-----------------------

日本の伝統文化 全6巻

五味文彦 高埜利彦 監修



四六判 上製・カバー装 本文14Q縦一段組
216～496頁 カラー口絵8～16頁

伝統文化の本質を歴史のなかに探る

浮世絵・歌舞伎・相撲・茶や花・武道などに代表する日本文化の、生成・継承・変容の過程を追いつながら、伝統文化とは何か考えるシリーズ。

1 伝統文化

五味文彦 著

日本文化の基層となる古代の宗教や和歌の世界にはじまり、
宮廷文化・武家社会において家や型が形成された中世、それらが大成する近世までを描き、そこに通底する「ものの考え方」を探る。シリーズ全6巻の総論。 **496頁 口絵8頁**

4,400円(本体4,000円)

21301-2 C1321 (19. 8)

2 浮世絵

小林 忠 著

江戸時代の町人の美術として生まれ、現在では日本の美術、文化の代表として国際的な評価と知名度のある浮世絵。その発生に至る過程と、美術としての構造と特質について代表的な作品を例示しながら詳述する。 **216頁 口絵16頁**

3,520円(本体3,200円)

21302-9 C1321 (19.11)

3 歌舞伎

神田由築 著

未刊

21303-6 C1321

4 相撲

高埜利彦 著

古代の相撲節会につながりを持ち、江戸時代、経済が発展する中で庶民の娯楽として軌道にのった相撲興行。相撲渡世集団がいかに柔軟に、創造的に社会の変化を吸収し現在まで存続してきたか、その歴史を追う。 **320頁 口絵4頁**

3,520円(本体3,200円)

21304-3 C1321 (22. 3)

5 茶と花

熊倉功夫 井上 治 著

伝統的な生活文化である茶道・花道に焦点をあて、その歴史的展開を跡づける。室町時代の武家文化の中で生成し、中世から近世へ向け大発展をとげ、さらに大衆化した茶道・花道の、現代の姿までを含め詳述する。 **388頁 口絵8頁**

3,520円(本体3,200円)

21305-0 C1321 (20. 3)

6 武道

魚住孝至 著

日本に始まり、今や世界に広がる武道。弓馬・剣槍、社会を変えた鉄砲・砲術、近現代の柔道・KARATEなど戦いを超越する「武道」の精神文化は、いかに生まれたのか。「武道」の歴史の全容を明らかにする。 **448頁 口絵4頁**

4,400円(本体4,000円)

21306-7 C1321 (21. 4)

物語の舞台を歩く 全9巻

企画委員＝福田豊彦 五味文彦 松岡心平

四六判 並製・フランス装
本文右頁10.5ボ縦組 左頁8ボ横組
各巻平均200頁 カラー口絵8～16頁
各1,980円(本体1,800円)

旅を愉しむ！ 本で楽しむ！
物語に誘われて、旅によう！

歴史物語や文学作品などの舞台を実際に訪れるための歴史・文学の案内書。写真・地図も充実しているので、誌上散歩も楽しめる。物語や作品に精通した歴史学・文学の第一線の研究者が、自らの足で訪ね歩き、物語のあらすじに沿って話が展開する。用語やコラムなどもわかりやすく解説、大きな文字を使用し、読みやすい。

将門記 品切
村上春樹 著 184頁 22410-0 C0321 (08. 6)

平将門の反乱の経過を描いた『将門記』。その舞台を実際に訪れるために役立つ歴史散策の本。記述に沿って話を展開し、舞台となった地を紹介する。

純友追討記
下向井龍彦 著 212頁 22420-9 C0321 (11.11)

藤原純友＝海賊とする根本史料への史料批判や瀬戸内各地の足跡を追いながら、海賊ではなく、勤王への正当な評価を求め続けた武士としての純友の物語を紹介する。

平家物語 品切
佐伯真一 著 180頁 22450-6 C0321 (05. 2)

「祇園精舎の鐘の声…」で有名な『平家物語』の舞台の散策に役立つ本。物語の展開に沿って話が進む。写真・地図・用語解説も豊富にわかりやすく解説。

曾我物語 品切
坂井孝一 著 180頁 22460-5 C0321 (05. 2)

曾我兄弟の敵討ちを描いた『曾我物語』。兄弟の生涯や敵討ち事件など、物語の舞台を訪ね歩く。鎌倉幕府草創の激動の歴史と、悲劇的で浪漫的な物語の世界へ誘う。

十六夜日記 品切
田淵句美子 著 168頁 22470-4 C0321 (05. 4)

鎌倉時代の中頃、裁判のために阿仏尼がたどった下向の旅を記した『十六夜日記』。自詠の歌の数々、点描される風景など、旅の足跡をたどる一冊。

徒然草
久保田淳 著 184頁 22480-3 C0321 (09.10)

吉田兼好が出家後に書いた随筆『徒然草』。序章・243段のなかから抽出して、旅人としての側面も持つ兼好の足跡を追う。

義経記 品切
五味文彦 著 192頁 22500-8 C0321 (05. 7)

英雄的で、悲劇的な源義経の生涯を描いた『義経記』の記述に沿って話を展開し、寺社・遺物・遺跡など、舞台となった地を実際に歩いて紹介する。

能 大和の世界
松岡心平 著 208頁 22510-7 C0321 (11. 5)

晩年の世阿弥が記した、大和(奈良)の地を舞台とした「井筒」「当麻」「野守」などの能。その傾向は息子らにも影響を及ぼした。大和物能作の世界を紹介する。

古今著聞集
本郷恵子 著 164頁 22520-6 C0321 (10. 7)

鎌倉時代の橘成季の手による説話集『古今著聞集』を取り上げ、説話集ならではの貴賤・魚虫が入り交じった諸諺譚や叙情譚、滑稽譚や怪異譚の舞台を紹介する。

日本史リブレット

第1期全68巻(通巻1～68)

第2期全33巻(通巻69～101)

五味文彦 佐藤 信 高埜利彦 宮地正人 吉田伸之 監修



A5変型判 並製・カバー装 本文10ボ縦一段組
頭注縦8ボ組 平均100頁 各880円(本体800円)

歴史への知的興味・好奇心を深めるハンディなシリーズ

日本列島の社会を原始・古代から現代まで、最新の研究成果や学界の動向・情報をふまえ、新しい切り口から魅力あるテーマを選定。第一線の研究者が新視点で具体的事例を取り上げ、詳しい用語解説や豊富な図版とともに簡潔に解説。一気に読める新しいスタイルの教養書。

1 旧石器時代の社会と文化

白石浩之 著 112頁 54010-1 C1321 (02. 5)

後期旧石器時代の人々が自然と共生し、独特の文化をはぐくみながら生きた社会の基層を、発掘成果から探る。住居跡の発見や漁労への関与など新しい知見も紹介。

2 縄文の豊かさと限界

今村啓爾 著 104頁 54020-0 C1321 (02.11)

1万年にわたり独特の変化をとげた縄文文化。自然に支配されるものから作り変えるものへの成長の過程を、豊かさの中にある限界をも視野に入れ、実像を解明する。

3 弥生の村

武末純一 著 116頁 54030-9 C1321 (02. 9)

弥生時代早期～後期の遺物・遺構・諸施設の配置・構造の変化から集落の変動を読みとり、国の成立・戦いや交流などを通して、豊かになった弥生時代像を描く。

4 古墳とその時代

白石太一郎 著 112頁 54040-8 C1321 (01. 5)

日本の古墳の特異性、首長連合のあり方とその盟主である大王の性格や、東アジアのなかでの倭国の文明化と古代国家の形成過程の謎に迫る。

5 大王と地方豪族

篠川 賢 著 104頁 54050-7 C1321 (01. 9)

金石文などをもとに倭の五王時代の大王と地方豪族の関係を解き明かし、6世紀代の反乱伝承、大和政権の地方支配制度を再検討する。

6 藤原京の形成

寺崎保広 著 104頁 54060-6 C1321 (02. 3)

律令国家が形成されるなかで本格的な都城として完成された藤原京の意義を、発掘調査・研究成果をもとに、その成立・構造・機能・復元などを明らかにする。

7 古代都市平城京の世界

館野和己 著 112頁 54070-5 C1321 (01. 7)

平城京、長屋王邸宅(長屋王家木簡)などの発掘調査をもとに、8世紀の古代都市・平城京の実像を多面的に明らかにする。

8 古代の地方官衙と社会

佐藤 信 著 116頁 54080-4 C1321 (07. 2)

地方官衙は、中央集権的な国家を作る上で大きな役割を果たした。近年の発掘成果を手がかりに、地方社会から、中央や貴族を中心とした古代国家像を見直す。

9 漢字文化の成り立ちと展開

新川登龜男 著 112頁 54090-3 C1321 (02. 7)

漢字文化のなかで生きてきた日本列島の人々の、言葉と文字の有様をさぐりながら、漢字文化の全体像を明らかにし、歴史の本体と核心に迫る。

10 平安京の暮らしと行政

中村修也 著 112頁 54100-9 C1321 (01. 7)

平安京の世界に息づく人々の日常生活を、「京職」という役所を軸に見直し、平安時代の社会を描く。

11 蝦夷の地と古代国家

熊谷公男 著 116頁 54110-8 C1321 (04. 3)

古代王権は、東北・北海道の人々を差別・支配の対象としながらも、さまざまな交流を行った。列島の異文化集団「蝦夷」の存在の問題を考える。

12 受領と地方社会

佐々木恵介 著 104頁 54120-7 C1321 (04. 2)

多種多様な顔を持ち、さまざまな面で重要な役割を果たした受領。受領の都と地方の往来は人々に何をもたらしたのか、受領の姿を見直す。

13 出雲国風土記と古代遺跡

勝部 昭 著 112頁 54130-6 C1321 (02. 5)

唯一完本として残る『出雲国風土記』に描かれた古代出雲国の姿と、その記述に関わりのある遺跡の発掘成果から、出雲の原始・古代の実像を解明していく。

14 東アジア世界と古代の日本

石井正敏 著 112頁 54140-5 C1321 (03. 5)

海外情報の収集・分析と対応は、古代の日本においても重要な課題であった。海を越えて往き来したさまざまな人と物に焦点をあて、対外交流の足跡を追う。

15 地下から出土した文字

鐘江宏之 著 112頁 54150-4 C1321 (07. 3)

わずかな数字の木片や1文字の土器片が歴史を変えてしまうことがある。地下から出土した木簡など文字資料の歴史研究への活用過程や読み解き方を紹介する。

16 古代・中世の女性と仏教

勝浦令子 著 104頁 54160-3 C1321 (03. 3)

ジェンダーの視点をふまえて、古代・中世の日本人の信心・信仰の変遷をたどり、女性が仏教をどう受け入れたのか、またいかなる影響を与えたのかを考える。

17 古代寺院の成立と展開

岡本東三 著 112頁 54170-2 C1321 (02. 1)

仏教の受容とともに造営された寺院の変遷、伽藍配置・軒瓦の地方への波及、国分寺の造営などの具体例から、律令国家の成立とともに展開される寺院の姿を描く。

18 都市平泉の遺産

入間田宣夫 著 112頁 54180-1 C1321 (03. 7)

発掘調査の進展と文献史料の見直しなどにより、明らかになった都市平泉の全体像を描き出す。貴重な都市遺産の魅力に現地の視点から迫る。

19 中世に国家はあったか

新田一郎 著 112頁 54190-0 C1321 (04. 8)

中世国家論の現状を紹介しつつ、「国家とは何か」を中世の視点から考える。近現代と中世の国家にどのような同一性と連続性があり、どんな関わりを持つかを問う。

20 中世の家と性

高橋秀樹 著 100頁 54200-6 C1321 (04. 4)

近世・近代の家族観で理解されがちな中世の家や家族の問題を、文献史料や絵巻物をふまえた実証的な研究成果から捉え直し、暮らしを支える家や性の問題を考える。

21 武家の古都、鎌倉

高橋慎一郎 著 112頁 54210-5 C1321 (05. 8)

町なかの道や坂、寺社や地名、歴史書、遺跡・遺物、文書、絵図など、さまざまな手がかりを紹介しながら、本格的な武家の都市、中世鎌倉のようすを復元する。

22 中世の天皇観

河内祥輔 著 112頁 54220-4 C1321 (03. 1)

古代・中世の天皇は、どのような存在であったのか。皇位継承問題に絡む政治的事件の背景にある独特の天皇観・特徴を、現代人の天皇観と対比しながら探る。

23 環境歴史学とはなにか

飯沼賢司 著 116頁 54230-3 C1321 (04. 9)

国東半島の荘園村落遺跡や岩手県南部の骨寺村絵図など、具体的な調査・研究を例に、近年、提起され、注目されるようになった環境歴史学とはなにかを論じる。

24 武士と荘園支配

服部英雄 著 116頁 54240-2 C1321 (04. 9)

中世社会の主要な担い手である武士は、あらゆる利権争いの場に介入していた。河原の者との関係、武士団による荘園支配など、中世武士団の世界を明らかにする。

25 中世のみちと都市

藤原良章 著 116頁 54250-1 C1321 (05. 9)

絵巻に描かれた橋や人物、中世に起源をもつ道筋の遺物や地名などを手がかりに、「みち」をめぐる中世の人々のあり方を描き、また都市的な場についても考察する。

26 戦国時代、村と町のかたち

仁木 宏 著 112頁 54260-0 C1321 (04. 2)

村の土豪・町の共同体など地域社会の自律的な活動と、支配権力の展開の両面から社会構造を考察し、戦国社会の本質と近世への展開を明らかにする。

27 破産者たちの中世

桜井英治 著 112頁 54270-9 C1321 (05. 7)

中世にも巨額の借金を抱えた人々がいた。彼らがしたたかに生きることができたのはなぜか。債務処理や裁判記録をひもときながら中世の金融システムを解き明かす。

28 境界をまたぐ人びと

村井章介 著 112頁 54280-8 C1321 (06. 5)

前近代の国境は、一本の線ではなく、ある広がりをもった活動の場であった。蝦夷・唐人・琉球人・倭寇・商人など境界をまたぎ往來した人々の姿と活動を描く。

29 石造物が語る中世職能集団

山川 均 著 120頁 54290-7 C1321 (06. 8)

中国から渡来した石工の子孫は、大和を中心に多くの優れた石造物を残した。その作品を見るとともに、石造物を通じて垣間見える仏教社会の一端にも触れる。

30 中世の日記の世界

尾上陽介 著 112頁 54300-3 C1321 (03. 5)

日記は独自の価値観と関心に基づいて書いた記録であり、その時代を生きた人々の社会・精神生活などが記されている。個性的な中世の日記の姿と魅力を解明する。

31 板碑と石塔の祈り

千々和到 著 112頁 54310-2 C1321 (07. 8)

古来、人々は石の硬く重たい性質が願いを永久に残してくれると信じ、石に願いを刻みつけた。その銘文や造形から、石塔に秘められた中世人の祈りの世界を探る。

32 中世の神と仏

末木文美士 著 104頁 54320-1 C1321 (03. 5)

仏教からも神道からも不純なものとして否定されてきた神仏習合。そこには奔放な想像力と雄大な世界が展開している。神仏習合を鍵に、日本の宗教の原像を描く。

33 中世社会と現代

五味文彦 著 112頁 54330-0 C1321 (04. 4)

現代社会と同様に、中世も先の見えない社会だった。歴史の展開の中で多くのものが切り捨てられてきた中世の社会を、現代の視点から、またさまざまな場から探る。

34 秀吉の朝鮮侵略

北島万次 著 112頁 54340-9 C1321 (02. 7)

豊臣秀吉が抱いた海外制覇の野望としての朝鮮侵略の経緯と問題点を、日本・朝鮮・明3国の史料を読み解き、エピソードを折り込みながら、その全貌を描く。

35 町屋と町並み

伊藤 毅 著 116頁 54350-8 C1321 (07. 7)

古代から現代の町屋の展開過程を、京都・江戸・大坂に代表される巨大都市の歴史と絡めて跡づけるとともに、都市における建築のあるべき姿の一端を探る。

36 江戸幕府と朝廷

高埜利彦 著 112頁 54360-7 C1321 (01. 5)

姿の見えにくいといわれる江戸時代の天皇や朝廷の位置づけ・役割などを幕府の政策を中心に描くとともに、なぜ王政復古という形で明治維新にいったのかを明かす。

37 キリシタン禁制と民衆の宗教

村井早苗 著 112頁 54370-6 C1321 (02. 7)

江戸幕府のキリシタン禁制による弾圧の状況と、民衆の宗教生活の実態を明らかにし、キリシタン禁制の展開と寺請・檀家制度の成立過程とを関連づけて検討する。

38 慶安の触書は出されたか

山本英二 著 100頁 54380-5 C1321 (02. 7)

歴史の教科書に必ず登場する慶安の触書は、本当に実在したのだろうか。一片の法令の謎解きを通して、江戸時代の幕府と各地の大名・旗本、村と百姓を考察する。

39 近世村人のライフサイクル

大藤 修 著 116頁 54390-4 C1321 (03. 1)

近世の家と村に生きた男女の描いた基本的なライフサイクルの軌跡をたどり、社会がはらむ諸問題と彼らの人生観、生と死をめぐる多様な問題を解き明かす。

40 都市大坂と非人

塚田 孝 著 104頁 54400-0 C1321 (01.11)

大坂の非人の具体像に肉迫しながら、近世の身分制の特徴を浮き彫りにするとともに、都市の時代でもある近世の社会構造の特質を描く。

41 対馬からみた日朝関係

鶴田 啓 著 116頁 54410-9 C1321 (06. 8)

日本と朝鮮半島の交流に深く関わってきた対馬。朝鮮との貿易・外交において対馬藩が果たした役割や、藩政の推移を通して、近世の日朝関係を描く。

42 琉球の王権とグスク

安里 進 著 112頁 54420-8 C1321 (06.12)

大型グスクと王陵の発掘成果から、琉球王権と太陽子(てだこ)思想の成立の問題に迫る。文献資料や絵地図の分析を加え、新視点から琉球王国の成立と展開を描く。

43 琉球と日本・中国

紙屋敦之 著 104頁 54430-7 C1321 (03. 8)

琉球はその昔、独立した国家だった。近世、日本の支配下に置かれたが、琉球処分に至るまで王国として存続した。琉球が王国として存在しえた理由を明らかにする。

44 描かれた近世都市

杉森哲也 著 116頁 54440-6 C1321 (03.11)

初期洋風画として捉えられてきた世界図・都市図屏風を、作成の経過・歴史、日欧交流の視点から考察し、都市図屏風研究の中に位置づける。

45 武家奉公人と労働社会

森下 徹 著 112頁 54450-5 C1321 (07. 2)

武家奉公人は、単純な労働に従事して日々の糧をえる日用層だった。武士がどんな形で彼らを必要とし、確保していたかを手がかりに、近世都市の労働社会に迫る。

46 天文方と陰陽道

林 淳 著 100頁 54460-4 C1321 (06. 8)

国家体制の確立、テクノロジー、王朝交代、冊封体制の4テーマのもとに、幕府天文方と朝廷の陰陽頭・土御門家の動向を追いながら、近世の改暦について考える。

47 海の道、川の手

斎藤善之 著 112頁 54470-3 C1321 (03. 9)

近世社会の流通を担った舟運の諸相を、諸国廻船から高瀬舟まで紹介する。現地に残る遺物や聞き取り調査から、その繁栄や、舟運を担った人々の姿を描きだす。

48 近世の三大改革

藤田 覚 著 112頁 54480-2 C1321 (02. 3)

享保・寛政・天保の改革は、どのような矛盾や危機に対応したのだろうか。賄賂や汚職が横行した悪政の仕組みや、対外的危機との関連から、改革の意味を問い直す。

49 八州廻りと博徒

落合延孝 著 108頁 54490-1 C1321 (02.11)

八州廻りや火附盗賊改の動向の中から、無宿から民衆のヒーローとして英雄化された国定忠治伝説の形成過程を、地域社会秩序の動揺と民衆文化の視点から探る。

50 アイヌ民族の軌跡

浪川健治 著 104頁 54500-7 C1321 (04. 8)

中継交易者として北の世界を結びつけていたアイヌ民族。北から南に連なる列島弧における文化と社会のあり方を、「時」という視点から問い直す。

51 錦絵を読む

浅野秀剛 著 112頁 54510-6 C1321 (02. 9)

錦絵の主要な画題である美人風俗画・役者風俗画・名所風俗画を楽しく読み解きながら、作品の背景や作者、絵画文化を成立させた社会の有様を探る。

52 草山の語る近世

水本邦彦 著 108頁 54520-5 C1321 (03. 7)

近世は人と自然の関係史にとって大転換点であった。人は生業を通じて山野と深い繋がりをもっていた。稲作が満面開花した江戸時代の、人と草山の関わりを探る。

53 21世紀の「江戸」

吉田伸之 著 112頁 54530-4 C1321 (04.11)

町屋敷・両国・紙屑買という三つの素材から、巨大城下町「江戸」に生きた無名の人々の全体史を描き、現代社会とのつながりを考える。

54 近代歌謡の軌跡

倉田喜弘 著 104頁 54540-3 C1321 (02. 5)

人々の喜びや悲しみを映し出し、世相を表現する歌謡の世界をたどりながら、時代に翻弄されながらも生きぬく庶民の姿を描き、幕末から現代までの歴史を振り返る。

55 日本近代漫画の誕生

清水 勲 著 96頁 54550-2 C1321 (01. 7)

画像による政治風刺は幕末期からはじまった。近代漫画の誕生を振り返り、風刺漫画が持つ可能性や問題点を現代の視点から探る。

56 海を渡った日本人

岡部牧夫 著 104頁 54560-1 C1321 (02. 3)

海外移民の移住先の地域性・民族性の違いや、歴史の流れに翻弄されながら人生を切り拓いた移住者の姿を追う、近代日本の移民活動の全体像を素描する。

57 近代日本とアイヌ社会

麓 慎一 著 104頁 54570-0 C1321 (02.11)

近代日本とアイヌの間にはどのような関係が形成され、どのような問題があったのか。近世日本とアイヌ社会の関係を概括し、近代日本の関係を捉えなおす。

58 スポーツと政治

坂上康博 著 112頁 54580-9 C1321 (01.11)

スポーツがもつ政治的な働きを、歴史の文脈のなかで詳細に分析し、近代天皇制や国民統合、ファシズムなど現代史の重要な論点へと導く。

59 近代化の旗手、鉄道

堤 一郎 著 112頁 54590-8 C1321 (01. 5)

新橋・横浜間の鉄道の開業から車両誕生の歴史を通して、日本人の創造性の足跡を振り返る。橋梁・トンネル・レールなどとともに鉄道の技術展開の歴史を概観。

60 情報化と国家・企業

石井寛治 著 104頁 54600-4 C1321 (02. 9)

日本の国民国家と資本制企業が、民衆の「社会的な存在」への成長とどのような関わりをもっていたかに力点をおき、情報化の進展とその意義を歴史的に検討する。

61 民衆宗教と国家神道

小澤 浩 著 116頁 54610-3 C1321 (04. 6)

民衆の救済を願う教祖らによって成立した民衆宗教と、近代天皇制国家が全ての国民に強制した国家神道の相克の歴史を捉え直し、今日の宗教観のあり方を問う。

62 日本社会保険の成立

相澤與一 著 116頁 54620-2 C1321 (03.11)

日本における社会保険の成立過程とその特性を、日本資本主義とその労働・社会問題の形成・展開にかかわらせて、日本社会保障前史を明らかにする。

63 歴史としての環境問題

本谷 勲 著 104頁 54630-1 C1321 (04. 8)

経済発展がもたらした公害や自然破壊を歴史的にみることで、その実態と本質をつかみ、潜在化・大規模化する今日の地球環境問題や社会の対応について考える。

64 近代日本の海外学術調査

山路勝彦 著 116頁 54640-0 C1321 (06. 5)

台湾・シベリア・南洋諸島・満州など、明治～戦前期に異文化研究を志した人類学者の足跡を、植民地行政との関わりをなかで考える。

65 戦争と知識人

北河賢三 著 104頁 54650-9 C1321 (03.11)

戦時期の全体主義の時代状況を追いながら、言論・思想統制が徹底されていく過程での参加・転向・抵抗という知識人の多様な動きを、多数の事例とともに概観する。

66 現代日本と沖縄

新崎盛暉 著 120頁 54660-8 C1321 (01. 9)

琉球処分にはじまる沖縄近代史を視野にいれながら、第二次世界大戦後の日米関係・返還以降の沖縄を問い返し、現代日本のありようを考える。

67 新安保体制下の日米関係

佐々木隆爾 著 116頁 54670-7 C1321 (07. 7)

1960年1月19日締結の新安保条約は、1字1句も変えられないまま現在も生き続けている。60年安保から9.11事件まで、新安保体制を軸に日米関係の変化の様相を描く。

68 戦後補償から考える日本とアジア

内海愛子 著 116頁 54680-6 C1321 (02. 1)

アジア太平洋戦争の終結から半世紀を経て今もお続く戦後補償・賠償の問題を通して、日本とアジア諸国との関係を今後の課題も含めて考える。

69 遺跡からみた古代の駅家

木本雅康 著 116頁 54681-3 C1321 (08. 2)

古代律令国家は、全国に道路をはりめぐらし、早馬を乗り継ぐための駅家を約16kmごとに置いた。近年の発掘成果や出土文字資料の検討を通して、駅家の機能に迫る。

70 古代の日本と加耶

田中俊明 著 112頁 54682-0 C1321 (09. 1)

古代の朝鮮半島南部にあった小国群「加耶」。なかでも特に倭国との関わりが深く、最も近くに位置する加耶南部諸国の歴史的展開と倭国との関係の実相に迫る。

71 飛鳥の宮と寺

黒崎 直 著 116頁 54683-7 C1321 (07. 12)

国際的視野に立つ国家体制の確立が急務だった飛鳥時代に造営・整備された宮と寺。遺跡や景観として現在に残るその具体的な姿を、発掘成果などを通して復元する。

72 古代東国の石碑

前沢和之 著 120頁 54684-4 C1321 (08. 12)

東国に現存する「日本三古碑」を含む6基の石碑・石塔を、歴史資料として積極的に位置づけ、古代東国の歴史像解明への糸口を探る。

73 律令制とはなにか

大津 透 著 100頁 54685-1 C1321 (13. 3)

日本古代国家の枠組みを規定し、日本の歴史の基礎となった律令制。単に律令国家の制度の解説ではなく、古代国家の支配の特色を、わかりやすく解説する。

74 正倉院宝物の世界

杉本一樹 著 112頁 54686-8 C1321 (10. 6)

正倉院に伝来した数多くの宝物と、残された大量の記録資料は、奈良時代に始まる歴史の生きた姿といえる。日本史を学ぶ人のために、正倉院宝物を広く紹介する。

75 日宋貿易と「硫黄の道」

山内晋次 著 96頁 54687-5 C1321 (09. 8)

日宋貿易における日本の重要な輸出品の一つであった「硫黄」の動きをアジア各地の史料から探り、アジア諸地域との歴史のつながりを描き出す。

76 荘園絵図が語る古代・中世

藤田裕嗣 著 116頁 54688-2 C1321 (09. 1)

西大寺とその周辺を描く、西大寺所蔵の絵図十数点を取りあげ、荘園絵図の史料学的研究と歴史地理学的な現地調査の成果をふまえ、古代・中世の荘園像を復原する。

77 対馬と海峡の中世史

佐伯弘次 著 112頁 54689-9 C1321 (08. 4)

国境の島、対馬。東アジア世界や日本国内の動向はこの島に何をもたらしたのか？今日まで続く対馬と朝鮮半島との交流の原点を中世に探る。

78 中世の書物と学問

小川剛生 著 120頁 54690-5 C1321 (09. 12)

中世の人々はどうのように書物を利用し、学問を紡ぎ出したのだろうか。古典研究の展開を辿りながら、中世の学問の一端に触れる。

79 史料としての猫絵

藤原重雄 著 112頁 54691-2 C1321 (14. 5)

一枚の猫の絵を事例に、そこに流れ込むイメージの歴史を解きほぐし、中世・近世の文化を透かし見る。図像学から、史料としての絵画が語る歴史に耳を傾ける。

80 寺社と芸能の中世

安田次郎 著 100頁 54692-9 C1321 (09. 4)

中世の僧や神官たちが楽しんでいた田楽・猿楽・延年などの芸能を通して、寺社や政治・社会の動向を歴史学的に考察する。

81 一揆の世界と法

久留島典子 著 120頁 54693-6 C1321 (11. 1)

特色ある中世一揆の諸相を具体的に跡づけ、一揆契状や掟書など一揆の法に着目することで、一揆と権力の関係、中世から近世への社会移行の性格を考える。

82 戦国時代の天皇

末柄 豊 著 120頁 54694-3 C1321 (18. 7)

朝廷を支えてきた室町幕府が衰退し、朝廷の活動は著しく縮小した。天皇の日記等から、仕事やくらし、廷臣との関係を解明し、天皇が何を守ろうとしたかを考える。

83 日本史のなかの戦国時代

山田邦明 著 112頁 54695-0 C1321 (13. 7)

戦国時代は日本の歴史の中でどのように位置づけられているのか。「人々の考え方や行動のあり方」と「社会のしくみ」がどう変わったかに焦点をあてて考察する。

84 兵と農の分離

吉田ゆり子 著 112頁 54696-7 C1321 (08. 7)

戦国時代から江戸時代に至る激動の時期に進んだ「兵農分離」といわれる社会の変化を、地域に残された史料をもとに解き明かす。

85 江戸時代のお触れ

藤井譲治 著 104頁 54697-4 C1321 (13. 7)

江戸の町に出されたお触れの事例をとりあげながら、どのように作られ伝えられたのか、どのように伝達システムが生まれたのかを紹介する。

86 江戸時代の神社

高埜利彦 著 116頁 54698-1 C1321 (19. 6)

江戸幕府のもとで神社や神道、宮中祭祀はどのように存在していたのか。さらに明治期以降、強大化した神社と、戦後に改まった今につながる神社の存在を捉え直す。

87 大名屋敷と江戸遺跡

宮崎勝美 著 112頁 54699-8 C1321 (08. 7)

東京大学本郷構内の遺跡(加賀藩江戸屋敷)の発掘成果をもとに、江戸時代前期の大名江戸屋敷の状況を、考古学的調査と文献・絵図などの史料を総合して復元する。

88 近世商人と市場

原 直史 著 104頁 54700-1 C1321 (17. 7)

近世は市場が大きく発展し、専門化・高度化された現代の市場の基礎がつくられた時代だった。魚肥を例にとりあげながら、商品流通の多様化と市場の特徴を解説。

89 近世鉱山をささえた人びと

荻慎一郎 著 112頁 54701-8 C1321 (12. 1)

近世の鉱山社会、浦、町は、村社会とは異なる固有性をもっていた。それぞれの固有性を抽出するとともにその共通性や時代性を考察し、近世後期の鉱山社会を描く。

90 「資源繁殖の時代」と日本の漁業

高橋美貴 著 112頁 54702-5 C1321 (07. 10)

水産資源問題への関心が国際的に高まる中、日本ではどのような漁政が進められたのか。資源保全史の視点から、19世紀の日本の漁業・漁政史を描く。

91 江戸の浄瑠璃文化

神田由築 著 112頁 54703-2 C1321 (09. 8)

広く民衆に親しまれ、人気を博した浄瑠璃の背景にある芸能者集団の活躍や、地方興行の隆盛など、浄瑠璃をとりまく近世後期の文化の諸相を紹介する。

92 江戸時代の老いと看取り

柳谷慶子 著 120頁 54704-9 C1321 (11. 10)

長寿化が進んだ江戸時代、人びとは老いといかに向き合ったのか。「老い」を、生きる・寿ぐ・看取るという観点から考える。

93 近世の淀川治水

村田路人 著 112頁 54705-6 C1321 (09. 4)

豊臣政権期および江戸時代における淀川治水の実態を、畿内河川整備事業の展開、国役普請制度の確立過程、河川管理制度のあり方などの側面から明らかにする。

94 日本民俗学の開拓者たち

福田アジオ 著 112頁 54706-3 C1321 (09. 8)

日本で独自に形成され発展した学問、民俗学。民俗学研究を開拓し、形成・発展に尽くした多彩な研究者とその業績を紹介しながら、民俗学の歴史を紐解く。

95 軍用地と都市・民衆

荒川章二 著 116頁 54707-0 C1321 (07. 10)

軍用地拡大の過程を、都市の発展との関連や民衆生活への影響を視野に入れながら考え、軍隊の存在や戦争を準備することの意味を、新しい視点から問い直す。

96 感染症の近代史

内海 孝 著 120頁 54708-7 C1321 (16. 10)

開港後に伝染病の流行に悩まされた日本は、西洋に学び検疫体制や衛生政策を整備していった。近代の歩みと世界規模の感染症の問題を考える。

97 陵墓と文化財の近代

高木博志 著 116頁 54709-4 C1321 (10. 1)

「20世紀の学知」と齟齬が生じるにもかかわらず「凍結」された陵墓の問題を、陵墓のみならず広く文化財を巡る歴史認識として捉える。

98 徳富蘇峰と大日本言論報国会

赤澤史朗 著 120頁 54710-0 C1321 (17. 4)

第二次世界大戦はイデオロギーの闘いでもあった。日本の思想戦の主体とされた大日本言論報国会と、会長徳富蘇峰の姿とともに、思想戦論の行き着く先を描く。

99 労働力動員と強制連行

西成田豊 著 100頁 54711-7 C1321 (09. 8)

アジア太平洋戦争のもとで、軍需産業や重要産業を担った労働者は、どのように動員され、調達されたのか。戦時日本経済を労働の側面から解き明かす。

100 科学技術政策

鈴木 淳 著 120頁 54712-4 C1321 (10. 6)

明治初年に、科学・技術という言葉ができてから、科学技術政策が成立するまでの歴史的経過をたどり、科学や技術をめぐる政策の変遷を明らかにする。

101 占領・復興期の日米関係

佐々木隆爾 著 120頁 54713-1 C1321 (08. 8)

戦後の日本は、占領期・冷戦時代・朝鮮戦争・日米安保条約締結・高度経済成長政策などを経て、どのように変化してきたのか、歴史の脈絡のなかでとらえ直す。

日本史リブレット人 全10巻

加藤友康 五味文彦 鈴木 淳 高埜利彦 監修



A5変型判 並製・カバー装 本文10ボ縦一段組
頭注縦8ボ組 平均96頁 各880円(本体800円)

人をとおして時代をよむ！

古代から近代まで、最新の学界の動向・情報をふまえ、時代を象徴する興趣に富んだ魅力ある人物100人を選定。人は時代と社会の中で、どのように生き、庶民や政治・社会・文化などに、どのような影響を及ぼし、貢献したのだろうか。具体的な活動を時代背景とともに語る。

1 卑弥呼と台与

倭国の女王たち

仁藤敦史 著

「魏志」倭人伝や最新の考古学的成果をもとに、近年有力となった畿内説の立場で、東アジア史の観点から卑弥呼の王権と公孫氏や魏王朝との外交関係を検討する。

96頁

54801-5 C1321 (09.10)

2 倭の五王

5世紀の東アジアと倭王群像

森 公章 著

5世紀の倭国と宋との通交のようすや、背景となる朝鮮諸国との関係、倭国の形成過程など、さまざまな問題にふれながら、倭の五王の人物像に迫る。

96頁

54802-2 C1321 (10. 4)

3 蘇我大臣家

倭王権を支えた雄族

佐藤長門 著

稲目・馬子・蝦夷・入鹿と大臣を世襲した蘇我氏。王権内で生き抜くため、外戚関係を作り、群臣の支持獲得に努めた。最新の研究成果から盛衰の経緯と要因を探る。

112頁

54803-9 C1321 (16. 5)

4 聖徳太子

倭国の「大国」化をになった皇子

大平 聡 著

推古天皇の時代、大国となるために仏教と儒教の摂取の大役を任された聖徳太子。権力中枢に加わった初代の王族、太子の政治的位置・役割を探り、その時代を考える。

96頁

54804-6 C1321 (14. 4)

5 天智天皇

須原祥二 著

未刊

54805-3

6 天武天皇と持統天皇

律令国家を確立した二人の君主

義江明子 著

律令国家体制の確立に力をつくした二人の君主。木簡・遺跡などの新資料や最新の研究動向をもとに、激動期に生きた夫妻を、時代のなかに位置づける。

104頁

54806-0 C1321 (14. 6)

7 聖武天皇

帝王としての自覚と苦悩

寺崎保広 著

華やかな天平文化の中心にあった聖武天皇。しかし晩年には様々な苦難が重なり、仏教に没頭してゆく。奈良時代を代表する天皇の人物像を、その言葉とともに描く。

100頁

54807-7 C1321 (20. 3)

8 行基

鈴木景二 著
未刊

54808-4

9 藤原不比等

坂上康俊 著
未刊

54809-1

10 大伴家持

氏族の「伝統」を背負う貴公子の苦悩

鐘江宏之 著

権力者の盛衰に翻弄されるなかで、家持を支えたのは名門大伴氏の名誉と誇りであった。疫病・政争・戦争のなかを生きぬいた、奈良時代の貴族の生涯をたどる。

112頁

54810-7 C1321 (15, 2)

11 桓武天皇

造都と征夷を宿命づけられた帝王

西本昌弘 著

長岡・平安遷都、征夷戦の勝利など、不世出の帝王と呼ばれた桓武天皇の事績を追いながら、新たな時代の扉を開く過程を追う。

100頁

54811-4 C1321 (13, 1)

12 空海

日本密教を改革した遍歴行者

曾根正人 著

日本の仏教に大きな役割を果たした空海だが、奈良仏教との関係や伝記には問題点も指摘されている。それらを踏まえて空海の生涯と時代を照射し直す。

96頁

54812-1 C1321 (12, 7)

13 円仁と円珍

平野卓治 著
未刊

54813-8

14 菅原道真

神になった天才詩人

大隅清陽 著

学者として異例の右大臣に昇進しながら、大宰府で非業の死を遂げ、天神となった道真。苦悩に満ちた生涯に確かな史料と最新の研究から迫る。

112頁

54814-5 C1321 (24, 8)

15 藤原良房

天皇制を安定に導いた摂関政治

今 正秀 著

平安時代王朝貴族政治の代名詞ともいえる摂関政治。最初の摂政となった良房の歩みをたどり、摂関政治成立の意義を問い直す。

104頁

54815-2 C1321 (12, 7)

16 宇多天皇と醍醐天皇

川尻秋生 著
未刊

54816-9

17 平将門と藤原純友

天慶の乱、草創期武士の悲痛な叫び

下向井龍彦 著

平将門と藤原純友の反乱は、武士が王朝国家の軍勢力として活躍する新しい時代の幕開けとなった。二人は国家に何を望み、乱はどのように展開したのかを読み解く。

120頁

54817-6 C1321 (22, 8)

18 空也と源信

岡野浩二 著
未刊

54818-3

19 藤原道長

摂関期の政治と文化

大津 透 著

摂関政治の頂点の人物といわれる藤原道長の生涯を追い、その政治の特色を古代国家の歴史のなかに位置づけ、文化の達成を再評価する。

104頁

54819-0 C1321 (22.11)

20 清少納言と紫式部

和漢混淆の時代の宮の女房

丸山裕美子 著

『枕草子』と『源氏物語』は、歴史の流れのなかで生み出された。多くの共通点をもつ二人の文化的背景を読み解きながら、才能を開花させた和漢混淆の時代を描く。

104頁

54820-6 C1321 (15.10)

21 後三条天皇

中世の基礎を築いた君主

美川 圭 著

藤原頼道との長い政治闘争をへて即位、大内裏・内裏を復興し、その費用を荘園整理令で乗り切った。摂関政治に幕を引き、院政という新時代を開いた天皇に迫る。

96頁

54821-3 C1321 (16.9)

22 源義家

天下第一の武勇の士

野口 実 著

「文武兼備の稀代の名将」と「残虐を事とした暴力装置」という対極的な評価の間で揺れ動く義家の実像に迫る。

96頁

54822-0 C1321 (12.9)

23 奥州藤原三代

北方の覇者から平泉幕府構想へ

斉藤利男 著

日本国の枠を超えた国際性を有した平泉文化と、北方世界を支配していた奥州藤原氏。近年の研究で認識が一新した、奥州藤原氏と平泉の世界を訪ねる。

100頁

54823-7 C1321 (11.5)

24 後白河上皇

中世を招いた奇妙な「暗主」

遠藤基郎 著

奇異な行動から「暗主」と揶揄された後白河上皇。30余年にわたる院政の間、いくつもの窮地が訪れた波瀾万丈の生涯を追いながら、中世の幕開けの時代を考える。

96頁

54824-4 C1321 (11.1)

25 平清盛

「武家の世」を切り開いた政治家

上杉和彦 著

[電子書籍あり]

長く日本史上の悪役と評価され続けた平清盛。多彩な史料からその生涯を追い、虚像と実像を見極める。武士の時代の幕を開けた清盛の姿を描く。

96頁

54825-1 C1321 (11.5)

26 源頼朝

東国を選んだ武家の貴公子

高橋典幸 著

内乱の中で鎌倉幕府を開き、「鎌倉殿」と呼ばれる地位を築き上げた源頼朝の生涯を追いながら、東国や東国武士たちにもたらした影響について考える。

96頁

54826-8 C1321 (10.5)

27 重源と栄西

優れた実践的社会事業家・宗教者

久野修義 著

「源平内乱」という未曾有の社会的大変動後のあるべき社会と仏法を求めて、東アジア規模で活躍した実践的な二人の宗教者を見比べ、足跡をたどる。

96頁

54827-5 C1321 (11.11)

28 法然

貧しく劣った人びとと共に生きた僧

平 雅行 著

法然は人間の平等を説き、共に支え合う社会をめざした。法然の歩みをたどり、その思想が登場した歴史的背景を解明するとともに、専修念仏が迫害された要因を考察する。

96頁

54828-2 C1321 (18.6)

29 北条時政と北条政子

「鎌倉」の時代を担った父と娘

関 幸彦 著

東国の風土を背負った北条時政・政子の父娘は、伊豆・京都・鎌倉の三つの地域を舞台として、どのように行動したのだろうか。二人の生き様から、鎌倉時代を描く。

96頁

54829-9 C1321 (09.12)

30 藤原定家

芸術家の誕生

五味文彦 著

古典への情熱を持ち続け、和歌の黄金時代を築いた定家。日記『明月記』と、定家に大きな影響を与えた後鳥羽上皇との関係を通じて、その一生を探る。

104頁

54830-5 C1321 (14. 2)

31 後鳥羽上皇

杉橋隆夫 著
未刊

54831-2

32 北条泰時

三田武繁 著
未刊

54832-9

33 日蓮と一遍

予言と遊行の鎌倉新仏教者

佐々木馨 著

権力から疎んじられてなお多弁に説き続けた日蓮。すべての権力も超越し口を閉ざして乱舞した一遍。蒙古襲来の時代を、二人の宗教者はどのように生き抜いたのか。

104頁

54833-6 C1321 (10. 2)

34 北条時宗と安達泰盛

新しい幕府への胎動と抵抗

福島金治 著

生まれながらにして得宗・執権を約束された北条時宗と、それを支えた安達泰盛。時宗誕生から、霜月騒動に結果する改革の挫折まで、二人の歴史を描く。

104頁

54834-3 C1321 (10. 9)

35 北条高時と金沢貞顕

やさしさがもたらした鎌倉幕府滅亡

永井 晋 著

田楽・闘犬に熱狂した暗君という北条高時の人物像は果たして本当なのか。連署金沢貞顕の書状など幕府側の資料と突き合わせ、高時の人物像とその時代を検討する。

96頁

54835-0 C1321 (09.10)

36 足利尊氏と足利直義

動乱のなかの権威確立

山家浩樹 著

足利尊氏・直義は、兄弟で室町幕府を築き上げたが、対立して観応の擾乱となる。両者の個性や政策を取り上げながら、共同統治の安定期に焦点をあてて解説する。

104頁

54836-7 C1321 (18. 2)

37 後醍醐天皇

本郷和人 著
未刊

54837-4

38 北畠親房と今川了俊

近藤成一 著
未刊

54838-1

39 足利義満

法皇への夢を追った華麗な生涯

伊藤喜良 著

国内を統一するため、義満が武人を脱却して、文人としての権力者となり、武官と文官を従えていく。その経緯を、皇位や王権をめぐる問題を中心に考える。

96頁

54839-8 C1321 (10.11)

40 足利義政と日野富子

夫婦で担った室町将軍家

田端泰子 著

将軍家から民衆まで猿楽能に熱中するという、中世でもまれにみる混沌とし活気あふれるこの時代を、天皇家から民衆に至るさまざまな視点から描く。

100頁

54840-4 C1321 (11. 7)

41 蓮如

乱世の民衆とともに歩んだ宗教者

神田千里 著

本願寺教団の発展に尽力し、一向一揆にも影響を与えた真宗の宗教家蓮如。戦国乱世の社会や民衆と切り離すことのできない、蓮如の生涯と伝道の実像に迫る。

96頁

54841-1 C1321 (12, 9)

42 北条早雲

新しい時代の扉を押し開けた人

池上裕子 著

一代で伊豆と相模を平定し、検地をはじめ領国支配の仕組みをつくった北条早雲。関東に広大な勢力を築いた北条氏発展の基礎を、軍事と政策の両面から明らかにする。

104頁

54842-8 C1321 (17, 7)

43 武田信玄と毛利元就

思いがけない巨大な勢力圏

嶋川達夫 著

東日本・西日本を代表する戦国武将である武田と毛利。当時の手紙や書類などを適切に読み込み、冷静な目で信玄・元就の実像を見直す。

96頁

54843-5 C1321 (11, 4)

44 フランシスコ=ザビエル

東方布教に身をさげた宣教師

浅見雅一 著

ヨーロッパのキリスト教世界と日本との関係を、キリスト教を基軸として構築したザビエルの生涯を追いつつ、ザビエルの日本布教とは何であったのかを考える。

104頁

54844-2 C1321 (11, 9)

45 織田信長

近代の胎動

藤田達生 著

本能寺の変の真相を再検討することで、天下統一の思想や政策、それにより生じた討伐抗争、足利義昭との対立などを解明し、信長政権という歴史の転換期に迫る。

120頁

54845-9 C1321 (18, 3)

46 徳川家康

時々を生き抜いた男

藤井譲治 著

「神君」のほか、忍従・冷酷・策士・狡猾といったイメージもある徳川家康。後世につくられた家康像から脱却するために、古文書・古記録などに基づき、その実像を描く。

116頁

54846-6 C1321 (21, 4)

47 後水尾院と東福門院

山口和夫 著

未刊

54847-3

48 徳川光圀

「黄門さま」で名高い水戸藩主

鈴木暎一 著

思想家として一級の学識を備え、終生武人の矜持と覚悟を忘れることがなかった光圀。「黄門さま」がなぜ伝えられたのか。史実としての人物像を明らかにする。

100頁

54848-0 C1321 (10, 11)

49 徳川綱吉

犬を愛護した江戸幕府五代将軍

福田千鶴 著

徳川綱吉は、悪政のイメージがつきまとう一方、文化史上欠かせない事業を施した。天下人たる将軍は元禄の世にどう向き合おうとしたのか、綱吉の目線に迫る。

96頁

54849-7 C1321 (10, 7)

50 渋川春海

失われた暦を求めて

林 淳 著

幕府重臣の保科正之のもと、800年以上使われた暦を修正し、貞享暦を作成した渋川春海。正之を囲む教養人や土御門家との交流、改暦への道程やその影響を描く。

104頁

54850-3 C1321 (18, 11)

51 徳川吉宗

日本社会の文明化を進めた将軍

大石 学 著

強力なリーダーシップで享保改革を行った吉宗。その結果、江戸社会では日本型システムが確立した。吉宗の一生をたどり、実像と享保改革の意義をみていく。

104頁

54851-0 C1321 (12, 11)

52 田沼意次

「商業革命」と江戸城政治家

深谷克己 著

最晩年にみずからの感懷を書き残した史料に光をあて、重商主義的と評価されている田沼時代の多様な経済政策を、「商業革命の時代」という枠組みで解説する。

104頁

54852-7 C1321 (10.11)

53 遠山景元

老中にたてついた名奉行

藤田 覚 著

「遠山の金さん」として馴染み深い、なぜ後世に名を残すことになったのだろうか。天保改革で、老中と対立した諸政策を通して、江戸幕府の行政や役人の姿を捉える。

96頁

54853-4 C1321 (09.10)

54 酒井抱一

大江戸にあそぶ美の文人

玉蟲敏子 著

姫路藩主酒井家に生まれながら、江戸の市井に生きる美の文人となった琳派の巨匠 酒井抱一。その足跡と交遊・作品をたどり、江戸の都市文化を追体験する。

104頁

54854-1 C1321 (18.6)

55 葛飾北斎

浮世絵風景画の大成者

大久保純一 著

北斎70歳の傑作「神奈川沖浪裏」は、いかにして生まれたか。浮世絵に風景画というジャンルを確立させた北斎が、その高みまで至る道筋を豊富な画像でたどる。

112頁

54855-8 C1321 (23.10)

56 塙保己一

高埜利彦 著

未刊

54856-5

57 伊能忠敬

日本をはじめて測った愚直の人

星埜由尚 著

50歳を過ぎてから地球一周分を歩き、はじめて実地に測量して日本地図を作った伊能忠敬。忠敬の生きた時代や、伊能図の意義を考察するとともに、その人生に学ぶ。

100頁

54857-2 C1321 (10.4)

58 近藤重蔵と近藤富蔵

寛政改革の光と影

谷本晃久 著

長崎や蝦夷地で活躍し、御家人から旗本に昇進した重蔵。刃傷沙汰を起し改易・流罪となった重蔵の子、富蔵。寛政改革を機に抜擢された旗本家の姿とその後を描く。

104頁

54858-9 C1321 (14.4)

59 二宮尊徳

舟橋明宏 著

未刊

54859-6

60 平田篤胤と佐藤信淵

小野 将 著

未刊

54860-2

61 大原幽学と飯岡助五郎

遊説と遊侠の地域再編

高橋 敏 著

幕末の東総地域において、村落復興運動を展開した浪人大原幽学と、遊侠の博徒飯岡助五郎が織りなす、地域社会再編の事件と顛末に焦点をあてる。

96頁

54861-9 C1321 (11.1)

62 ケンペルとシーボルト

「鎖国」日本を語った異国人たち

松井洋子 著

出島のオランダ商館医師として来日したケンペルとシーボルトは、日本をどのように伝え、どう受け止められたのか、二人の状況の違いにも着目しながら跡づける。

100頁

54862-6 C1321 (10.9)

63 小林一茶

時代をよむ俳諧師

青木美智男 著

慈愛に満ち滑稽味あふれる句をよんだ俳諧師小林一茶は、一方で古典にも精通し、真摯に時代をみつめる人物でもあった。新視点から新たな一茶像を描く。

104頁

54863-3 C1321 (12, 1)

64 鶴屋南北

笑いを武器に秩序を転換する道化師

諏訪春雄 著

身分、男と女、親と子、信仰など、区別が厳しかった江戸時代に、笑いを駆使して、固定した秩序を転換してみせた歌舞伎狂言作者、南北の生きざまに学ぶ。

96頁

54864-0 C1321 (10, 2)

65 中山みき

「心直し」から「世直し」を説いた生き神教祖

小澤 浩 著

幕末維新の動乱期に生きた、天理教の教祖中山みきの生涯とその思想から、宗教の枠組みを超えて人間観・歴史観を見直す。

104頁

54865-7 C1321 (12, 11)

66 勝小吉と勝海舟

「父子鷹」の明治維新

大口勇次郎 著

自伝「夢酔独言」で知られる小吉と、江戸無血開城を成し遂げた海舟。激動する維新时期を前後にして下級の旗本出身として苦闘した、親子二人の生き方をたどる。

104頁

54866-4 C1321 (13, 4)

67 坂本龍馬

海洋の志士

井上 勲 著

坂本龍馬は、郷土という身分の中間層に生を享けて、幕末の主たる政治団体との交流をもった。身分と政治団体との境界人が幕末の日本を奔走する姿を追う。

96頁

54867-1 C1321 (09, 12)

68 土方歳三と榎本武揚

幕臣たちの戊辰・箱館戦争

宮地正人 著

新政府軍に敗れた旧幕軍は、甲州から奥州、箱館へ転戦してゆく。幕府の解体過程を辿りつつ、激動の幕末に旧幕軍のキーパーソンとして活躍した二人の生き様を描く。

120頁

54868-8 C1321 (18, 7)

69 徳川慶喜

最後の将軍と明治維新

松尾正人 著

一年余で将軍職を投げ出さざるをえなかった幕末の時代状況を分析し、慶喜の足跡を検証する。また、その希有な後半生を明らかにする。

104頁

54869-5 C1321 (11, 9)

70 木戸孝允

「勤王の志士」の本音と建前

一坂太郎 著

開国問題を機に、天皇の政治的権威が急速に高まった幕末。朝敵の烙印を押された長州藩を復讐させ、明治維新の栄光を背負わせた立役者の生涯を追う。

96頁

54870-1 C1321 (10, 7)

71 西郷隆盛

明治維新の先覚者

徳永和喜 著

明治維新の功労者とたたえられ、今も多くの人びとに慕われている西郷隆盛。彼の残した手紙や当時の記録をもとに、激動の時代に、いかに日本をリードしたかを描く。

120頁

54871-8 C1321 (22, 1)

72 大久保利通

明治維新と志の政治家

佐々木克 著

幕末政治への登場から、明治国家の創業、政府の中心となる内務卿時代まで、政治活動を追いながら、その人物像に触れる。岩倉具視や西郷隆盛との関係にも迫る。

100頁

54872-5 C1321 (09, 12)

73 明治天皇と昭憲皇太后

佐々木隆 著

未刊

54873-2

74 岩倉具視

幕末維新期の調停者

坂本一登 著

幕末維新期の大きな変革の時代の中で、国家建設のために生涯をささげた岩倉具視。これまでのさまざまな評価を再検討しながら、政治家岩倉としての姿を描く。

112頁

54874-9 C1321 (18. 7)

75 後藤象二郎

村瀬信一 著

未刊

54875-6

76 福澤諭吉と大隈重信

洋学書生の幕末維新

池田勇太 著

福澤諭吉と大隈重信は、近代日本をリードして、新しい時代を切り拓いていった。二人の洋学書生が、いかなる行路を経て明治の舞台に上っていったのかをたどる。

100頁

54876-3 C1321 (12. 5)

77 伊藤博文と山県有朋

西川 誠 著

未刊

54877-0

78 井上馨

神山恒雄 著

未刊

54878-7

79 河野広中と田中正造

田崎公司 著

未刊

54879-4

80 尚泰

最後の琉球王

川畑 恵 著

琉球国中山王でありながら、日本の華族となることを選択した尚泰。激動の東アジア情勢を体現するかのようなその生涯を、琉球処分という歴史過程のなかで捉える。

104頁

54880-0 C1321 (19. 7)

81 森有礼と内村鑑三

狐塚裕子 著

未刊

54881-7

82 重野安繹と久米邦武

「正史」を夢見た歴史家

松沢裕作 著

明治政府の官吏として国家の「正史」執筆を求められた二人の栄光と挫折の軌跡を追うことで、歴史研究の意味を改めて考える。

96頁

54882-4 C1321 (12. 3)

83 徳富蘇峰

日本の生める最大の新聞記者

中野目徹 著

「平民主義」から「帝国主義」「皇室中心主義」へと主張を大きく転換した蘇峰。その生涯と思想を、多方面からとらえ直す。

116頁

54883-1 C1321 (23. 5)

84 岡倉天心と大川周明

「アジア」を考えた知識人たち

塩出浩之 著

岡倉天心・大川周明という二人の知識人が展開した言論活動について分析し、近代日本にとっての「アジア」の意味を考える。

104頁

54884-8 C1321 (11. 5)

85 渋沢栄一

近代日本社会の創造者

井上 潤 著

道徳のともなう正当な利益を追求し、官尊民卑の打破をめざし、利益よりも公益を重視した、近代日本社会の創造者渋沢栄一の92年の生涯を振り返る。

100頁

54885-5 C1321 (12. 3)

86 三野村利左衛門と益田孝

三井財閥の礎を築いた人びと

森田貴子 著

幕末の開港から明治期にかけて、三井と日本の社会があらゆる歴史とともに、政治的・経済的な危機を乗り越え活躍した二人の実業家について考える。

100頁

54886-2 C1321 (11.11)

87 ボワソナード

「日本近代法の父」の殉教

池田眞朗 著

明治日本の近代法制導入から、外交交渉・条約改正にいたるまで八面六臂の活躍をしたボワソナード。明治政府の指導者たちの数奇な運命とともに、彼の足跡を描き出す。

116頁

54887-9 C1321 (22. 3)

88 島地黙雷

「政教分離」をもたらした僧侶

山口輝臣 著

明治維新後、あらたな宗教制度の構築を導いた黙雷。仏教の役割をキリスト教との対抗の中に見出した一僧侶が、政教分離を主張する手腕を発揮できたのはなぜか。

104頁

54888-6 C1321 (13. 1)

89 児玉源太郎

明治陸軍のリーダーシップ

大澤博明 著

明治期の陸軍の参謀、台湾の統治者、日露戦争の指導者として、軍事と政治に力を発揮した児玉。その生涯を日本の軍事的近代化の中で、彼の指導力に着目して追う。

104頁

54889-3 C1321 (14. 9)

90 西園寺公望

政党政治の元老

永井 和 著

明治・大正・昭和を生きた政治家西園寺公望。なぜ西園寺が「最後の元老」となったのかを解明し、明治憲法下の日本で政党政治がいかに定着できたのかを考える。

104頁

54890-9 C1321 (18. 3)

91 桂太郎と森鷗外

ドイツ留学生のその後の軌跡

荒木康彦 著

19世紀後半にドイツ留学をした桂太郎と森鷗外の動きを追う、日本がドイツの国制・軍制・学術などを吸収して近代国家を構築していく過程の一端を明示する。

104頁

54891-6 C1321 (12. 5)

92 高峰譲吉と豊田佐吉

鈴木 淳 著

未刊

54892-3

93 平塚らいてう

信じる道を歩み続けた婦人運動家

差波亜紀子 著

伝統的な女性像からの解放のため、臆せず声をあげ、羨望と非難を集めて世に出たらいてう。婦人参政権運動や平和運動など、多くの課題に取り組んだ生涯をたどる。

100頁

54893-0 C1321 (19. 2)

94 原敬

日本政党政治の原点

季武嘉也 著

黒船来航・自由民権・第一次世界大戦という、激動の時代に翻弄され、浮沈をくり返しながらも、自分の手で時代を創っていった原敬の生涯を描く。

96頁

54894-7 C1321 (10. 5)

95 美濃部達吉と吉野作造

大正デモクラシーを導いた帝大教授

古川江里子 著

政党内閣誕生に貢献し、日本の民主主義の礎を築いた美濃部と吉野。両者の奮闘と軍部の台頭による挫折から、戦前の民主的思想や政治・社会の問題を考える。

104頁

54895-4 C1321 (11. 7)

96 斎藤実

小林和幸 著
未刊

54896-1

97 田中義一

加藤陽子 著
未刊

54897-8

98 松岡洋右

田浦雅徳 著
未刊

54898-5

99 溥儀

変転する政治に翻弄された生涯
塚瀬 進 著

清朝最後の皇帝，清朝復活による復位，そして満洲国皇帝として三度皇帝に即位した溥儀。その生涯を，彼の生きた時代，当時の政治状況のなかに位置づける。

96頁

54899-2 C1321 (15, 7)

100 東条英機

太平洋戦争を始めた軍人宰相
古川隆久 著

国家の興廃がかかった問題を決すべき時に，なぜ首相となったのだろうか。戦争にいたる経緯と戦争下の日本の歴史を振り返りながら，政治と軍事について考える。

100頁

54900-5 C1321 (09, 12)

史学会シンポジウム叢書



A 5判 上製・カバー装 本文9ボ縦一段組

史学会シンポジウムの熱気を凝縮！

史学会大会でのシンポジウムの報告にもとづいた論文を軸に、さらに問題検討の幅を広げるために、討論の内容をふまえた論文を掲載して構成。

商人と流通

近世から近代へ

吉田伸之 高村直助 編

斎藤善之 原直史 差波亜紀子
中西聡 小泉和子 鈴木ゆり子

1991年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。従来の商人史・流通史といった分野史の枠をこえ、また時代史の「領分」の内にとどまることなく、当時の社会構成全体を見直し、近世から近代への移行過程を連続的に検証する。

432頁

品切 6,835円(本体6,214円)

61610-3 C3021 (92.12)

都市と商人・芸能民

中世から近世へ

五味文彦 吉田伸之 編

宇佐見隆之 桜井英治 神田由築
伊藤毅 伊藤裕久 岩淵令治

1992年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。中世から近世への転換を、人と空間(商人・芸能民と都市)に焦点をあて、商業活動や芸能の場がどのように変化していったかを、新知見をふまえて解明する。

304頁

品切 6,270円(本体5,700円)

61480-2 C3021 (93.11)

城と館を掘る・読む

古代から中世へ

佐藤 信 五味文彦 編

坂井秀弥 大平聡 鐘江宏之
磯村幸男 小柳和宏 中澤克昭

1993年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。近年発掘調査事例が増す城・館の歴史について、日本史学・考古学・建築史学などの分野から論考する。とくに古代・中世の城・館の歴史に焦点をあて多角的に迫る。

256頁

品切 6,202円(本体5,638円)

61630-1 C3021 (94.11)

武家屋敷

空間と社会

宮崎勝美 吉田伸之 編

藤川昌樹 松尾信裕 成瀬晃司
松方冬子 原田佳伸 森下徹

1993年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。江戸・京都・大坂を事例として、近世の武家地・武家屋敷・武家社会の特質を、近世考古学や社会史などの分野から検証する。

272頁

品切 6,202円(本体5,638円)

61640-0 C3021 (94.11)

中世東国の物流と都市

峰岸純夫 村井章介 編

吉岡康暢 阿部浩一 佐藤博信 宮瀧交二
浅野晴樹 田中克行 湯浅治久 柴田龍司 斎藤直子

1994年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。中世東国における生産地と消費地を結ぶ物流の効率的手段の実態、水運・陸運の結節点としての「都市的な場」や、そこにおける商業・金融業の実態を、文献史学・考古学などの観点から解明する。

304頁

品切 5,238円(本体4,762円)

61670-7 C3021 (95.11)

近世の社会集団

由緒と言説

久留島浩 吉田伸之 編

後藤雅知 西田かほる 井上容子 小野将
鈴木ゆり子 渡辺尚志 渡辺浩一

1994年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。国家とは異なる次元における多様な社会集団を素材に、独自の伝統を発明あるいは再発見しつつ、固有の言説を獲得してゆく過程を、多様な角度から論考する。

352頁

品切 5,661円(本体5,146円)

61680-6 C3021 (95.11)

土地と在地の世界をさぐる

古代から中世へ

佐藤 信 五味文彦 編

三谷芳幸 小口雅史 松村恵司
鈴木景二 飯沼賢司 井上聡 服部英雄

古代から中世にかけて、売券の分析や荘園の発掘調査などにより、土地と結びついた在地の世界を探る方法について、さまざまな試みを再検討する。1995年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。

320頁

品切 5,767円(本体5,243円)

61060-6 C3021 (96.11)

近世の社会的権力

権威とヘゲモニー

久留島浩 吉田伸之 編

志村洋 定兼学 岩城卓二 岩淵令治
中川すがね 小林文雄 神田由築

幕藩領主階級による支配権力とは別に、独自に都市や農村域に存在する中・小の多様な諸権力を総称する日本近世の「社会的権力」について論考する。1995年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。

304頁

品切 5,233円(本体4,757円)

61070-5 C3021 (96.11)

道と川の近代

高村直助 編

小林信也 小風秀雅 山崎有恒 鈴木淳
渡邊直子 長妻廣至 老川慶喜 堀勇良

明治前期を中心とする時期の道路と河川をめぐる諸問題を、実証的に論考し、まだ十分解明されていない分野へ多様な観点から迫る。1995年の史学会大会シンポジウムをもとに編集。

280頁

品切 5,233円(本体4,757円)

61050-7 C3021 (96.10)

境界の日本史

村井章介 佐藤 信 吉田伸之 編

小嶋芳孝 酒寄雅志 保立道久 柳原敏昭 永山修一 高橋裕
戸淵幹夫 石田文一 小西洋子 ブルース・バートン 高橋公明
佐伯弘次 菊池勇夫 鶴田啓 ロナルド・トビ 田中健夫 米谷均

第94回史学会大会日本史部会で開催されたシンポジウム「自己・他者・境界」をテーマに構成した論文集。古代～近世における境界のあり方の特徴と変貌させていく様相、日本をめぐる自己・他者の意識での境界について言及する。

344頁

品切 5,553円(本体5,048円)

61890-9 C3021 (97.11)

中世のみちと物流

藤原良章 村井章介 編

岡陽一郎 岡田章一 柴田龍司 宮瀧交二 竹田幸司
山口博之 河野真知郎 荒井健治 高橋博志 八重樫忠郎
飯村均 柳原敏昭 藤本頼人 阿部浩一

「発掘された中世古道」「道・宿・湊」の2つのシンポジウムをもとに、中世考古学と文献学の成果を盛り込んだ論文集。中世の道の構造やそこから出土する陶磁器をはじめとする遺物の存在は、中世の物流と人びとの交流を目の当たりにさせる。

296頁

品切 5,238円(本体4,762円)

52090-5 C3021 (99.11)

十七世紀の日本と東アジア

藤田 覚 編

木村直樹 米谷均 大橋幸泰 豊見山和行 松方冬子 鶴田啓

17世紀における日本と東アジア・ヨーロッパ諸国との関係を、形成過程と構造、さらにその具体像などの面から議論する。1999年史学会大会シンポジウムをもとに編集。

232頁

品切 3,850円(本体3,500円)

52100-1 C3021 (00.11)

幕藩制改革の展開

藤田 覚 編

大石学 菊池勇夫 白井哲哉
桜井昭男 小林信也 金森正也

幕府の三大改革研究の現状を提示し、社会構造・対外関係の変動と政治改革の関係を追究する。そのことを通して、18世紀から19世紀半ばまでの政治史研究の発展方向を模索する。

248頁

品切 4,180円(本体3,800円)

52160-5 C3021 (01.11)

工部省とその時代

鈴木 淳 編

神山恒雄 柿原泰 橋本毅彦 中村尚史
山崎有恒 高村直助 山根伸洋 西川誠

明治3年に創設された工部省は官営事業の担い手として、近代日本の政治・行政などに貢献したが、18年廃省になる。工部省に焦点を合わせつつ、その外部まで視野にいれ分析を行ったシンポジウム(2001年)の書籍化。

272頁

品切 4,400円(本体4,000円)

52240-4 C3021 (02.11)

水産の社会史

後藤雅知 吉田伸之 編

高橋美貴 實形裕介 東幸代 宇佐見隆之
高木昭作 定兼学 伊藤康宏

近年の漁業・漁村史研究は個別事例の積み重ねだけで、総括する議論や共通の枠組みを提起できていない。近世漁業社会の構造的特質や差異性に注目し、従来の研究状況を打開しようとしたシンポジウム(2001年)の書籍化。

280頁

品切 4,400円(本体4,000円)

52250-3 C3021 (02.11)

流通と幕藩権力

吉田伸之 編

永原健彦 藤田雅子 多和田雅保
西向宏介 森下徹 川勝守生

各地の国産品と藩権力などの事例をとりあげ、近世の流通論・問屋-商人論を、新しい研究動向をふまえて一段と深化させ、流通と幕藩権力との関係構造を検討する。旧来の幕藩権力による専売制を再検討する。

240頁

品切 4,400円(本体4,000円)

52350-0 C3021 (04.11)

近世法の再検討

歴史学と法史学の対話

藤田 覚 編

大平祐一 和仁かや 高塩博 吉田正志
荒木裕行 木村直樹 川勝守生

触書・法度・禁制などの近世の法について、「慶安の触書」など存否が議論になる法もでてきた。近世史研究では、近世の基本的で重要な法の再検討が進みつつある。2004年史学会大会での発表者と、歴史学から1名・法史学から3名を加えて書籍化。

240頁

品切 4,400円(本体4,000円)

52352-4 C3021 (05.10)

世界遺産と歴史学

佐藤 信 編

青柳正規 松田陽 本中眞 増渕徹 寺西貞弘 入間田宣夫
五味文彦 鶴間和幸 吉田光男 羽田正 桜井万里子

世界遺産のもつ意義や問題点について、歴史学の立場から検討する。日本史・東洋史・西洋史における注目される具体例をとりあげながら、保護活動の過程でみえてきた諸課題を掘り下げ、歴史学の役割を探る。2004年シンポジウムに諸論考を増補し書籍化。

240頁

品切 4,400円(本体4,000円)

52351-7 C3021 (05.12)

王権を考える

前近代日本の天皇と権力

大津 透 編

大平聡 春名宏昭 古瀬奈津子 河内祥輔 五味文彦
新田一郎 池享 藤田覚 堀新 山口和夫

「王権」をキーワードに、前近代を通して国家や権力・権威について考える。近年、日本史研究でしばしば用いられる「王権」という語の多様性や問題点を提示する。2005年史学会大会日本史部会シンポジウムの書籍化。

264頁

4,400円(本体4,000円)

52353-1 C3021 (06.11)

前近代の日本列島と朝鮮半島

佐藤 信 藤田 覚 編

田中史生 石井正敏 鈴木靖民 森公章 榎本渉 河辺隆宏 岡本真
村井章介 橋本雄 須田牧子 鶴田啓 吉田光男 津野倫明 箱石大

2006年史学会大会シンポジウムの書籍化。前近代の日本列島と朝鮮半島をめぐる交流の歴史的な特徴を最新の研究状況をふまえて、歴史学の立場から解明するとともに、今後の研究がかかえる課題についても検討する。

288頁

品切 4,400円(本体4,000円)

52354-8 C3021 (07.11)

日唐律令比較研究の新段階

大津 透 編

辻正博 坂上康俊 黄正建 稲田奈津子 妹尾彦彦 武井紀子 丸山裕美子
古瀬奈津子 榎本淳一 吉永匡史 大隅清陽 鈴木靖民 三上喜孝

天聖令の発見により新たな進展をみせる律令制研究の最前線から、天聖令の史料の性格や、日本の律令制の特色・形成過程などについて、さまざまな視点から議論を行う。2007年日本古代史・東洋史合同シンポジウムより編集。

296頁

在庫僅少 4,400円(本体4,000円)

52355-5 C3021 (08.11)

「人のつながり」の中世

村井章介 編

遠藤珠紀 呉座勇一 大塚紀弘 三枝暁子
佐藤雄基 桜井英治 岸本美緒

2007年史学会大会シンポジウムをもとに編集。中世における主要な社会集団である公家・武士・寺院社会の自己認識や秩序体系を「人のつながり」といった底辺からの視線で探る。 256頁

4,400円(本体4,000円)

52356-2 C3021 (08.11)

山里の社会史

後藤雅知 吉田伸之 編

武部愛子 吉田ゆり子 江下以知子 齊藤絃子
前澤健 脇野博 町田哲

近世の山里を素材として、どのような研究動向が見られるのか、また固有な論点は見いだせるのか、そして現代に何を問いかけているのかを探る。「山里研究会」の研究報告と、2007年史学会大会のシンポジウムをもとに編集。 336頁

品切 4,840円(本体4,400円)

52357-9 C3021 (10. 2)

十八世紀日本の政治と外交

藤田 覚 編

荒木裕行 小関悠一郎 佐藤雄介 木村直樹
高槻泰郎 村和明 三ツ松誠 彭浩

17世紀に確立した近世的な政治・経済・社会の仕組みが、19世紀半ばに解体する。その中間に位置する18世紀は、どのような時代であったのか。近世を解体させる諸要素の生起を、政治的な面を中心に捉え直す。 256頁

4,400円(本体4,000円)

52359-3 C3021 (10.10)

近世の地域と中間権力

志村 洋 吉田伸之 編

今村直樹 日比佳代子 小松賢司 高山慶子 山本太郎 山崎善弘

2010年の史学会大会の近世史部会でおこなわれたシンポジウム「近世の地域と権力」の成果をもとに、19世紀に登場する新たな社会的諸課題に直面して、地域はいかなる変容を迫られたのかをまとめた1冊。 328頁

4,620円(本体4,200円)

52361-6 C3021 (11.12)

身分的周縁と地域社会

塚田 孝 吉田伸之 編

山下聡一 三田智子 朴澤直秀 吉田ゆり子 竹ノ内雅人 武部愛子

2011年の史学会大会でおこなわれたシンポジウム「身分的周縁と地域社会」の成果。近世の寺院・神社社会の内部構造を明らかにし、各地域社会における寺院・神社社会の位相を捉え、新たな近世社会像を描く。 320頁

4,620円(本体4,200円)

52362-3 C3021 (13. 3)

近代日本のヒストリオグラフィー

松沢裕作 編

佐藤雄基 寺尾美保 廣木尚 中野弘喜 河野有理 高木博志 太田智己

近代日本において「歴史を書く」という営為がどのように行われてきたか、多様な書き手による多様な歴史の相互関係を課題として考察する。2014年史学会大会シンポジウムをもとに編集。 256頁

品切 4,400円(本体4,000円)

52363-0 C3021 (15.11)

近世の権力と商人

牧原成征 編

村和明 海原亮 高垣亜矢 島崎未央 若山太良

商家や藩などの史料を用いて、近世における商人と権力との関係に様々な切り口から迫り、近世社会への理解を深める。2013・14年史学会大会シンポジウムをもとに編集。 248頁

4,400円(本体4,000円)

52364-7 C3021 (15.11)

摂関期の国家と社会

大津 透 編

武内美佳 伴瀬明美 黒須友里江 下向井龍彦 大隅清陽
神戸航介 三谷芳幸 森公章 小倉慈司 渡邊誠 西本昌弘

摂関期の国家や社会は、律令制から平安時代前期を経て、いつどのように変化し、また何が変らなかったのか。多様な切り口から実証的に考察する。2015年史学会大会シンポジウムをもとに編集。 A5判 296頁

4,400円(本体4,000円)

52365-4 C3021 (16.11)

戦後史のなかの「国家神道」

山口輝臣 編

藤田大誠 荻部直 昆野伸幸 須賀博志 谷川穰 前田修輔 朴輪貞
河西秀哉 佐々木政文 寺田善朗 辻岡健志 北康宏 平山昇 三ツ松誠
小野将 入倉渥太 木村悠之介

品切

戦後日本の政治史・宗教史・社会運動史など幅広い分野から「国家神道」を議論し、今後の研究の基盤となる方向性を示す。2017年史学会大会シンポジウムをもとに編集。充実した附録も収載。

288頁

4,400円(本体4,000円)

52367-8 C3021 (18.10)

日本古代律令制と中国文明

大津 透 編

市大樹 古田一史 西本哲也 武井紀子 山下洋平 辻正博
坂上康俊 丸山裕美子 吉永匡史 榎本淳一 三谷芳幸

日唐律令の比較研究の成果をふまえ、中国あるいは隋唐文明の影響や文物の輸入まで、より視点を広げて日本律令制の意義を多角的に考える。2019年史学会大会シンポジウムをもとに編集。

320頁

4,620円(本体4,200円)

52368-5 C3021 (20.11)

君主号と歴史世界

佐川英治 編

杉山清彦 武内房司 大津透 小倉智史 大塚修 近藤信彰
田中創 藤波仲嘉 中澤達哉 後藤はる美

日本を含むアジアからヨーロッパに至るまで、広い地域の「君主号」に焦点を当て、君主号のもつ意味を明らかにしつつ、君主が果たした役割について考える。2022年史学会大会シンポジウムをもとに編集。

248頁

4,620円(本体4,200円)

52642-6 C3020 (23.10)

史學雑誌総目録

創刊号～第100編

史学会 編

『史學雑誌』創刊号から第100編までの全巻所載の論文および研究ノートなど論文的なもの、書評および新刊紹介など書評的なもの、回顧と展望など研究動向的なものを編年順に収録。巻末には人名索引を付す。近代日本百年の史学史を如実に語る。

A 5判 432頁

品切

5,554円(本体5,049円)

61700-1 C1002 (93. 1)

年報都市史研究・別冊都市史研究

都市史研究会 編

本誌は、都市史研究会主催のシンポジウムのテーマを特集とし、論文・研究ノート・研究動向・書評・新刊紹介・博物館展示案内などを掲載。年報の名にふさわしく都市史研究の1年を回顧しつつ、研究の情報を提供。21号の刊行を最後に、新たに設立された都市史学会の会誌『都市史研究』へリニューアル。

B5判 並製・カバー装 平均160頁

1 城下町の原景

品切

小島道裕 伊藤毅 吉田伸之 伊藤裕久 塚田孝 石原玲子 松方冬子 仁木宏

4,065円(本体3,695円) 168頁 61910-4 C1021 (93.9)

2 城下町の類型

品切

宮本雅明 深井甚三 渡辺浩一 今井修平 高橋康夫 土本俊和 玉井哲雄 飯田直樹 藤川昌樹

4,065円(本体3,695円) 160頁 61920-3 C3021 (94.12)

3 巨大城下町

品切

宮崎勝美 伊藤毅 西坂靖 岩田浩太郎 吉田伸之 玉井哲雄 鈴木博之 杉森哲也 高岡裕之 曲田浩和

4,065円(本体3,695円) 176頁 61930-2 C3021 (95.11)

4 市と場

品切

伊藤裕久 杉森玲子 小林信也 光井渉 阿部浩一 茨志麻 北村優季

4,065円(本体3,695円) 160頁 61940-1 C1021 (96.10)

5 商人と町

品切

岩淵令治 杉森哲也 谷直樹 金東哲 澤井優子 渡辺祥子 小林信也

4,065円(本体3,695円) 144頁 61950-0 C3021 (97.11)

6 宗教と都市

品切

日塔和彦 井上智勝 西木浩一 佐藤信 伊藤毅 吉田伸之 王振忠 マーティン・モリス 山澤学 五十嵐太郎

4,065円(本体3,695円) 168頁 61960-9 C3021 (98.11)

7 首都性

品切

仁藤敦史 高橋康夫 杉森哲也 小林信也 玉井哲雄 吉田光男 横山百合子 藤本史子 屋久健二 高橋慎一郎

4,065円(本体3,695円) 168頁 61970-8 C3021 (99.10)

8 都市社会の分節構造

品切

伊藤裕久 多和田雅保 金行信輔 西坂靖 塚田孝 坂本忠久 高村雅彦 坂下史

4,065円(本体3,695円) 160頁 61980-7 C3021 (00.11)

9 東アジアの伝統都市

品切

宮本雅明 徐華芳 横田冬彦 高東煥 吳建雍 北村優季 伊藤毅 張利民 杉森哲也 金東哲 吉田伸之 千葉正樹

4,065円(本体3,695円) 160頁 52710-2 C3021 (01.10)

10 伝統都市と身分的周縁

品切

塚田孝 三枝暁子 西坂靖 山下聡一 原直史 井戸田史子 佐賀朝 吉田ゆり子 西村和江 千葉敏之

4,065円(本体3,695円) 160頁 52720-1 C3021 (02.10)

11 消費の社会=空間史

品切

大黒俊二 ギョーム・カレ 初田亨 川勝守生 戸森麻衣子 吉澤誠一郎 岩本馨 高橋慎一郎 高橋康夫 横手義洋

4,065円(本体3,695円) 164頁 52730-0 C3021 (03.11)

12 伝統都市の分節構造

品切

吉田伸之 竹ノ内雅人 伊藤裕久 熊遠報 桜井万里子 横山伊徳
河内将芳 塩川隆文 伊東剛史

4,065円(本体3,695円) 160頁 52740-9 C3021 (04.11)

13 東アジア古代都市論

品切

佐藤信 妹尾達彦 馬場基 禹成勲 早乙女雅博 西山良平 岡陽一郎
岩本馨

4,065円(本体3,695円) 164頁 52741-6 C3021 (05.11)

14 都市の権力と社会=空間

品切

吉田伸之 能川泰治 武部愛子 ジェレミー・フィリップス 本康宏史
初田香成 増田達男 木越隆三 伊藤毅 落合義明 竹ノ内雅人 加藤玄
松山恵 高村雅彦

4,065円(本体3,695円) 176頁 52742-3 C3021 (06.11)

15 分節構造と社会的結合

品切

吉田伸之 井上徹 岩淵令治 近藤和彦 岸泰子 大田省一 佐賀朝
恩田重直 遠藤努 アラン・ティレ

4,065円(本体3,695円) 168頁 52743-0 C3021 (07.12)

16 現代都市類型の創出

品切

鈴木真歩 土田宏成 池田嘉郎 初田香成 中川理 松田法子 中野隆生
横山百合子

4,065円(本体3,695円) 164頁 52744-7 C3021 (09.1)

17 遊廓社会

品切

佐賀朝 神田由築 人見佐知子 相馬英生 吉田ゆり子 松田法子
齊藤俊江 伊藤毅 フランソワ=ジョセフ・ルッジウ 高澤紀恵 安部俊治
岸泰子

4,065円(本体3,695円) 176頁 52745-4 C3021 (10.2)

18 都市の比較史

品切

吉田伸之 河原温 林田伸一 杉森哲也 高橋慎一朗 伊藤毅 伊藤裕久
三枝暁子 西坂靖 岩本(三倉)葉子 王振忠 生島修平 西田亜未 水島司
高橋康夫

4,180円(本体3,800円) 184頁 52746-1 C3021 (11.4)

19 伝統都市論

品切

石井規衡 五味文彦 近藤和彦 陣内秀信 高橋康夫 吉田伸之 伊藤毅
登谷伸宏 角和裕子 王振忠 井上徹 熊遠報 藤野裕子

4,065円(本体3,695円) 148頁 52747-8 C3021 (12.3)

20 危機と都市

品切

伊藤毅 栢木まどか 本島和人 青井哲人 吉田伸之 三枝暁子 高橋康夫
渡邊大志 高嶋修一 フェデリコ=スカローニ 長井伸仁 松本四郎

4,180円(本体3,800円) 192頁 52748-5 C3021 (13.3)

21 沼地と都市

品切

伊藤毅 石崎俊哉 高山慶子 高橋元貴 宮脇哲司 高橋慎一朗
赤松加寿江 戸田靖久 角和裕子 田付秋子 三枝暁子 吉田伸之

4,180円(本体3,800円) 176頁 52749-2 C3021 (14.4)

別冊 水辺と都市

品切

伊藤 毅 吉田伸之 編

熊遠報 杉森哲也 塚田孝 岩本馨 吉田ゆり子 陣内秀信 伊藤裕久
永原健彦 高村雅彦

4,065円(本体3,695円) 176頁 52711-9 C3021 (05.7)

別冊 江戸とロンドン

品切

近藤和彦 伊藤 毅 編

ボール・スラック 坂巻清 吉田伸之 栗田和典 坂下史 岩本馨
金行信輔 アレク・キーン ティム・ヒチコック 浅野秀剛
岩淵令治 竹ノ内雅人 ジェイムズ・レイヴン

5,280円(本体4,800円) 248頁 52712-6 C3021 (07.12)

別冊 パリと江戸 伝統都市の比較史へ

品切

高澤紀恵 アラン・ティレ 吉田伸之 編

武部愛子 早川理穂 横山百合子 ナターシャ・コクリー 岩淵令治
イザベル・バクーシュ フランソワ=ジョセフ・ルッジウ

5,060円(本体4,600円) 224頁 52713-3 C3021 (09.6)

別冊 伝統都市を比較する

品切

高澤紀恵 吉田伸之

飯田とシャルルヴィル

フランソワ=ジョゼフ・ルッジウ ギヨーム・カレ 編
竹ノ内雅人 ユーリ・カルボニエ 江下以知子 メラニー・トラヴェルシェ
吉田ゆり子 アラン・ティレ 塚田孝 伊藤毅 西坂靖 早川朝子 武部(小松)愛子

5,720円(本体5,200円) 312頁 52714-0 C3021 (11.6)

都市史研究

都市史学会 編

B5判 並製 平均160頁

2013年12月に設立された都市史学会の会誌。投稿論文・研究ノート・書評・新刊紹介やシンポジウムの報告などを掲載。

都市史研究 1

生島修平 ベビオ=ヴィエイラ=アマロ 松吉大樹 片山伸也
赤松加寿江 小堀慎子 樺山紘一 三枝暁子 岩本馨 大田省一
加藤玄 関口欣也

論文として「平安前期の都市維持管理政策とその歴史的意義」「港市横瀬浦の都市史」、小特集として創設記念行事のシンポジウム「都市史の現在Ⅰ」を掲載。

4,180円(本体3,800円) 168頁 52751-5 C1021 (14.11)

都市史研究 2

カトリヌ=ドニ 多和田雅保 山田邦和 小谷量子 松山恵
本内直樹 長谷部史彦 加嶋章博 ローズマリー=スウィート
片山伸也 岩本馨 水野貴博

論文「伝統と近代の間で——18世紀ブリュッセルにおけるボリスの変容」「18世紀前半期における市町の展開——信州小布施」のほか、研究ノート・小特集「都市史の現在Ⅱ」・研究動向などを掲載。

4,180円(本体3,800円) 164頁 52752-2 C1021 (15.11)

都市史研究 3

岩本葉子 簡佑丞 五味文彦 ルドヴィーカ=ガレアッツォ 陣内秀信
吉田伸之 伊藤裕久 柘植信行 大久保純一 小酒井大悟 櫻井良樹
水野千依 中尾俊介 鈴木智行

都市史学会の会誌の第3号。論文「明治期東京の町と土地売買——麴町十二丁目を中心に」、研究ノート「日本統治初期台湾における築港構想について——板内曾次郎による打狗築港論を中心に」のほか、小特集「水都史」・書評などを掲載。

4,180円(本体3,800円) 168頁 52753-9 C1021 (16.11)

都市史研究 4

高橋元貴 岩本馨 谷直樹 塚田孝 岸本直文 大澤研一 森下徹
島田克彦 大黒俊二 堀井優 杉浦未樹 彭浩 大田省一 高橋慎一朗
石井龍太 黒崎敏 北野智也 井戸田史子 岩本葉子

論文「江戸市中における堀川の空間動態とその存続——『古町之川岸』の川浚を通して」、研究ノート「幕府普請奉行役所による拝領武家屋敷の把握について——『屋敷渡預絵図証文』を中心に」のほか、小特集「社会的結合と都市空間」・書評などを掲載。

4,180円(本体3,800円) 176頁 52754-6 C1021 (17.11)

都市史研究 5

松井直人 岩田会津 伊藤毅 長田紀之 松原康介 勝田俊輔 坂野正則
佐賀朝 和栗珠里 田口宏二郎 山崎久登 小南弘季 砂川晴彦 角田奈歩

都市史学会の会誌の第5号。論文「京都住人としての室町幕府公人」(松井直人)・「近世鎌倉中の空間構造」(岩田会津)のほか、小特集「植民地と都市そして地域」・書評などを掲載。

4,180円(本体3,800円) 136頁 52755-3 C1021 (18.11)

都市史研究 6

山崎久登 小南弘季 有馬学 加藤玄 伊藤喜彦 川本智史 神田由築
杉本史子 鬼丸武士 ダニエラ=ファン=デン=ホイフェル
ボブ=ピーリック ベビオ=ヴィエイラ=アマロ アントニア=ヴァイス
安永麻里絵 落合義明 岸泰子 坂野正則 多和田雅保 角和裕子
塚田孝 堀地明 楊昱 陳雲蓮 鳥飼かおる 八谷舞

都市史学会の会誌の第6号。論文「將軍鷹御成と江戸町方」(山崎久登)・「明治初頭東京における神社社会の再構築」(小南弘季)のほか、小特集「海峡と都市」・書評などを掲載。

4,180円(本体3,800円) 176頁 52756-0 C1021 (19.10)

都市史研究 7

小島見和 陳雲蓮 桜井万里子 伊藤毅 北村優季 河原温
桜井英治 中野隆生 妹尾達彦 渡辺浩一 高嶋修一 顯原澄子
酒匂由紀子 中村駿介 安永麻里絵 亀井泰治

都市史学会の会誌の第7号。論文「近世ナルボンヌ市の家畜放牧と都市共同体の領域」「横浜居留地の水辺管理」のほか、小特集「歴史のなかの現代都市」・書評などを掲載。

4,180円(本体3,800円) 160頁 52757-7 C1021 (20.10)

在庫僅少

都市史研究 8

陳雲蓮 山本太郎 勝田俊輔 高橋慎一朗 曹貞恩 小林丈広 永島剛
初田香成 福村任生 岩本葉子 坂下史 新井潤美 額原澄子 大石和欣
堀賀貴 森亘 温井亨

都市史学会の会誌の第8号。論文「外国人居留地の水際使用と景観変容」(陳雲蓮)、大会基調講演「With コロナ時代の羅針儀」(山本太郎)のほか、小特集「疫病と都市」・書評などを掲載。

4,180円(本体3,800円) 144頁 52758-4 C1021 (21.10)

都市史研究 9

川本智史 佐藤信 斉藤進 渡邊恵一 吉田伸之 青木祐介 老川慶喜
加藤耕一 三浦徹 斎藤善之 長井伸仁 松田亮 藤本健二 中村景月

都市史学会の会誌の第9号。論文「異教徒の家」(川本智史)、大会基調講演「都市における遺跡の重層性とその保存活用」(佐藤信)のほか、小特集「都市と近代遺跡」・書評などを掲載。

4,180円(本体3,800円) 136頁 52759-1 C1021 (22.10)

都市史研究 10

松田亮 岩本葉子 中村景月 斉藤利男 八重樫忠郎 箱崎和久
藤田盟児 吉田歆 吉田伸之 松井直人 飯田直樹 M・ソントン
岩本馨 松本祐生子 林和典

都市史学会の会誌第10号。論文「北宋神宗期開封の都城社会と住民文化」(松田亮)、「京都における社寺地処分」(岩本葉子)、「京都・東九条における「バタヤ街」の生成と変容」(中村景月)、大会記念講演「都市平泉研究」(斉藤利男)、小特集「みちのくの都市文化再考」・書評。

4,500円(本体4,091円) 148頁 52760-7 C1021 (23.10)

都市史研究 11

坂野正則 二階堂里絵 鈴木淳 羽藤英二 岩淵令治 赤川学 吉田律人
武藤秀太郎 額原澄子 勝田俊輔 樺山紘一 中野隆生 中山洋平
東出加奈子 長井伸仁 高橋慎一朗 鈴木智行 岸本美緒
和栗珠里 中川恵 須田華那 李雨桃

都市史学会の会誌の第11号。論文「宗派境域都市としての近世ソミュールとオラトリオ会の文化＝空間構造」(坂野正則)、研究ノート「都市平泉の南方鎮守と境界祭祀」(二階堂里絵)、大会基調講演「関東大震災時の東京における消防活動の記録と記憶」(鈴木淳)のほか、小特集「大災害の記録と記憶」・書評など。

4,500円(本体4,091円) 152頁 52761-4 C1021 (24.10)

歴博フォーラム

国立歴史民俗博物館 編

様々なテーマで催される歴博のシンポジウム
を書籍化

国立歴史民俗博物館で開催された企画展示と、それに対応して実施された歴博主催のフォーラムにおける報告・討論を中心に、論考・コラムを加えて構成。本書はその記録集である。

四六判 並製・カバー装 平均240頁



お金の不思議

貨幣の歴史学

西谷大 杉山晋作 栄原永遠男 阿部義平
仁藤敦史 嶋谷和彦 高橋照彦

お金をめぐる歴史と文化について、古文書や絵画、考古資料から考える。特に民衆生活と銭の関係に焦点をあて、売買以外の貨幣の役割や鋳造法にも注目。 264頁

品切 2,750円(本体2,500円) 60640-1 C0021 (98. 6)

はにわ人は語る

杉山晋作 和田晴吾 高橋克壽 一瀬和夫
関川尚功 石山勲 車崎正彦

5世紀頃から古墳に立てられた人物埴輪。その出現期を中心に、古墳における祭祀の変化や、政治的・社会的背景、地域性について考察する。 240頁

2,750円(本体2,500円) 60680-7 C0021 (99. 4)

倭人をとりまく世界

2000年前の多様な暮らし

辻誠一郎 西谷大 春成秀爾 渡辺昌宏 石川日出志 西本豊弘
林謙作 木下尚子 中村恵 藤尾慎一郎 設楽博己 永嶋正春

これまであまり語られなかった東日本や北海道、琉球列島における弥生文化の多様性に着目し、2000年前の日本列島に花開いたさまざまな暮らしを探る。 208頁

品切 2,750円(本体2,500円) 60770-5 C0021 (00. 4)

高きを求めた昔の日本人

巨大建造物をさぐる

上原真人 宮本長二郎 辰巳和弘 濱島正士
西澤英和 松尾充晶 村木二郎 佐原真

縄文・弥生・古墳時代の遺跡から発掘される大型の建造物跡。それらは何の目的で建てられ、どのように使われたのだろうか。その謎に迫る。 232頁

品切 2,750円(本体2,500円) 60830-6 C0021 (01. 2)

神と仏のいる風景

社寺絵図を読み解く

濱島正士 段上達雄 吉井敏幸 青山宏夫
黒田龍二 大久保純一 湯浅隆

社寺境内図に描かれた当時の社殿・伽藍の状況、神社・寺院の立地・環境、信仰のあり方を読みとり、当時の人びとと神社・寺院との関わりを探る。 208頁

2,530円(本体2,300円) 59010-6 C0021 (03. 2)

中世寺院の姿と暮らし

密教・禅僧・湯屋

井原今朝男 上川通夫 永村真 福島金治 山岸常人 高橋一樹
村井章介 下郡剛 藤井恵介 永嶋正春 羽田聡 青山宏夫 平雅行

中世寺院の果たした多様な歴史的機能と時代的特質を、民衆生活史の観点から浮き彫りにし、新しい中世寺院の歴史像を提示する。 248頁

2,750円(本体2,500円) 59020-5 C0021 (04. 2)

王の墓と奉仕する人びと

寺崎秀一郎 近藤二郎 劉慶柱 西谷大 上野祥史

林永珍 和田孝 車崎正彦 一瀬和夫 若松良一
新谷尚紀 仁藤敦史 杉山晋作 武田佐知子 辰巳和弘

古墳における埴輪を中心に、古代の人びとの死者儀礼や死生観を探るとともに、世界各地にみられる王の墓と造形物との関係性を比較検討する。 B5判 272頁

在庫僅少 3,080円(本体2,800円) 59030-4 C0021 (04. 8)

桓武と激動の長岡京時代

永井路子 臈谷寿 仁藤敦史 服部一隆 河角龍典 村木二郎

郷伸也 山路直充 中島信親 十川陽一 三上喜孝 千葉孝弥
吉川真司 小林洋介 榎村寛之 山中章 馬場基 清水みき 山田邦和

わずか10年で廃都となった長岡京。平安京造営と「征夷」による国域の確定から、前近代の中心と周縁の枠組みが定まる画期となった激動の時代を考える。 256頁

3,080円(本体2,800円) 59011-3 C0021 (09. 1)

日本史百話

笠原一男 井上光貞 安田元久 編

品切

原始時代から徳川時代末期までを約100余の話にまとめ、エピソードで綴る楽しい物語日本史。抽象的な歴史叙述を排し、各時代と人々の具体的歴史像を描く。歴史教育に携わる方々には、絶好の教材となる1冊。解説・出典付。

B 6判 320頁
1,324円(本体1,204円) 60010-2 C0021 (54, 2)

庚申信仰

窪 徳忠 著

品切

現在もなお継承されている庚申講とその信仰の実態を農村・漁村・都市などにわけ、実例をあげて論究するとともに、江戸時代以前にまでさかのぼり、中国道教からの影響を中心に探る。歴史学の手法で民俗学に影響を与えた、庚申研究の古典的名著。

A 5判 315頁
3,418円(本体3,107円) 61110-8 C0021 (56, 11)

新訂 茨城の歴史

満井隆行 瀬谷義彦 豊崎 卓 著

品切

原始時代から現代まで、茨城県の歴史をやさしく解説。平明な文章と豊富な図版・写真によって、手軽に読める郷土史。郷土茨城の歴史的な歩みを軸として、日本史の大きな流れをも展望する。郷土史の新しい試み。

B 6判 272頁
662円(本体602円) 60020-1 C0021 (57, 5)

日本社会史 (新版)

中村吉治 著

品切

古代から近代までの日本社会の変遷を、社会構造の単位の変化と現代的階級社会が成立するまでの身分社会の変遷との2つを主題にして考察。共同体の問題に重点をおきながら日本社会史を概説する。経済史と村落史との研究成果をもちこんだ労作。

A 5判 340頁
2,456円(本体2,233円) 60040-9 C1021 (70, 12)

天皇

天皇の生成および不親政の伝統

石井良助 著

品切

邪馬台国大和説をとりながら天皇の祖先を卑弥呼の一族に求め、また天皇は古来不親政および刃に血塗らざるを伝統としたとする考え方を、豊富な史料によって実証。日本法制史の碩学による永年にわたる研究の集大成。

四六判 360頁
3,204円(本体2,913円) 61200-6 C3021 (72, 8)

東北の歴史と開発

高橋富雄 著

品切

「東北開発」に焦点をあわせた東北史研究の新しい試み。古代から現代まで一貫して「開発」を柱に、日本全体の中での東北の歴史を系統的に叙述する。現代の開発のありかたについても触れ、政策科学の領域まで広く考察した画期的な論考。

A 5判 394頁
2,200円(本体2,000円) 61270-9 C1021 (73, 4)

堺の歴史

関 英夫 著

品切

古代豪族の描いた夢、百舌鳥古墳群、自由都市堺の繁栄、東洋のベニスなど、新しく古い町「堺」の歴史をたどる。堺に住み、堺を愛する著者が、史料・史跡・民俗・伝承などを広くふまえながら平明な文章で綴る。

四六判 318頁
1,078円(本体980円) 60030-0 C0021 (75, 9)

日本史における民衆と宗教

下出積與 編

森岡清美 根本誠二 宇佐美正利 笠原一男 菊地勇次郎 中尾堯圭 室文雄 長谷川匡俊 宮田登 小栗純子 桜井徳太郎 大濱徹也

品切

それぞれの時代において、一般民衆が宗教をどのように受け入れ、教義や思想を生活化していったか——という共通の視角から仏教・神道・キリスト教など多岐にわたって考察する。歴史専門家だけでなく、民俗学・宗教社会学の研究者もふくめた13論文を収載。

A 5判 392頁
5,276円(本体4,796円) 61150-4 C3021 (76, 7)

水戸藩郷校の史的研究

瀬谷義彦 著

品切

幕末尊攘運動の拠点となった水戸藩郷校の史的展開を新史料の発掘によって詳細に分析する。近世教育の問題を教育史のみならず広く歴史学の対象として究明。近世史上に占める水戸藩郷校の全体像と、その存在意義を明らかにする。

A 5判 320頁
3,300円(本体3,000円) 61260-0 C3021 (76. 12)

日本経済史 (新版)

嶋田 隆 矢木明夫 編

安孫子麟 岩本由輝 木戸田四郎 村長利根朗 森芳三

品切

これまでの日本経済史の分野における著しい研究の進展の成果の上にたつて、原始から近代まで一貫してまとめた日本経済通史。近世・近代に重点をおき、日本資本主義に対する関心の高まりに対応する。新版は、1978年に新しい編者によって全面書き下ろされた。

A 5判 356頁
3,418円(本体3,107円) 60060-7 C1021 (78. 4)

静岡の歴史百話

静岡県日本史教育研究会

品切

静岡県地方の100のエピソードを時代に沿ってまとめた、中・高校生からひろく一般読者まで楽しく読める郷土史。

四六判 232頁

1,538円(本体1,398円) 25220-2 C0321 (80. 7)

神奈川の歴史百話

神奈川県高等学校社会科部会歴史分科会

品切

古代から現代まで、神奈川県地方に関係した100のエピソードを収めた楽しく読める新しい郷土史。

四六判 232頁

1,540円(本体1,400円) 25140-3 C0321 (80. 7)

歴史家夜話 上・下

岡田章雄 著

品切

戦後の歴史教育に携わってきた著者が、一歴史家として歴史教育をはじめ歴史の周辺を巧みに綴ったユニークな随筆集。

新書判 上204頁 下210頁

上巻 60100-0 C0220 (80. 12)
下巻 60110-9 C0220 (80. 12)
715円(本体650円)

永島福太郎先生退職記念

日本歴史の構造と展開

永島福太郎先生退職記念会 編

品切

永島福太郎先生が27年の長きにわたって研究生生活をおくられた関西学院大学を退職。その機を記念して、学恩を受けた研究者が日頃の研究活動の成果を論文集にして献呈。19論文を収載。永島先生の略年譜・主要著作目録も付す。

A 5判 500頁
7,476円(本体6,796円) 61160-3 C3021 (83. 1)

国立民族学博物館特別研究
「日本民族文化の源流の比較研究」第5回

日本民俗社会の形成と発展

イエ・ムラ・ウジの源流を探る

竹村卓二 編

品切

日本民族文化の形成と発展の経過を明らかにするうえで必要な諸問題を、周辺諸民族文化との比較を通して広い視野から考察。社会組織に照準をおき、社会人類学の東アジア民族社会の比較研究、歴史学のイエ社会研究、考古学による先史社会復原研究を集大成。

A 5判 480頁
7,593円(本体6,903円) 61300-3 C3039 (86. 5)

歴史科学としての経済学 (新版)

嶋田 隆 矢木明夫 編

岩本由輝 平野厚生 木村武司 大川健嗣 安孫子麟

品切

経済学を、特に歴史科学としてとらえることに配慮してまとめられた経済学の概論である。歴史的時間経過の中での諸生産様式の相互比較のうちに、それらの特殊歴史的性格を明らかにする。冒頭に経済学の対象と方法論を掲げる。

A 5判 360頁
2,990円(本体2,718円) 60050-8 C1033 (86. 6)

日本通史 全3巻

歴史の流れをどう捉えるのか、隣接諸科学の成果をも吸収しながら、現代的関心に応える新しい次元の通史的展望を求めて、個性的・総合的に書き下ろす。

菊5判 各4,379円(各本体3,981円)

I 原始古代・中世

歴史の曙から伝統社会の成熟へ

義江彰夫 著

品切 480頁 30010-1 C1321 (86. 8)

II 近世

封建制の再編と日本的社会の確立

水林 彪 著

512頁 30020-0 C1321 (87. 5)

III 近現代

国際政治下の近代日本

宮地正人 著

440頁 30030-9 C1321 (87. 9)

仏像の歴史

飛鳥時代から江戸時代まで

久野 健 著

仏教の伝来から円空・木喰仏までをまとめた仏像彫刻の通史。仏像の源流や系譜、作者、制作法、特徴や見方、各時代の比較、造像の儀式や手順など、仏像に関するさまざまな事柄を、250余点の写真と図版を用い、エピソードをおりまぜながら平易に叙述。

B 6判 260頁

品切

1,603円(本体1,457円)

60200-7 C0021 (87. 8)

新版 京・伏見歴史の旅

山本眞嗣 著 水野克比古 撮影

伏見は歴史の町である。稲荷大社や鳥羽離宮、あるいは太閤の伏見城や鳥羽・伏見の戦いなしには、日本史は語れない。幾多の歴史の激変に耐えた伏見を、本書を繙き歩いてみよう。伏見の歴史散歩には必携の書。1991年刊行本を一部改訂。カバーデザインも一新。

B 6判 256頁

品切

1,823円(本体1,657円)

59350-3 C0021 (03. 9)

史跡探訪 関東100選 上・下

関東歴史教育研究協議会 編

上〈茨城・栃木・群馬・埼玉〉 品切

下〈千葉・東京・神奈川〉 品切

関東7都県から、重要な史跡・文化財を100カ所選び、各史跡の歴史的背景や発掘調査に関する事柄、「みどころ」などを解説。併せてその周辺の文化財も紹介。地図や写真などをまじえて平易に叙述。

新書判

312頁 1,388円(本体1,262円)

60610-4 C0221 (91. 8)

272頁 1,388円(本体1,262円)

60620-3 C0221 (91. 8)

日本史史話 全3巻

物語・説話・絵巻・日記・随筆・手紙など、さまざまな史料を駆使して編んだ歴史物語。史話ごとに資料・出典・時代背景などを記した「解説」がつく。物語で綴る史話の世界は、歴史の楽しさ、深さが味わえる。

B 6判

1 古代・中世 大口勇次郎 五味文彦 編

梅村恵子 上杉和彦 大山誠一 澤木(仁藤)智子 末柄豊 高橋慎一郎
土谷恵 古瀬奈津子 丸山裕美子 渡辺奈穂子

384頁 2,033円(本体1,848円)

60350-9 C0220 (93. 6)

2 近世 大口勇次郎 五味文彦 編

大森映子 井上勲 内海孝 沼田哲 針谷武志 山本博文

328頁 2,033円(本体1,848円)

60360-8 C0220 (93. 7)

3 近代・現代 大口勇次郎 五味文彦 佐々木隆 編

西川誠 田浦雅徳 梶田明宏 川上寿代 小池聖一 差波聖紀子
鈴木淳 照沼康孝 長井純子 古川隆久

352頁 2,033円(本体1,848円)

60370-7 C0220 (94. 8)

日本史こぼれ話 全2巻

笠原一男 児玉幸多 編

阿部泉 蒲生眞紗雄 野呂肖生

人物のエピソード・事件の余話・歴史の裏話など、新鮮味あふれるテーマを集めた小話集。斬新で奥深い内容は、日本史への興味がわき、探究心をそそられる。高校生から一般の読者まで、楽しく読める。

新書判

古代・中世

[電子書籍あり]

200頁 922円(本体838円)

60330-1 C0220 (93. 3)

近世・近代 品切

[電子書籍あり]

216頁 922円(本体838円)

60340-0 C0220 (93. 3)

続 日本史こぼれ話 全2巻

笠原一男 児玉幸多 編 阿部泉 蒲生眞紗雄 野呂肖生

古代・中世 [電子書籍あり]
近世・近代 [電子書籍あり]

日本史の大筋から離れた、新鮮なテーマをとりあげた小話集の続編。一般の概説書には記述されていない人物のエピソードや歴史事件の裏話など、楽しく読むことができる。日本史に興味がわく絶好の1冊。 **新書判**

200頁 990円(本体900円) 60730-9 C0220 (99. 2)
216頁 990円(本体900円) 60740-8 C0220 (99. 2)

続々 日本史こぼれ話 全2巻

笠原一男 児玉幸多 編 阿部泉 蒲生眞紗雄 野呂肖生

古代・中世 [電子書籍あり]
近世・近代 品切 [電子書籍あり]

正史に記載されないおもしろい話、人物のエピソード、歴史事件の余話、歴史の裏話などを集めた小話集の続々編。“日本の歴史はおもしろくない”という人にお薦めの興味満載の1冊。 **新書判**

208頁 1,012円(本体920円) 59310-7 C0221 (03. 3)
224頁 1,012円(本体920円) 59320-6 C0221 (03. 3)

final 日本史こぼれ話 全2巻

野呂肖生 著

古代・中世 品切 [電子書籍あり]
近世・近代 品切 [電子書籍あり]

歴史上の事件や人物にまつわる興味深いエピソードを集めた、日本史小話集。正史の陰に隠された、人間の喜怒哀楽や驚くべき裏話が満載。高校生から一般の方まで、読むほどに日本史が楽しくなる1冊。 **新書判**

240頁 1,045円(本体950円) 59321-3 C0221 (07. 6)
240頁 1,045円(本体950円) 59322-0 C0221 (07. 6)

知って得する日本史話

野呂肖生 高橋ひろ子 著

史話のなかには事実か疑わしい話もあるが、なぜこのような話がうまれたのかを考えると興味深い。楽しく読める日本史の事件や人物などの裏話が満載。

A 5判 304頁

1,980円(本体1,800円) 59080-9 C0021 (15. 4)

相撲の歴史

新田一郎 著

1300年前から始まり、変貌を続けてきた相撲。大相撲だけでなく、アマチュア相撲をふくむ相撲社会の成立と変遷の歴史を綴る。日本法制史研究のかたわら自らマワシをつけ学生に胸をかく、究極の相撲マニアが語る。

四六判 360頁

2,670円(本体2,427円) 60400-1 C0021 (94. 6)

天台の流伝

智顗から最澄へ

藤善真澄 王 勇 著

千四百年の大遠忌を記念して、中国屈指の学匠であり、実践の人であった天台大師智顗と、海をへだて時を超えて智顗の足跡を慕い、その教法を日本に迎え日本天台宗を創始した最澄を柱に、天台法門の流伝を扱う。

四六判 292頁

1,885円(本体1,714円) 60470-4 C0021 (97. 6)

越中から富山へ

地域生活論の視点から

高井 進 著

富山県近代史の第一線の研究者である著者が、これまでの業績をわかりやすく集大成。越中と呼ばれた江戸時代から富山県の成立、そして太平洋戦争までを地域生活論の視点から概論する。

四六判 250頁

2,200円(本体2,000円) 60660-9 C0021 (98. 9)

ヒトと環境と文化遺産

21世紀に何を伝えるか

網野善彦 後藤宗俊 飯沼賢司 編

納富敏雄 工藤圭章 大城慧 山崎純男 中村賢二郎

品切

ヒトと自然の交流の産物として生まれた田舎・里山は今どれだけ残っているのだろうか？ ヒトや環境や文化遺産が共生できる21世紀社会実現のため、私たちは今、何を受け継ぎ、守り、伝えるべきか、文化遺産問題を通して考察する。

四六判 264頁

2,090円(本体1,900円) 60780-4 C0021 (00. 2)

Story 日本の歴史

古代・中世・近世史編

日本史教育研究会 編

「日本人のルーツ」に始まる98のテーマで日本の前近代史を語る。1テーマは2～6頁。「山伏と修験道」など、聞いたことはあるがよくわからない歴史の話題を厳選。近現代史編の姉妹編。

四六判 272頁

1,045円(本体950円)

01640-8 C7021 (01, 8)

Story 日本の歴史

近現代史編

日本史教育研究会 編

明治の近代国家の建設から現在直面している経済問題まで、「勝海舟と坂本龍馬」や「バブル経済とその崩壊」などの76テーマで日本近現代史を語る。いかにして現在の日本が形成されたのかを知り、未来を見通してゆくための近現代史の入門書。

四六判 280頁

1,045円(本体950円)

01620-0 C7021 (00, 2)

Story 日本の歴史 増補版

日本史教育研究会 編

『Story 日本の歴史』既刊の2冊で取りあげることでできなかった歴史上のできごとや人物を取りあげ紹介。特に近現代史、なかでも現代生活に深くかかわる戦後史に重点をおいた読みもの。

四六判 216頁

1,045円(本体950円)

59074-8 C0021 (11, 12)

プリンス昭武の欧州紀行

慶応3年パリ万博使節

宮永 孝 著

15代將軍慶喜の弟昭武が、將軍の名代としてパリ万国博覧会へ派遣され、のち親善大使としてヨーロッパを巡歴したおりの足跡をたどったもの。14歳の少年昭武が目にし、耳にしたもの、好奇心やとまどいなど、新鮮な驚きや体験を綴る。

四六判 256頁

2,096円(本体1,905円)

60840-5 C1021 (00, 3)

品切

日本とイギリス

日英交流の400年

宮永 孝 著

小さな島国の日本とイギリス。初めての出会いはいつからはじまったのだろうか? 約4世紀におよぶ日英交流の軌跡を、経済・外交・文化の視点から綴る。

四六判 288頁

2,090円(本体1,900円)

60850-4 C3021 (00, 7)

アイヌ民族の歴史と文化

田端 宏 桑原真人 監修

中村和之 山北尚志 山本融定

アイヌ民族の理解を深めるため、原始・古代から現代までの歴史と文化を豊富な図版とともに叙述。アイヌ民族問題に関する指導を、積極的かつ公正に進めるための手引き書。

A 5判 152頁

1,430円(本体1,300円)

60800-9 C0020 (00, 8)

品切

アイヌと「日本」

民族と宗教の北方史

佐々木馨 著

「みちのく」地域が政治と宗教を通してどのように「日本地」化していき、日本人とアイヌ民族は宗教世界をどのように認識・構想していったかなど、宗教の北方地域への開発・形成の関わりを通史的に概観する。

四六判 256頁

2,750円(本体2,500円)

60520-6 C0020 (01, 11)

品切

アイヌ民族の歴史

関口 明 田端 宏 桑原真人

瀧澤 正 編

中高生や一般の人びとを対象に、アイヌ民族の歴史と生活・文化などの諸相をテーマに、その成立の政治的・社会的・経済的背景を含めて、具体的事例をあげて実証的に叙述した概説書。

四六判 320頁

1,980円(本体1,800円)

59079-3 C0021 (15, 8)

品切

いま学ぶ アイヌ民族の歴史

加藤博文 若園雄志郎 編

中村和之 吉嶺茂樹 相庭達也 阿部保志 幡本将典

高等学校での日本史の枠組みを基礎において、古代・中世・近世・近代そして現代の時代ごとに北海道島と先住民族であるアイヌの歴史をまとめた書。日本史の授業に役立つテキスト。
B 5判 164頁

2,200円(本体2,000円)

59103-5 C0021 (18, 4)

歴史遊学

史料を読む

学習院大学文学部史学科 編

児玉幸多 黛弘道 笹山晴生 新田英治 家永達嗣
高埜利彦 井上勲 鶴間和幸 小倉芳彦 柳田節子
高田淳 武内房司 清水昭次 島田誠 堀越孝一 福井憲彦

学習院大学史学科の教授陣が、長年の研究と教育の蓄積の中から、とっておきのエッセンスをあかす。歴史研究の楽しさ、面白さ、知の醍醐味の詰まった1冊。

四六判 280頁

品切 2,200円(本体2,000円)

60480-3 C0021 (01, 5)

歴史遊学 [増補]

学習院大学文学部史学科 編

児玉幸多 黛弘道 笹山晴生 鐘江宏之 新田英治 家永達嗣 高埜利彦
井上勲 千葉功 鶴間和幸 柳田節子 高田淳 武内房司 清水昭次
島田誠 堀越孝一 亀長洋子 福井憲彦 中野隆生 小倉芳彦

創立50周年を迎えた学習院大学史学科の教授陣が、新たに歴史学を志す方々のために、「大学で学ぶ歴史学とは何か」を語る。史料にもとづいて、新しい歴史像を描く楽しさを解き明かす。
A 5判 296頁

2,530円(本体2,300円)

59072-4 C0020 (11, 6)

新・歴史遊学

覚える歴史学から考える歴史学へ

学習院大学文学部史学科 編

鐘江宏之 家永達嗣 高埜利彦 佐藤雄介 千葉功 下重直樹 保坂裕興
海老根量介 鶴間和幸 武内房司 島田誠 亀長洋子 工藤晶人
福井憲彦 中野隆生

学習院大学文学部史学科では、日本史・東洋史・西洋史が一体となって歴史学の学びが始まる。その特色ある歴史教育に加え、大学の学問としての歴史学の魅力と意義を紹介する。
A 5判 256頁

2,530円(本体2,300円)

59121-9 C0020 (21, 10)

歴史学の扉

歴史を学ぶということ

日本大学文理学部史学科 編

伊藤雅之 小川雄 粕谷元 関幸彦 武井紀子 田中大喜 土屋好古
浜田晋介 平野卓治 福島恵 古川隆久 山本孝文

日本大学文理学部史学科の教員が、教養としての「歴史」から学問としての「歴史学」への入り口となるように、またその学びの意義や魅力を知ってもらえるように執筆した1冊。
A 5判 208頁

1,980円(本体1,800円)

59234-6 C0020 (24, 12)

「川」が語る東京

人と川の関係史

東京の川研究会 編

東京の川を4つの水系(利根川・荒川・多摩川・独立河川)に分け、それを縦軸とし、各水系ごとに文芸・歴史、自然、交通・産業、土木の5つの視点で横軸として構成。20世紀の東京の「川」の囁きを聴く。

四六判 240頁

品切

1,760円(本体1,600円)

60820-7 C0021 (01, 12)

みて学ぶ埼玉の歴史

埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会

『みて学ぶ埼玉の歴史』編集委員会 編

30年以上にわたって埼玉県歴史資料集の編集に取り組んできた埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会が、時代の流れに合わせ、最新資料と豊富な図版・写真を採り入れて編集。総合的学習や地域の研究に最適な1冊。

B 5判 192頁

品切

2,750円(本体2,500円)

60510-7 C7021 (02, 2)

博物館に学ぶ ちばの歴史

千葉県高等学校教育研究会歴史部会 編

県内の資料館や博物館にスポットをあてながら、原始・古代から現代まで、千葉県の歴史を見つめ直す。豊富な写真・図版でわかりやすく解説。県内の資料館・博物館一覧付き。
A 5判 224頁

2,750円(本体2,500円)

60540-4 C1021 (02, 6)

史料で探る 茨城の歴史

茨城県高等学校教育研究会歴史部 編

重要な40の史料から、茨城の歴史をわかりやすく解説。日本の歴史の歩みをふまえて、茨城の歴史を探究するとともに、身近な視点で日本の歴史像をとらえなおす。

B 5判 88頁

品切

943円(本体857円)

59370-1 C7021 (04. 3)

大和百景

奈良大和路を撮る

田中眞知郎 写真・文

大和の原風景が失われてゆくなか、古都奈良の風物と新たな景観との出会いを、美しいカラー写真とその撮影情報を変えて紹介する。

A 5判 120頁

1,760円(本体1,600円)

60560-2 C0021 (02. 7)

歴史散歩便利帳

野呂肖生 山川出版社編集部 編

史跡・文化財探訪の旅に、すぐに役立つ携帯便利な豆事典。日本史の基礎知識を網羅した資料データ、建築・仏像などの図解に加え、探訪記録を書き込める日誌も収載。ルーベ付。

ポケット判 160頁

979円(本体890円)

60580-0 C0021 (02. 7)

歴史学と史料研究

東京大学史料編纂所 編

古代から明治維新に至る国内外に残る各種史料の蒐集・研究を通して、日本史研究の基礎となる史料集を編纂・出版してきた東京大学史料編纂所。史料編纂所が『大日本史料』『大日本古文書』の出版開始100周年を記念して行った国際シンポジウムをもとに編集。

A 5判 296頁

6,050円(本体5,500円)

52260-2 C3021 (03. 7)

在庫僅少

中国地域と対外関係

岸田裕之 編

古代から近代までの、中国地方と列島内外諸地域との交流の諸相を明らかにし、地域社会の変容や、地域の自己認識の生成について、文献史料をはじめ、考古遺物、地質、景観など多様な分野から検討する。

A 5判 320頁

6,490円(本体5,900円)

52290-9 C3021 (03.10)

品切

ちょっとまじめな日本史 Q&A 全2巻

五味文彦 野呂肖生 編著

知っている、いつか必ず役に立つ日本史の質問と解答339問を収録。本書は意外と知られていない基本事項や歴史名辞の語義などを最新の研究を踏まえて解説。

四六判

216頁 1,650円(本体1,500円)

59042-7 C0021 (06. 4)

224頁 1,650円(本体1,500円)

59043-4 C0021 (06. 4)

上 原始古代・中世

下 近世・近代

史料を読み解く

1 中世文書の流れ

久留島典子 五味文彦 編 遠藤珠紀

品切

文書・記録の読解方法を解説した実用的なテキスト。各時代の特徴的なさまざまな史料をとりあげ、史料をどのように読み、史料から歴史像をどのように読み解いていくかを、懇切丁寧に解説。

B 5判

168頁 2,090円(本体1,900円)

59044-1 C1021 (06. 8)

2 近世の村と町

森下 徹 吉田伸之 編 吉田ゆり子 後藤雅知 杉森哲也

品切

160頁 2,090円(本体1,900円)

59045-8 C1021 (06. 8)

3 近世の政治と外交

藤田 覚 編 堀新 山口和夫 佐藤孝之 木村直樹

品切

152頁 2,090円(本体1,900円)

59046-5 C1021 (08. 4)

4 幕末・維新の政治と社会

鈴木 淳 西川 誠 松沢裕作 著

品切

152頁 2,090円(本体1,900円)

59047-2 C1021 (09. 6)

史料で読みとく群馬の歴史

群馬県歴史教育者協議会 編

品切

資・史料を提示して、それに基づき、時代の流れのなかで広い視野からとらえた群馬の歴史を叙述する。各テーマ見開き構成で、原始・古代15、中世7、近世11、近代・現代22の計55テーマを設定。資・史料、写真を読み解くかたちで記述。

B 5判 128頁
1,980円(本体1,800円) 59372-5 C0021 (07. 3)

神奈川の歴史をよむ

神奈川県高等学校教科研究会社会科部会
歴史分科会 編

品切

郷土資料の教材化に取り組んだ、力作の論文集。執筆者の問題関心・視点から追究している。とくに神奈川県内の地域資料を掘り起こし、それらを長年研究し、その活用方法などを提示している。

四六判 422頁
2,530円(本体2,300円) 59371-8 C0020 (07. 3)

世界遺産 高野山の歴史と秘宝

井筒信隆 著

品切

「山の正倉院」とよばれ、国宝23件・重文187件の伝存する、真言密教の修禪の地、高野山。宝物文化財の時代背景や思想信仰の背景とともに、密教美術や仏教美術に祈りを込めた人びとの魂を探る。国宝・重文・景観写真(カラー)160点余を収録。

B 5判 192頁
2,200円(本体2,000円) 59062-5 C0015 (07. 4)

歴史資料保存機関総覧

〔東日本〕〔西日本〕 増補改訂版
地方史研究協議会 編

品切

史料館・文書館・史料編纂所・民俗資料館・図書館・博物館など、全国の史資料保存機関を都道府県ごとに網羅。所蔵史資料の内容・点数・時期・各機関の沿革・利用法・所在地などを詳細に示す。

B 6判 各512頁
〔東日本〕61510-6
各4,806円(各本体4,369円) 〔西日本〕61520-5 (90. 10)

富士山御師の歴史的研究

高埜利彦 監修 甲州史料調査会 編

酒入陽子 小宮山敏和 西田かほる 青柳周一 澤博勝 田中潤
谷本晃久 伊藤裕久 山本英二 堀内真 菅野洋介 菊池邦彦

品切

江戸時代に100余りの御師宿坊があり繁栄した川口村(現、富士河口湖町)をはじめとする富士山をとりまく御師集落の、宿泊経営、富士山参詣とその由緒、御師町の空間構造などを考察する。

A 5判 424頁
12,100円(本体11,000円) 52014-1 C3021 (09. 3)

相州大山信仰の底流

通史・縁起・靈験譚・旅日記などを介して

川島敏郎 著

品切

従来の大山研究では触れられなかった通史、縁起、靈験譚、旅日記を材料に、大山信仰の歴史を掘り下げようとする意欲的な論集。

A 5判 320頁
7,150円(本体6,500円) 52019-6 C3021 (16. 1)

北海道の宗教と信仰

佐々木馨 著

品切

先住のアイヌ民族と和人が共存する北海道において、どのような宗教が根つき、それがどのように信仰されてきたのかを、神道・仏教・キリスト教を中心に、民間信仰もふくめて復原・検証し、具体的に描く。

四六判 272頁
2,530円(本体2,300円) 59066-3 C0021 (09. 8)

琉球からみた世界史

村井章介 三谷 博 編

高梨修 吉成直樹 小泉順子 渡辺美季
澤井啓一 真栄平房昭 奥那覇潤

品切

2007年の史学会大会の公開シンポジウム「琉球からみた世界史」の成果を取りまとめ、現在の琉球史の研究状況を俯瞰する。近代以前の琉球史のもつ世界史的意味を探り、さらに今後の課題を考える。

A 5判 184頁
3,520円(本体3,200円) 52358-6 C3021 (11. 6)

日本と渤海の古代史

佐藤 信 編

酒寄雅志 河内春人 濱田耕策 大日方克己 石井正敏
金子修一 森公章 浜田久美子 榎本淳一
小嶋芳孝 古畑徹 早乙女雅博 李成市

品切

日本・渤海に関する研究の深化は、古代東アジアの歴史を解明する上で大きな焦点になってきた。日本史・渤海史・考古学・東アジア史それぞれの立場からの報告などで「古代の日本と渤海」を考えるシンポジウム(2001年)の書籍化。

264頁

4,400円(本体4,000円)

52230-5 C3021 (03. 5)

年表で読む日本食品産業の歩み

明治・大正・昭和前期編

西東秋男 編

明治～昭和初期を対象にした食品産業界に光をあてた年表。食品産業をめぐる社会・経済情勢や主な企業の創立・合併・合同、名称変更、PR 戦略、食品と生活の項目を収録。

A 5判 336頁

2,750円(本体2,500円)

59070-0 C0021 (11. 8)

アジアからみる日本都市史

国立歴史民俗博物館 玉井哲雄 編

西欧的な都市観を取り払い、東アジア、中国文明圏という大きな枠組みの比較の中で日本都市史を考える新たな試み。時代や地域を超えた都市比較から古代、中世、近世の日本都市の特質を明らかにする。

A 5判 336頁

品切

5,280円(本体4,800円)

16001-9 C1020 (13. 2)

新視点 三重県の歴史

毎日新聞社津支局 編

三重県史編さんグループ 三重県立博物館学芸員 著

石原佳樹 伊藤裕之 小坂宣広 小林秀 瀧川和也 田中喜久雄
服部久士 福井正身 藤谷彰 本堂弘之 今村隆一 宇河雅之 北村淳一
小竹一之 杉谷政樹 田村香里 中川良平 平瀬みえ子 松本功

品切

伊勢の遷宮の歴史や東国武士との戦い、大坂夏の陣の記録や藩に関わる武士の日記、県名の由来や参宮鉄道の古写真と沿線案内図など、魅力あふれる三重県の歴史を紹介する。

四六判 296頁

1,980円(本体1,800円)

15035-5 C0021 (13. 3)

続 新視点 三重県の歴史

毎日新聞社津支局 編

三重県総合博物館学芸員 三重県史編さん班 著

ミエゾウの足跡と全身骨格の復元展示、県民獣のカモシカや昆虫・植物、伊勢神宮や街道、鉄道の歴史など、三重県の歴史と文化を、新博物館のテーマや活動とともに紹介する。

四六判 320頁

品切

1,980円(本体1,800円)

15052-2 C0021 (14. 4)

史学会125周年

リレーシンポジウム2014 全4巻

史学会の125周年を記念し、歴史学の今を眺望するという旗印のもと、2014年に全国4カ所で開催されたシンポジウムの成果をシリーズ化。教育と研究の両面で様々な課題に直面している歴史学。現代を眺望する最先端の歴史学を紹介。

四六判

1 教育が開く新しい歴史学

大阪大学歴史教育研究会 公益財団法人史学会 編

桃木至朗 堤一昭 秋田茂 飯塚一幸 中村翼 後藤敦史 向正樹
中村武司 小浜正子 青山亨 水島司 庄司春子 毛戸祐司 後藤誠司
岩井淳 皆川雅樹 池上大祐 今井宏昌 小川原宏幸

240頁 2,200円(本体2,000円)

60021-8 C1320 (15.11)

2 東北史を開く

東北史学会 福島大学史学会 公益財団法人史学会 編

柳原敏昭 アンドルー・ゴードン 柳谷慶子 藤沢敦 清水水裕 石見清裕
籠橋俊光 岩本由輝 阿部浩一 原聖 有光秀行 徳竹剛 伊藤大介

256頁 2,200円(本体2,000円)

60022-5 C1320 (15. 9)

3 災害・環境から戦争を読む

公益財団法人史学会 編

姫岡とし子 永原陽子 笹川裕史 土田宏成 鶴間和幸 保立道久
藤原辰史 池田嘉郎

244頁 2,200円(本体2,000円)

60023-2 C1320 (15.11)

4 過去を伝える、今を遺す

歴史資料、文化遺産、情報資源は誰のものか

九州史学会 公益財団法人史学会 編

256頁 2,200円(本体2,000円)

60024-9 C1320 (15.11)

岡崎敦 古川祐貴 川西裕也 村野正景 清原和之 吉永暢夫 溝口孝司
中島康比古 市沢哲

大学の日本史 教養から考える歴史へ 全4巻

高校の日本史をふまえ、さらに本格的に学びたい人のためのテキスト。さまざまな素材を駆使して時代を探り、どのように歴史像をつむぐのか、その醍醐味にふれる。
A 5判

1 古代	佐藤 信 編	288頁	口絵 4 頁	1,980円(本体1,800円)	60031-7 C0021 (16. 2)
倉本一宏 佐々木恵介					
2 中世	五味文彦 編	256頁	口絵 4 頁	1,980円(本体1,800円)	60032-4 C0021 (16. 2)
本郷和人 桜井英治 中島圭一					
3 近世	杉森哲也 編	308頁	口絵 4 頁	1,980円(本体1,800円)	60033-1 C0021 (16. 4)
堀新 山口和夫 鶴田啓 塚田孝 吉田ゆり子 久留島浩 斎藤善之					
4 近代	小風秀雅 編	304頁	口絵 4 頁	1,980円(本体1,800円)	60034-8 C0021 (16. 4)
吉良芳恵 ジョン・ブリーン 千葉功 季武嘉也 本宮一男					

歴史と観光 富山近代史の視座

富山近代史研究会 編
竹島慎二 城岡朋洋 浅生幸子 尾島志保 須山盛彰 平野和子 太田久夫
大村歌子 金山秀治 河田稔 貴堂巖 木本尚志 近藤浩二 白井芳樹
中村哲夫 温井嘉彦 布村徹 武野有希子 松井紀夫 宮村光治 山下隆司
富山近代史研究会が2010年から3年間にわたり、地域の自然や文化、伝統、事業などに光をあてた公開シンポジウム「歴史と観光」の内容を中心に富山県の近代化をまとめた書。
四六判 240頁 口絵 4 頁
2,200円(本体2,000円) 59078-6 C0021 (14. 8)

東京グローバル散歩

身近なところから世界を感じる東京歩き
東京グローバル散歩編集委員会 編
仙田直人 竹内秀一 中家健 中里裕司 太田尾智之 海上尚美
日本と世界の交流を、史跡や文化財を巡りながら発見しよう！という新視点でとらえた東京案内。「大航海時代と江戸」「文明開化と東京」「西洋建築に触れる」など時代ごとのテーマに沿って関連史跡を紹介。
B 5判 112頁
1,650円(本体1,500円) 59085-4 C0026 (16. 7)

文学で読む日本の歴史 古典文学篇

五味文彦 著
「思潮」とは時代を映し出すものの見方や考え方。本書は、万葉集・古今和歌集ほか多くの古典文学を通して、新しい時代区分を試み、「思潮」を浮き彫りにして、新しい歴史像を描き出す。
四六判 376頁
1,980円(本体1,800円) 15089-8 C0021 (15. 7)

文学で読む日本の歴史 中世社会篇

五味文彦 著
これまでの歴史研究にはない独自の構想で切りひらく新しい中世史像。歴史書、軍記物、絵巻、日記、紀行文などによりながら中世社会に通底する「思潮」を抽出し、さらなる考察を深めた書。
四六判 520頁
2,200円(本体2,000円) 15103-1 C0021 (16. 7)

文学で読む日本の歴史 戦国社会篇

五味文彦 著
戦国乱世に立ち向かった豊臣秀吉は刀狩・検地・富の分配により、近代に繋がる国家秩序と社会基盤の礎を築いた。本書は応仁の乱がもたらしたものと、戦国大名が日本の礎をどのように造りだしたのかを記した画期的な書。
四六判 480頁
2,200円(本体2,000円) 15118-5 C0021 (17. 9)

文学で読む日本の歴史 近世社会篇

五味文彦 著
内乱や飢饉が続く不安定な社会情勢のなか、人々はどう動いたか。二代将軍・秀忠から吉宗までの政権は課題にどう対処したか。日本近世史の細分化された領域を「思潮」の流れによって再考し、一つの全体史として捉え直す。
四六判 352頁
1,980円(本体1,800円) 15148-2 C0021 (19. 2)

文学で読む日本の歴史 近代的世界篇

五味文彦 著

制度から改革へ、広がる大衆社会と開国、そして文明の時代へと、田沼意次の時代から福澤諭吉の登場まで、近代的世界の胎動を著した力作。シリーズ全5巻古典文学篇・中世社会篇・戦国社会篇・近世社会篇・近代的世界篇完結。

四六判 592頁

3,960円(本体3,600円)

15161-1 C0021 (20. 7)

祭礼で読み解く歴史と社会

春日若宮おん祭の900年

幡鎌一弘 安田次郎 著

奈良の歴史や社会の変遷、寺社の役割、伝統芸能など多様な分野を、約900年にわたって続いてきた「おん祭」を通して明らかにする。豊富な図版を掲載し、わかりやすく解説。

A 5判 208頁 口絵4頁

2,200円(本体2,000円)

59086-1 C1021 (16.11)

水中遺跡の歴史学

佐藤 信 編

池田榮史 森達也 村井章介 木村淳 石橋崇雄 赤司善彦
佐々木蘭貞 水ノ江和同 櫛垣田佳男 松田陽 今津節生
榎原雅治

日本や世界における水中遺跡の調査・研究・保護の現状を解説し、保存・整備・活用など今後の諸課題について考えるとともに、歴史学としての位置付けを探る。2016年史学会シンポジウムをもとに編集。

A 5判 260頁

4,400円(本体4,000円)

52366-1 C3021 (18. 3)

もういちど訪ねる日本の美 上・下

小林 忠 五味文彦 浅井和春
佐野みどり 監修

上巻
下巻

山川出版社の教材「第Ⅰ期 日本史写真集」をもとに編集し、一般書籍化。教科書にも載っている、選りすぐりの仏像・屏風・建築などを紹介。大きな写真と最新の研究成果を反映させた解説で、日本の美を再発見する。

A B判

128頁 2,750円(本体2,500円)

59105-9 C0021 (18. 5)

120頁 2,750円(本体2,500円)

59106-6 C0021 (18. 5)

はじめての日本美術史

山本陽子 著

日頃から、様々な雑誌や教育の場で見慣れている仏像や絵画などの、意外と知られていないルーツや背景、鑑賞のポイントなどを、誰にでも判りやすく解説。オールカラー。

A 5判 208頁

2,200円(本体2,000円)

15132-1 C0021 (18. 8)

文化財建造物の保存修理を考える

木造建築の理念とあり方

公益財団法人文化財建造物保存技術協会 監修

木造建築の保存には適切な修理が欠かせない。国内外の建造物保存修理の歴史や事例、あり方を、技術者・行政担当者・研究者が会して検証したシンポジウムの記録集。

A 5判 288頁 口絵8頁

品切

5,500円(本体5,000円)

52026-4 C3021 (19. 4)

皇位継承

歴史をふりかえり 変化を見定める

春名宏昭 高橋典幸 村 和明 西川 誠 著

天皇は古代から連綿と続いてきたが、皇位継承のあり方は、一定不変のものではない。政治や社会の影響を受け、さまざまな形で伝えられてきた皇位継承の歴史をふりかえり、天皇や天皇制を考える。

四六判 128頁 口絵2頁

[電子書籍あり] 1,320円(本体1,200円)

59118-9 C0021 (19. 4)

復刻版 日本史概観

公益財団法人史学会 編

『世界史概観』の対をなす形で、戦後の新制高校生のために責任あるテキストとして刊行された『日本史概観』。その後の高等学校日本史教科書に大きな影響を与え、日本の教育史における重要な資料となった。本書は当時の表現のまま、復刻版として再刊行。

A 5判 376頁

1,980円(本体1,800円)

59303-9 C0020 (19. 8)

陵墓研究の道標

福尾正彦 著

天皇など皇室の祖先を葬り、祀る場所である陵墓。古代から現代に至るまでの陵墓の歴史的な変遷、維持・管理や治定の歴史を通観し、これからの陵墓についても考える。陵墓を知るための、今後の道しるべとなる書。

A 5判 328頁

6,930円(本体6,300円)

52029-5 C3021 (19.10)

日本史の賢問愚問

中里裕司 編

学校の先生を読者対象とした山川出版社の雑誌『歴史と地理 日本史の研究』の「賢問愚問」コーナーを再編集して書籍化。同コーナーで取り上げた日本史の疑問と解答から、選りすぐりのものをわかりやすく書き改めて紹介する。

A 5判 168頁

1,650円(本体1,500円)

59305-3 C0021 (20. 8)

日本史の賢問愚問 ②

中里裕司 編

学校の先生を読者対象とした山川出版社の雑誌『歴史と地理 日本史の研究』の「賢問愚問」「解説」などから再編集して書籍化の第2弾。『日本史の研究』で取り上げた日本史の疑問と解答・解説から、選りすぐりのものをわかりやすく書き改めて紹介する。

A 5判 200頁

1,650円(本体1,500円)

59123-3 C0021 (22. 3)

4コマで日本史

日本をみなおす50の視点

小越建典 著

中里裕司 監修

日本の歴史や特有の様々な概念をテーマ別に取り上げ、歴史上の変化やキーポイントを4コマで紹介。時代を跨ぎダイジェストで要点を見渡すことによって「日本ってどんな国?」を考えるきっかけを提供する。

四六判 192頁

[電子書籍あり] 1,760円(本体1,600円)

15178-9 C0021 (20.11)

日本史のなかの埼玉県

水口由紀子 編

身近な史跡・文化財を通して、埼玉の歴史と文化を読み直す。縄文海進でできた奥東京湾、東日本屈指の巨大古墳、割拠する武蔵武士、首都江戸を支えた産業の中心地——多様な特徴から、他地域や世界との繋がりを知る。

B 6変型判 192頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円)

24901-1 C0021 (23. 3)

日本史のなかの神奈川県

谷口 肇 編

身近な史跡・文化財を通して、神奈川の魅力や多彩な文化を知る。相模川が育んだ先史の遺跡、古都鎌倉、小田原城、江戸の行楽地大山・江ノ島・箱根、横浜開港、戦時を語る地下壕など。

B 6変型判 192頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円)

24903-5 C0021 (23. 8)

日本史のなかの愛知県

梅本博志 編

身近な史跡・文化財を通して、愛知の歴史と文化を読み直す。尾張・三河という古代以来の異文化の交わり、信長・秀吉・家康を輩出した豊かな生産力、瀬戸・常滑を抱える全国屈指のやきもの王国、中京圏として経済的な存在感を示す近現代——。

B 6変型判 192頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円)

24904-2 C0021 (24. 5)

日本史のなかの宮城県

関口重樹 編

身近な史跡・文化財を通して、宮城の歴史と文化を読み直す。里浜の縄文人、律令国家と多賀城、歴史を紡ぐ名所・松島、花開く伊達文化、世界農業遺産・大崎耕土、化石の宝庫・南三陸町など。

B 6変型判 192頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円)

24905-9 C0021 (24. 8)

日本史のなかの千葉県

吉野健一 編

身近な史跡・文化財を通して、千葉の歴史と文化を読み直す。下総・上総・安房三国の成立と地理的特徴、頼朝を補佐した幕府成立の立役者両総平氏、水運の発達で全国に知られていく醤油などの特産物、戦後の発展を象徴する一大事業京葉臨海工業地帯の造成ほか。 **B 6変型判 192頁**
1,980円(本体1,800円) 24906-6 C0021 (25. 3)

日本史のなかの広島県

白井比佐雄 編

身近な史跡・文化財を通して、広島県の歴史と文化を読み直す。三次盆地の古墳群、厳島神社、毛利元就と戦国時代、瀬戸内の港町と内陸の宿場町、軍都から国際平和都市へ、壬生の花田植など。

B 6変型判 192頁
1,980円(本体1,800円) 24907-3 C0021 (25. 4)

暗記じゃなくて考えたら日本史はこんなにおもしろい

小泉秀人 著

歴史は単に「暗記するもの」から「考えるもの」へ。約50年にわたり高校で教鞭をとってきた筆者が、読者への投げかけを織り交ぜながら、古代から現代まで全時代の日本史を、口語調で描く。学ぶ醍醐味や知る楽しさが詰まった一冊。

A 5判 328頁
[電子書籍あり] 2,200円(本体2,000円) 59133-2 C0021 (23. 5)

明日への日本歴史 全4巻

五味文彦 著

史料を読み、考え、歴史を叙述する…。『詳説日本史』の著者による日本全史。
四六判 各2,750円(各本体2,500円)

1 古代国家と中世社会

432頁 15221-2 C0021 (23.5)

2 戦国の社会と天下人の国家

368頁 15222-9 C0021 (23.6)

3 近世の政治と文化の世界

400頁 15223-6 C0021 (23.7)

4 近代社会と近現代国家

448頁 15224-3 C0021 (23.8)

日本史の現在 全6巻

歴史は、新史料の発見や研究の進展に応じて、つねに書き改められていく。そうした日本史における研究・議論を、第一線で活躍する研究者たちが、わかりやすく解説。
四六判

1 考古 設楽博己 編

376頁 3,300円(本体3,000円) 59138-7 C1021 (24. 5)

佐藤宏之 海部陽介 太田博樹 工藤雄一郎 中沢達彦 根岸洋 上野祥史 福永伸哉 若狭徹 高田貴太 林部均 千田嘉博 横井幸也 菊池実 関根達人 宮城弘樹 光本順 榎月学 佐々木由香 末田徹 岡本田大

2 古代 大津 透 編

328頁 3,300円(本体3,000円) 59139-4 C1021 (24. 5)

榎本淳一 丸山裕美子 細井浩志 小倉慈司 磐下徹 市大樹 武井紀子 神戸航介 山本祥隆 浅野啓介 北村安裕 大高広和 吉永匡史 佐々田悠 稲田奈津子 神谷正昌 黒須友里江 三谷芳幸 今正秀

3 中世 高橋典幸 編

336頁 3,300円(本体3,000円) 59141-7 C1021 (24. 6)

樋口健太郎 鎌倉佐保 佐藤雄基 遠藤珠紀 田中大喜 菊地大樹 西谷正浩 田村憲美 榎本涉 吉田賢司 三枝晩子 前川祐一郎 末柄豊 川戸貴史 絹貫友子 岡本真 本下聡 大塚紀弘 丸島和洋

4 近世 牧原成征 編

340頁 3,300円(本体3,000円) 59142-4 C1021 (24. 6)

松澤克行 木村直樹 齊藤祐子 村和明 千葉拓真 町田哲 大橋幸泰 渡辺美季 永原健彦 岩淵令治 渡辺浩一 引野享輔 福澤徹三 神田由聡 谷本晃久 海原亮 横山百合子 荒木裕行 横山伊恵

5 近現代① 鈴木 淳 山口輝臣 沼尻晃伸 編

292頁 3,300円(本体3,000円) 59143-1 C1021 (24. 7)

久住真也 西川誠 湯川文彦 小林和幸 佐々木雄一 市川大祐 飯塚一幸 一瀬俊也 前田亮介 満南勇 差波重紀子 中野日徹 高崎修一 鈴木智行 園分航士 若月剛史

6 近現代② 鈴木 淳 山口輝臣 沼尻晃伸 編

304頁 3,300円(本体3,000円) 59144-8 C1021 (24. 7)

古川隆久 福家崇洋 小野沢あかね 外村大 安達宏昭 大串潤児 齋藤邦明 河西秀成 加藤千香子 戸邊秀明 老川麗喜 小堀誠 堀出浩之 中林真幸 二谷智子

将棋の日本史

日本将棋はどのように生まれたのか

永井 晋 著

宮廷文化から武家、寺社、都市の富裕層へ。中国から伝わった象棋は、どのように変化して日本の文化に根付いたのか。さまざまな史料や出土駒から検証する。

四六判 200頁

[電子書籍あり] 2,200円(本体2,000円) 59134-9 C0021 (23. 6)

列島の人々は火山災害にどのように向き合ってきたのか
火山災害考古学から今を考える

五味文彦 監修 栗畑光博 編

市川健夫 篠原武 幡中光輔 杉山秀宏 藤村翔 小島敦子
松崎大嗣 丸山浩治 天野賢一 杉山浩平 金子節郎 関俊明 青野友哉

旧石器時代から近世まで、列島各地における火山災害遺跡の発掘から過去を学び、防災に活かす。列島の火山が活動期に入ったといわれる今、過去の火山災害の真相と、人々がどう立ち向かってきたかを考古学から明らかにする。

A 5判 264頁

6,600円(本体6,000円) 52031-8 C3021 (24. 1)

政治の米・経済の米・文化の米

稲と米で読む日本史

新谷尚紀 著

水田稲作の伝来以降、日本という国と日本人をつくってきた根本である「稲と米」がいかに重要な存在であったのか。食文化だけでは語れない、「稲と米」と日本人の深いつながりを探る。

四六判 488頁

3,300円(本体3,000円) 59147-9 C0021 (25. 3)

大化改新と東アジア

井上光貞 青木和夫 門脇禎二 武田幸男
西嶋定生 横山浩一 著

品切

第4回古代史シンポジウム(1980年朝日新聞社主催)における講演、シンポジウムの内容を再録。6～7世紀の大化改新をめぐる「肯定・否定」の学界論争に、考古学、中国・朝鮮史の研究成果をふまえ、新たな大化改新像に迫る。

1,656円(本体1,505円)

60120-8 C0020 (81, 2)

四六判 332頁

日中古代文化の接点を探る

王 仲殊 黄 展岳 徐 萍芳 王 世民
井上光貞 上田正昭 岡崎 敬 田辺昭三
西嶋定生 著

品切

第5回古代史シンポジウム(1981年)の内容をすべて収載。中国社会科学院考古研究所から講師を招き、古代中国における墳丘墓と日本における古墳の、それぞれの内容と関連性を、最新の研究成果をふまえ検討する。

2,093円(本体1,903円)

60140-6 C0020 (82, 5)

四六判 380頁

藤ノ木古墳とその文化

森 浩一 石野博信 編

大塚初重 大林太良 金達寿 豊田有恒 和田幸

品切

1988年秋開棺された藤ノ木古墳。その開棺状況から、副葬品、年代、被葬者にいたるさまざまな問題を討議。藤ノ木古墳とその文化が日本古代史上にもたらす意味や、朝鮮半島をはじめ東アジアとの関連などを検討し、古代世界の謎に迫る。

1,815円(本体1,650円)

60220-5 C0021 (89, 5)

四六判 304頁

倭国大乱と吉野ヶ里

大塚初重 小田富士雄 佐伯有清 佐原 真
高島忠平 豊田有恒 山尾幸久 著

品切

日本で最大規模の環濠集落として注目を浴びる吉野ヶ里遺跡。物見やぐら・甕棺墓群などから提起された防御的集落と墳墓の問題、倭国大乱との関わり、弥生時代の西日本と東日本、邪馬台国の所在の問題などを、考古学・文献史学の専門家が説き明かす。

1,728円(本体1,571円)

60240-3 C0021 (90, 3)

四六判 272頁

みちのく古代 ^{えみし}蝦夷の世界

大塚初重 岡田茂弘 工藤雅樹 佐原 真
新野直吉 豊田有恒 著

品切

北辺からの刺激、中央との関わりのなかで、独自の生活と文化を築いた古代蝦夷とは何か…。最新の発掘成果をもとに、考古学・文献史学の専門家が討議し、古代東北世界の実像に迫る。

1,923円(本体1,748円)

60260-1 C0021 (91, 5)

四六判 264頁

悲劇の宰相 長屋王邸を掘る

大塚初重 辰巳正明 豊田有恒 永山久夫
平野邦雄 町田 章 著

品切

平安京の発掘から20余年…。10万点におよぶ木簡の大量出土により、長屋王・吉備内親王の全貌が浮き彫りにされる。長屋王邸の生活様式・食膳・貴族文化…などの実像に迫る。

1,708円(本体1,553円)

60290-8 C0021 (92, 5)

四六判 224頁

東日本の古墳の出現

甘粕 健 春日真実 編

品切

いま、脚光をあびる東日本の考古学。最新の土器編年を軸に、「倭国大乱」「邪馬台国」、そして大和王権の東日本進出を考える。1993年日本考古学協会シンポジウム。

4,593円(本体4,175円)

61650-9 C0021 (94.11)

A 5判 240頁

縄文鼎談 三内丸山の世界

岡田康博 小山修三 編

品切

縄文時代のイメージを大きく塗りかえた驚異の集落、三内丸山遺跡。各分野の専門家が5000年の時を超えて語る。〈鼎談ゲスト〉梅棹忠夫・河合隼雄・小松左京・埴原和郎・石毛直道・松本敏子・崎山理・佐藤洋一郎・九戸眞樹・羽生淳子・及川昭文・市川金丸・佐々木高明。

1,718円(本体1,562円)

60430-8 C0021 (96.11)

四六判 256頁

考古学探訪の基礎用語

田村晃一 合田芳正 編

遺跡めぐりが一層楽しくなる考古学ファンの必携書。簡潔な解説と200点以上の図版で理解を深める基礎用語辞典。付録に全国遺跡博物館・資料館一覧。

A 5変型判 192頁

品切

1,980円(本体1,800円)

60880-1 C0021 (00. 7)

前方後円墳に学ぶ

近藤義郎 著

50年以上にわたって発掘調査を続けてきた著者が、前方後円(方)墳の誕生、特質、変化・衰亡の諸問題を縦横に語る。

A 5判 344頁

3,520円(本体3,200円)

60490-2 C1021 (01. 1)

検証 天皇陵

外池 昇 著

神武天皇から昭和天皇まで、歴代123代の全天皇陵の歴史を、空撮写真、古写真、絵画資料を活用し、崩御から埋葬にいたる経緯とともに、陵墓の規模や、「治定」の当否について解説。全天皇陵を同様に解説した初めての書籍。

四六判 384頁

2,200円(本体2,000円)

15102-4 C0021 (16. 7)

三国志がみた倭人たち

魏志倭人伝の考古学

設楽博己 編 佐原真 田川肇 広瀬和雄 石川日出志 西本豊弘
藤尾慎一郎 仁藤敦史 安藤広道 宮本長二郎
西谷大 岸本直文 春成秀爾 赤塚次郎 白石太一郎

3世紀の日本の状況を伝える『魏志』倭人伝。食卓・いでたち・戦・卑弥呼など、倭人の世界を最新の考古学や古代史の調査・研究成果をもとに描く。

四六判 304頁

2,970円(本体2,700円)

60810-8 C0021 (01. 4)

ワカタケル大王とその時代

埼玉稲荷山古墳

小川良祐 狩野 久 吉村武彦 編

橋本博文 車崎正彦 岡安光彦 森博達 武田佐知子
品切

埼玉古墳群のひとつ稲荷山古墳で発掘された鉄剣から、115文字の金錯銘鉄剣が発見された。鉄剣発見から早20余年、これまでの研究成果を総括して開かれたシンポジウムをふまえての書籍化。従来の謎が解かれるか？

四六判 248頁

2,090円(本体1,900円)

60790-3 C0021 (03. 5)

古代多胡碑と東アジア

東野治之 佐藤 信 編

秋池武 池田温 杉村邦彦 仲川恭司 前沢和之

日本三古碑の1つにも数えられる「多胡碑」の文化財的・書道的価値や、この碑から考えられる朝廷や渡来人との関係・漢字文化の受容の問題・地元東国社会の実情などについて論じる。平成16年7月に開催された公開シンポジウムの書籍化。

B 5判 212頁

10,266円(本体9,333円)

52360-2 C3021 (05. 2)

出雲国風土記

沖森卓也 佐藤 信 矢嶋 泉 編著

古代神話・伝承の宝庫『出雲国風土記』を、日本史学・日本文学・日本語学の研究者が学際的に共同研究した成果をまとめた書。最善本の細川家本を尊重し、恣意的な校訂を排した本文を提供。それにもとづき奈良時代の日本語による訓読を再現した。

A 5判 152頁

1,870円(本体1,700円)

59390-9 C1021 (05. 4)

播磨国風土記

沖森卓也 佐藤 信 矢嶋 泉 編著

『播磨国風土記』を、日本史学・日本文学・日本語学の研究者が学際的に共同研究した成果をまとめた書。唯一の善本である天理図書館本を尊重し、恣意的な校訂を排した本文を提供。それにもとづき、奈良時代の日本語による訓読を再現した。

A 5判 116頁

1,870円(本体1,700円)

59391-6 C1021 (05.10)

品切

常陸国風土記

沖森卓也 佐藤 信 矢嶋 泉 編著

品切

『常陸国風土記』を、日本史学・日本文学・日本語学の研究者が学際的に共同研究した成果をまとめた書。水戸彰考館本の忠実な写本とされる菅政友本を底本とし、恣意的な校訂を排した本文を提供。それにもとづき奈良時代の日本語による訓読を再現した。 **A 5判 112頁**
1,870円(本体1,700円) 59392-3 C1021 (07, 4)

豊後国風土記 肥前国風土記

沖森卓也 佐藤 信 矢嶋 泉 編著

在庫僅少

『豊後国風土記』『肥前国風土記』を、日本史学・日本文学・日本語学の研究者が学際的に共同研究した成果をまとめた書。それぞれ最善本の冷泉家本・猪熊本を尊重し、恣意的な校訂を排した本文を提供。それにもとづき奈良時代の日本語による訓読を再現した。**A 5判 112頁**
1,870円(本体1,700円) 59393-0 C1021 (08, 2)

風土記

常陸国・出雲国・播磨国・豊後国・肥前国

沖森卓也 佐藤 信 矢嶋 泉 編著

品切

写本の現存する5つの風土記を、日本史学・日本文学・日本語学の研究者が学際的に共同研究した成果をまとめた書。それぞれの最善本を尊重し、恣意的な校訂を排した本文に基づき、奈良時代の日本語による訓読を再現した。さらに索引を付し、合冊で提供。 **A 5判 580頁**
5,500円(本体5,000円) 59084-7 C1021 (16, 1)

古代氏文集

住吉大社神代記・古語拾遺・新撰龟甲記・高橋氏文・秦氏本系帳

沖森卓也 佐藤 信 矢嶋 泉 編

品切

古事記・日本書紀にはみられない古代氏族の伝承を伝える諸史料を収載。新たな校訂による本文と、平安時代初期の読み方を復元した総ルビ付きの訓読文を提供。日本古代史・国語学・国文学の研究者による学際的な共同研究の成果。 **A 5判 324頁**
4,400円(本体4,000円) 59394-7 C1021 (12, 4)

古代山城 ^{きくち} 鞠智城を考える

2009年東京シンポジウムの記録

笹山晴生 監修

大田幸博 岡田茂弘 佐藤信 濱田耕策

近年の発掘で、多くの遺構や遺物が発見され、注目を集めている熊本県の「鞠智城跡」。史跡としての整備が進むなかで、改めて鞠智城の特質や歴史的意義、今後の課題を考える。 **A 5判 184頁**

1,650円(本体1,500円) 59068-7 C1021 (10,11)

古代東国の地方官衙と寺院

佐藤 信 編

在庫僅少

荒井秀規 近江俊秀 田尾誠敏 中村順昭 森公章 三舟隆之 宮瀧文二 井上翔 大村浩司 山路直充 川口武彦 糸川崇 田中弘志 馬場保之 滝沢匡 出浦崇 中村渉 知久裕昭 栗田一生 深谷昇 吉原啓 藤木海

日本古代の地方官衙について、本書では特に東国での発掘調査の成果を検証するとともに、官衙と一体であった寺院との関係に焦点をあてつつ、その実像に迫る。2015年史学会例会をもとに編集。 **B 5判 256頁**

4,950円(本体4,500円) 52023-3 C3021 (17, 8)

縄文の列島文化

岡村道雄 著

日本列島の縄文時代は、地域によって異なる文化を育んでいた。集落の周辺に作物を植え、堅穴住居にも土壁を用い衣食住にも工夫をこらすなど、豊かな縄文人の生活について論じる。 **四六判 240頁**

1,980円(本体1,800円) 15133-8 C0021 (18, 7)

古墳と国家形成期の諸問題

白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会 編

白石太一郎先生の傘寿の記念論文集。第Ⅰ部は古墳と古墳文化、第Ⅱ部は国家形成と古代文化、合わせて78本の論文で構成。 **B 5判 486頁**

品切

17,600円(本体16,000円) 52027-1 C3021 (19,10)

読み解き古代史料

石上英一 加藤友康 田島 公 山口英男 著

古文書・古記録を約60点取り上げ、読み解き方を懇切丁寧に解説。写真と見比べながら、1文字ずつ読解、語句説明や現代語訳も付す。さらに文書の様式や機能、儀礼や政務など、古代史研究に必須の知識が習得できる。

B5判 176頁

3,300円(本体3,000円)

59048-9 C1021 (24. 7)

親鸞と東國農民

笠原一男 著

品切

親鸞をめぐる思想的・教団史的・社会史的諸問題を親鸞の歩みと関連のうちに考察する。親鸞の布教の唯一の場ともいえる東國の農民と真宗との関係に重点をおき、抽象的な概念にとらわれることなく具体的な問題を取りあげて、諸問題の解明を試みる。

A 5判 448頁
4,400円(本体4,000円) 61120-7 C3021 (57, 4)

地頭及び地頭領主制の研究

安田元久 著

品切

封建制確立期の問題をふまえながら、鎌倉時代の地頭制の構造と本質を明らかにする。同時期の土地制度・土地経済・荘園の研究においても、深い関連性をもつ地頭制に関する著者の研究論文の集大成。巻末に鎌倉時代地頭表を付す。

A 5判 528頁
4,624円(本体4,204円) 61210-5 C3021 (61, 2)

一向一揆の研究

笠原一男 著

品切

戦国時代約1世紀余りのあいだ、戦国大名領の形成と密接な関係を保ちながら展開されてきた一向一揆の諸問題を、真宗本願寺教団の発展の中で、宗教的・社会的・政治的など広い角度から検証し、中世史における重要課題としてとらえる。

A 5判 912頁
11,748円(本体10,680円) 61130-6 C3021 (62, 6)

新訂 日本浄土教成立史の研究

井上光貞 著

品切

新仏教の一つとしての鎌倉浄土教の誕生が、いわゆる宗教改革の名にふさわしい思想改革の大きな要素であることに着目し、浄土教が中国から移植された飛鳥時代から、広く民衆の世界に浸透した鎌倉初期にいたるまで、その発展の歴史を概観する。

A 5判 492頁
4,400円(本体4,000円) 61140-5 C3021 (75, 2)

日本初期封建制の基礎研究

安田元久 著

品切

日本における封建制度成立期を、鎌倉幕府創始期とする基本的立場にたつて、その性格規定、政治的・社会的特質を明らかにするとともに、その立論の基礎となる諸問題を統一的に考察する。

A 5判 436頁
4,956円(本体4,505円) 61220-4 C3021 (76, 7)

中世農業史論

中村吉治 著

品切

中世末～近世初期の日本封建社会の転換期における農業の実態を実証的に論述する。中世領主と農民の関係、灌漑用水、戦国末・幕藩初期の勸農政策、近世初頭の農業労働などを取りあげ、中世から近世への移行の土台をなす重要な一側面を明らかにする。

A 5判 330頁
4,180円(本体3,800円) 61230-3 C3021 (76, 11)

院政期社会の研究

五味文彦 著

品切

古文書を中心に説話・記録などの性格を生かして院政期社会を多角的に分析究明した著者論文の集大成。4部構成からなり、院政期における社会を、政治・経済・宗教の分野から、諸人物や諸階層の人々までを詳細に分析。

A 5判 536頁
6,202円(本体5,638円) 61560-1 C3021 (84, 11)

日本中世史像の再検討

網野善彦 石井 進 上横手雅敬 大隅和雄
勝俣鎮夫 著

1986年に開催の「第十回北海道高等学校日本史教育研究大会」のシンポジウムの講演をもとに編集。〈内容〉中世の時期区分をめぐって／鎌倉時代政治史像の再検討／中世の荘園と村／中世から近世へ／中世の文化をめぐって

B 6判 216頁
1,766円(本体1,605円) 60210-6 C0021 (88, 6)

長福寺文書の研究 石井 進 編

五味文彦 村井章介 安田次郎 伊藤毅 近藤成一 榎原雅治 高田陽介
新田一郎 本郷和人 本郷恵子 桜井英治 鴨川達夫 高橋慎一朗
中島圭一 末柄豊 斉藤研一 阿部浩一 前川祐一郎 徳仁親王
小林健彦 久保賢司 川島優美子 木村真美子 高橋秀樹 小島つとむ
上田紋代 大井淳子 岡林玲子 酒入陽子

品切

貴重な文化財や古文書の所蔵で知られる京都の名刹、長福寺の所蔵にかかる文書約200点、および全国各地に分蔵されている文書約1000点、合わせて1263点を年代順に収録し、長福寺文書の全貌を明らかにする。巻末には所蔵者目録と花押一覧を付す。

A 5判 608頁

6,942円(本体6,311円)

61730-8 C3021 (92. 1)

新しい中世史像の展開

歴史科学協議会 編

入間田宣夫 村井章介 鈴木哲雄 永原慶二 佐藤和彦 木村茂光
荒野泰典 関周一 深谷克己 池上裕子 則竹雄一

品切

日本中世史像を新しい視角から問い直した対談集。領主制・内乱期社会・東アジア・戦国移行期をテーマに対論する。〈内容〉新しい中世国家像を探る／「太平記」の世界／前近代の対外関係史研究を巡って／民から見た戦国争乱。

四六判 220頁

2,619円(本体2,381円)

60380-6 C0021 (94. 5)

中世人の生活世界

勝俣鑽夫 編

新田一郎 前川祐一郎 田中克行 鴨川達夫 桜井英治 中島圭一
及川亘 宇佐見隆之 末柄豊 斉藤研一 阿部浩一 金子哲
高田陽介 神田千里

品切

訴訟制度、金融・商業活動、村や寺と地域の結びつきなど、中世後期の人々の暮らしに多角的にアプローチした論文集。現在につながる社会の諸相を史料やモノを通して解説する。

A 5判 416頁

5,773円(本体5,248円)

61040-8 C3021 (96. 3)

中世後期における東アジアの国際関係

大隅和雄 村井章介 編

池田観 河宇鳳 熊遠振
中村和之 佐々木雅男 西村喜憲

第20回北海道高等学校日本史教育研究大会のシンポジウム「日本史教育における国際化とは」をもとに構成。日本史教育を世界史的視野でとらえるため、倭寇・アイヌ・海禁などを事例として、国家の枠を超えた東アジアの国際関係のあり方を問う。

B 6判 218頁

1,885円(本体1,714円)

64460-1 C1022 (97. 7)

中世の惣村と文書

田中克行 著

品切

新進気鋭の中世史研究者として将来を嘱望されながら、わずか26歳で夭折した田中克行氏の遺著。本書の中核をなすのは菅浦文書と菅浦惣に関する研究で、菅浦文書を、中世を代表する惣村文書として、その存在形態を正しく位置づけたことの意義は大きい。

A 5判 424頁

8,580円(本体7,800円)

52040-0 C3021 (98.11)

北の内海世界

北奥羽・蝦夷ヶ島と地域諸集団

入間田宣夫 小林真人 斉藤利男 編

小口雅史 誉田慶信 佐々木馨 中村和之

津軽海峡を挟んだ北海道と北奥羽地域の人々にとって、海峡は、社会的・経済的・文化的活動の上でも、異なる世界ではなく、人々が日常的に行き来する「内海」であった。北方史研究で画期的となったシンポジウムの記録。

B 6判 240頁

2,090円(本体1,900円)

60750-7 C1021 (99. 7)

中世の興福寺と大和

安田次郎 著

代表的な寺院権門・南都興福寺の大和支配を新しい切り口から描く。日使・流鏑馬・春日権現験記絵・勧進・悪党など、新史料を駆使して門跡の素顔に迫る。

A 5判 336頁

5,720円(本体5,200円)

52150-6 C3021 (01. 7)

美の光景 1

伊勢物語絵巻の探究

和泉市久保惣記念美術館本の分析

江上 綏 監修 相原充子 著

品切

『伊勢物語絵巻』は完全な形で現存するものではなく、作者も制作の経緯も不明である。彩色された最古の『伊勢物語絵巻』を美術的に探り、その謎に迫る。

A 5判 192頁

4,180円(本体3,800円)

52180-3 C3071 (02. 1)

美の光景 2

絵因果経の研究

江上 綏 監修 坪井みどり 著

5世紀半ばに中国に伝わった『過去現在因果経』に絵が施されたのはいつ頃で、どのように日本に伝播したかを美術史的・文化史的に探る。 A 5判 224頁

品切

4,180円(本体3,800円) 52320-3 C3071 (04. 6)

美の光景 3

王朝美術における結縁装飾法華経

江上 綏 監修 ヘレーネ・アルト 著

平安納経や慈光寺経など今に残る華麗装飾結縁法華経について、美術史的観点と歴史的観点双方から、その制作の背景を探る。 A 5判 288頁 カラー48頁

5,280円(本体4,800円) 52321-0 C3071 (10.10)

北の環日本海世界

書きかえられる津軽安藤氏

村井章介 斉藤利男 小口雅史 編

小嶋芳孝 榊原滋高 森山嘉蔵 遠藤巖 菊池俊彦 柳原敏昭

品切

青森県深浦町を中心とした津軽西浜地方は、古代・中世に葛西氏一族や日の本將軍安藤氏らの活躍で、北の世界の中心をなし、大陸との結びつきから、環日本海世界の一角を形成していた。深浦シンポジウムの記録を編集。 B 6判 208頁

1,980円(本体1,800円) 60530-5 C0021 (02. 5)

「鎌倉」とはなにか

中世、そして武家問う

関 幸彦 著

歴史は「鎌倉」になにを見つけ、残し、そして創ったのか？ 武家の都「鎌倉」の歴史的古層を掘り起こし、時代をさかのぼりながら、史蹟からのメッセージを読み解く。 四六判 200頁

2,200円(本体2,000円) 59340-4 C0021 (03. 5)

鎌倉殿誕生〈新装版〉

源頼朝

関 幸彦 著

源頼朝の生涯を描きながら、武家の棟梁として、いかに各地の武士団を締め上げ、王となっていたのか。周辺の人物を交えて紹介する。 四六判 216頁

1,980円(本体1,800円) 59124-0 C0021 (22. 2)

「鎌倉」の時代

福田豊彦 関 幸彦 編

村尾元忠 伊藤一美 中込律子 高橋秀樹 宮崎康充 豊永聡美
上横手雅敬 久保田和彦 海老名尚 鈴木哲 糟谷優美子 吉井宏 横道雄
野口実 岡田清一 大三輪龍哉 小島つとむ 菊池紳一 下山忍

品切

古記録・説話・絵画・考古などの史料を基に、武士の都「鎌倉」が日本の歴史にどのような影響を与えたのかを、多角的かつ総合的に捉え直した鎌倉学入門書。 四六判 440頁

2,750円(本体2,500円) 15071-3 C0021 (15. 1)

源家滅亡

尼御台所政子と北条義時の時代

菊池紳一 著

鎌倉幕府創設からわずか3代で途絶えた源家。その後、幕府の権力を握った北条氏。頼朝死後の幕府の動揺期を支え、礎を築いた源家の家長政子と幕府の中心人物となった義時の動向から、日本史上初の武家政権成立史を読み解く。 四六判 432頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円) 15206-9 C0021 (22. 3)

寺院・検断・徳政

戦国時代の寺院史料を読む

勝俣鎮夫 編

阿諏訪青美 井上聡 及川亘 神田千里 久留島典子
斉藤研一 坂井孝一 末柄豊 高田陽介 高橋典幸
藤原重雄 前川祐一郎 三枝暁子 安田次郎 山本紀子 涌井美夏

在庫僅少

戦国時代の寺院と在地社会との関係など、薬師寺・法隆寺などの寺院史料を読み、社会を覗く。個別論文、史料翻刻、用語集、中世法隆寺・薬師寺関係文献リスト、薬師寺所蔵の未翻刻史料を収録した論文集。 A 5判 456頁

5,500円(本体5,000円) 52190-2 C3021 (04. 9)

中世花押の謎を解く

足利將軍家とその花押

上島 有 著

鎌倉～戦国時代の歴代足利將軍家の花押について、古文書の原本にあたりながら、丹念に筆順や形式を検討。新しい花押研究の視点を提示する。 B 5判 370頁

品切

14,300円(本体13,000円)

52330-2 C3021 (04.11)

義経とその時代

大三輪龍彦 関 幸彦 福田豊彦 編

上横手雅敬 吉井宏 菊池紳一 久保田和彦 岡田清一
宮崎康充 伊藤一美 下山忍 高橋秀樹 小島つとむ

品切

2005年1月開催の安田元久先生十年祭シンポジウム「源義経とその時代」の記録を中心に、関連の諸論考を集め、義経論の現在を考える。伝説に彩られた義経像を多角的に検討する。 四六判 208頁

1,980円(本体1,800円)

59041-0 C1021 (05.5)

石井進の世界 全6巻

石井進著作集刊行会 編

在庫僅少

日本中世史研究の泰斗・石井進が辿った軌跡を、3つの書物と対談・書評などで構成し、今後の中世史研究の方向性に関わる著作を収録、その世界の広がりや深み、魅力を味わう。 四六判 各7,150円(各本体6,500円)

1 鎌倉幕府

品切 360頁 59051-9 C1321 (05.10)

2 中世武士団

品切 410頁 59052-6 C1321 (05.11)

3 書物へのまなざし

品切 392頁 59053-3 C1321 (05.12)

4 知の対話

品切 424頁 59054-0 C1321 (06.1)

5 中世のひろがり

品切 404頁 59055-7 C1321 (06.2)

6 中世史へのいざない

品切 444頁 59056-4 C1321 (06.3)

北方世界の交流と変容

中世の北東アジアと日本列島

天野哲也 白杵 勲 菊池俊彦 編

前川要 佐々木史郎 筑島栄紀 中村和之 村岡倫
長谷巖 吉嶺茂樹 板橋政樹 赤間幸人 春本孝之

中世の北海道は北方の諸民族との交流が盛んであったことが近年明らかにされている。その実態調査を進めている研究者と高校教師が連携し、歴史教育にどのように研究成果を反映させていくべきかを考察する。2005年8月開催の公開シンポジウムの記録集。 B 6判 232頁

2,090円(本体1,900円)

59061-8 C1021 (06.8)

中世の寺院と都市・権力

五味文彦 菊地大樹 編

生駒哲郎 大塚紀弘 吉澤一成 高梨真行 三枝暁子 細川武松
小野澤真 畠山聡 宮野純光 川本慎自 竹田和夫 山田康弘
在庫僅少

中世宗教史研究会における研究報告をもとに、中世社会の縮図ともいえる寺院社会を、都市と権力の問題を軸に究明し、新たな宗教史研究の方向性を探究した論文集。 A 5判 432頁

5,500円(本体5,000円)

52012-7 C3021 (07.4)

天皇の思想

關う貴族北畠親房の思惑

本郷和人 著

代々続く北畠家。天皇を巧妙に操りながら政治に関与する武士北畠親房。南朝についた親房の思惑と天皇の関係を中心に描く。 四六判 272頁

品切

1,980円(本体1,800円)

15004-1 C1021 (10.2)

中世都市研究15

都市を区切る

中世都市研究会

藤原良章 高橋修 佐々木健策 宇都洋平 向井裕知 細川武松 嶋谷和彦
山川均 堀本一繁 岩本馨 飯村均 馬淵和雄 関間俊明 水澤幸一
百瀬正恒 内堀信雄 西尾克己 重見高博 大庭康時 崎原恒寿

品切 「都市とは何か」連綿と問われ続けた問題を問い直す。「外部と遮断する」こと、「内部を区分けする」こと、身分差別、人と物との交流などを考える。 A 5判 344頁

3,960円(本体3,600円)

16051-4 C0021 (10.9)

中世都市研究16

都市のかたち 権力と領域

中世都市研究会 編

小野正敏 八重樫忠郎 七海雅人 大石直正 高橋孝 古川一明 入間田宣夫 及川真紀
鈴木弘太 美川主 秋山哲雄 大庭康時 村木二郎 藤田裕嗣 飯村均 柳原敏昭 広瀬季一郎
佐々木満 池谷初恵 伊藤啓雄 中井淳史 増野晋次 重見高博 坪根伸也 山本正昭

品切

鎌倉、京都、博多…日本の都市はどのように形成されてきたのか。「都市のかたち」を権力と領域から考える。世界文化遺産に選ばれた平泉で開かれた中世都市研究会の論考集。
A 5判 320頁

3,960円(本体3,600円)

16052-1 C0021 (11, 9)

中世都市研究17

都市的な場

中世都市研究会 編

五味文彦 飯村均 桜井英治 伊藤裕久 藤田裕嗣 仁木宏 鈴木康之
落合義明 伊藤正義 河野真知郎 鈴木弘太 佐々木健策 関間俊明
伊藤裕偉 田村昌宏 下高大輔 沢元保夫 幡上敬一 西野元勝 山本正昭

品切

網野善彦が提起した「都市的な場」とは何だったのか。気鋭の研究者が「網野都市論の衝撃」を捉え直す。2011年9月に鶴見大学で行われた中世都市研究会での発表、討論を収録の他、2010年度の全国「都市・城館研究の最新動向」も掲載。
A 5判 336頁

3,960円(本体3,600円)

16053-8 C0021 (12, 9)

中世都市研究18

中世都市から城下町へ

中世都市研究会 編

仁木 宏 玉井哲雄 中西裕樹 山上雅弘 大澤研一 山村亜希 下仲隆浩
出居 博 鈴木弘太 水本和美 関間俊明 内堀信雄 田村昌宏 牧田梨津子
平岡正宏 幡上敬一 大庭康時 山本正昭

品切

中世都市はいかにして近世城下町へ姿をかえたのか。空間構造、ネットワーク、権力などをキーワードに都市の本質に迫る。2012年の中世都市研究会大阪大会での報告と討論を掲載。
A 5判 296頁

3,960円(本体3,600円)

16054-5 C0021 (13, 9)

鎌倉研究の未来

中世都市研究会 編

五味文彦 西岡芳文 永田史子 古川元也
秋山哲雄 大塚紀弘 内藤浩之 古田土俊一
在庫僅少

未来に残す鎌倉の歴史遺産のための研究課題や問題点を探る。2013年9月に鎌倉で行われた中世都市研究大会の報告集。
A 5判 240頁

2,750円(本体2,500円)

16002-6 C0021 (14, 8)

日本海交易と都市

中世都市研究会 編

市村高男 井上寛司 小島道裕 木原光 松本美樹 長澤和幸 中司健一
村上勇 五味文彦 高橋一樹 水澤幸一 田中聡 向井裕知 和田学
松山充宏 田中曉徳 玉井哲雄

在庫僅少

海上交易と中世都市の関わりを様々な視点から読み解く。2014年の中世都市研究会益田大会「都市の景観」、2015年の上越大会「中世日本海の地域圏と都市」の報告を合わせて収録。
A 5判 304頁

4,400円(本体4,000円)

16003-3 C0021 (16, 8)

「宗教都市」奈良を考える

中世都市研究会 編

五味文彦 佐藤亜聖 前川佳代 狭川真一 山川均 高谷知佳 吉澤悟
河内将芳 幡鎌一弘

中世都市の展開過程を考えるうえでの「基準」としての奈良を、12世紀から17世紀にかけての長期間と景観から宗教、政治、一揆、近世への展望など多彩な報告から問う野心的な試み。2016年の中世都市研究奈良大会の論集。
A 5判 240頁

4,400円(本体4,000円)

16005-7 C0021 (17, 8)

港津と権力 中世都市研究会 編

中尾祐太 山上雅弘 伊藤幸司 吉成承三 大庭康時 池澤俊幸 水野哲雄
根津寿夫 大塚紀宜 新谷和之 佐伯弘次 綿貫友子 比佐陽一郎
森脇崇文 瀬戸哲也 仁木宏 山本隆一朗 林泰治 田上勇一郎 下田智隆
石井伸夫 向井公紀 重見高博 宮城一木 島田豊彰 小島靖彦
長谷川賢二 松林玲美 西本沙織 佐藤俊祐 北野隆亮 郡司早直

品切

多様な側面から考察する、中世の「東アジア海域の港市」博多と紀伊水道内海世界。2017年の福岡大会「港市としての博多」、2018年の徳島大会「武家の拠点と港町」の発表を元にした論集。多角的な研究を続けてきた中世都市研究会がここに完結。
A 5判 480頁

7,700円(本体7,000円)

16006-4 C0021 (19, 8)

闘諍と鎮魂の中世

鈴木 哲 関 幸彦 著

平安中期から室町期における敗れし者たちを、説話・伝承・伝記・能・狂言・歌舞伎などを通して探り、敗者の視点から時代を照射する。
四六判 212頁

品切

2,420円(本体2,200円)

15006-5 C1021 (10, 4)

中世社会の基層をさぐる

勝俣鎮夫 著

中世社会における家・火・神の関係性を解き明かし、中世人の生活意識と心性に迫る。旧稿6篇に新稿1篇を加えてまとめた日本中世社会論。**四六判 244頁**

品切

2,750円(本体2,500円) 59073-1 C1021 (11.10)

後白河院

王の歌

五味文彦 著

保元・平治の乱から源平合戦までの激動の三十数年間にわたり君臨した異色の王、後白河院。その実像を、院が愛した今様を通して解き明かす。**四六判 272頁**

在庫僅少

1,980円(本体1,800円) 15014-0 C1021 (11.4)

河原ノ者・非人・秀吉

服部英雄 著

差別に耐えながらも社会で重要な役割を担い、誇りを持って生きてきた人びと。被差別民の新たな活動と役割を、中世の視座から明らかにする。また、賤の視点をふまえつつ、豊臣秀吉の生涯についても言及する。**四六判 720頁**

3,080円(本体2,800円) 15021-8 C0021 (12.4)

鴨長明伝

五味文彦 著

飢饉、大地震、京中の大火など、「世の不思議」をたびたび体験し、書き記した長明は、五十の春を迎えて家を出る。時代の波に翻弄されつつも、身をもって立ち向かった長明の精神性を、『方丈記』『無名抄』などの著作から読み解く。**四六判 320頁**

1,980円(本体1,800円) 15034-8 C1021 (13.2)

蒙古襲来

服部英雄 著

神風は吹いたのか。太平洋戦争以前、日本が他国から攻撃を受けた唯一の戦いである、と言っても過言ではない「蒙古襲来」に関する通説こそは、砂上の楼閣だった。国内外の史料を駆使して蒙古襲来像を再検証する。**四六判 520頁 口絵16頁**

2,640円(本体2,400円) 15061-4 C0021 (14.12)

恋する武士 闘う貴族

関 幸彦 著

「武士は戦い、貴族は恋をする」と考えがちだが、人びとはいつの世も切ない想いととも苦悩する。暗殺の謀議、恋の復讐、密会現場の惨劇など、正史ではあまり語られることのなかった事実を通して、史料から新たな中世を描く話題作。**四六判 400頁**

1,980円(本体1,800円) 15074-4 C0021 (15.8)

諸国神社 一宮・二宮・三宮

渋谷申博 著

全国各地の一宮だけでなく、二宮・三宮の成立、祭神などについて考察し、「一宮制度」が国衙と密接に関連した宗教統治システムであったことを検証する。**四六判 352頁 口絵32頁**

1,980円(本体1,800円) 15086-7 C0021 (15.7)

神宮伝奏の研究

渡辺 修 著

中世および近世の朝廷における堂上公家の役職であった神宮上卿・神宮伝奏の体系的研究。さらに同職をはじめとして摂政・関白・武家伝奏・神宮奉行・官務・祭主による中近世の伊勢神宮行政について明らかにする。**A5判 440頁**

7,150円(本体6,500円) 52022-6 C3021 (17.3)

肉食の社会史

中澤克昭 著

日本人は殺生禁断と言われ、一般的には肉食は禁じられてきたと考えられているが、史資料には殺生をして肉を口にしたとの記述が多く見られる。貴族・武士・庶民はどうであったのか。「穢れ」「薬食い」など、肉食の実態に迫る好著。

四六判 432頁

2,750円(本体2,500円)

15138-3 C1021 (18. 8)

その後の鎌倉

抗心の記憶

関 幸彦 著

鎌倉時代は幕府の終焉で幕を閉じる。しかし「鎌倉」はその後も日本の歴史を規定した。本書の第Ⅰ部では、時間軸に特化して中世後期の東国史の大局を年代記風に語る。第Ⅱ部では、地域軸にフォーカスして鎌倉の史跡に宿された記憶を掘り起こす。

四六判 240頁

1,980円(本体1,800円)

59114-1 C1021 (18.12)

戦国合戦〈大敗〉の歴史学

黒嶋 敏 編

金子拓 田中信司 谷口央 畑山周平 播磨良紀
福原圭一 八木直樹 山田貴司

戦国時代の合戦での〈大敗〉と滅亡、その因果関係は疑いもないように思えるが、滅亡に直結しないケースは多い。本書では〈大敗〉の影響を、実証的な歴史学研究の方法によって確かめていく。

A 5判 296頁

[電子書籍あり] 2,750円(本体2,500円)

59115-8 C1021 (19. 5)

戦国の〈大敗〉古戦場を歩く

なぜ、そこは戦場になったのか

黒嶋 敏 著

戦国時代の古戦場のうち、〈大敗〉がおこった地を著者が訪れ、現地の地形や現在の景観、そして史料や地図から浮かび上がる様相を組み合わせ、「なぜ、そこは戦場になったのか」を考える。

四六判 192頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円)

59129-5 C0021 (22.10)

戦国期足利将軍研究の最前線

日本史史料研究会 監修 山田康弘 編

浅野友輔 小川雄 奥野友美 神田裕理 木下聡
木下昌規 小池辰典 浜口誠至 山下真理子

9代義尚から15代義昭までの各将軍とその時代について、専門研究者がわかりやすく解説。「応仁の乱以降、ほんとうに将軍は没落したのか?」「戦国大名や天皇と、将軍の関係は?」など、室町時代研究の最先端がわかる。

B 6変型判 256頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円)

15174-1 C0021 (20. 5)

戦国佐竹氏研究の最前線

日本史史料研究会 監修 佐々木倫朗 千葉篤志 編

泉田邦彦 今泉徹 坂本正仁 柴裕之 関周一
高橋修 中根正人 森木悠介

周囲を強大な勢力に囲まれながら、戦国を生き抜きぬいた、常陸の戦国大名・佐竹氏。戦国大名となるまでの軌跡を、重要な合戦や一族・家臣団構成などから専門研究者がわかりやすく解き明かす。

B 6変型判 336頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円)

15181-9 C0021 (21. 3)

戦国城郭に秘められた呪いと祈り

小和田哲男 著

「軍事施設」中心で語られてきた城郭研究において、近年、研究の進展により「城とは何か」という点が注目を集めている。本書は城郭研究の新たな潮流に注目し、城郭史を「陰陽道」「鎮守」「呪い」「祈り(宗教施設)」という観点から捉えなおす。

四六判 208頁

1,980円(本体1,800円)

15199-4 C0021 (22. 7)

宮廷女性の戦国史

神田裕理 著

天皇の娘である皇女と、天皇を支えた後宮の女房たちは天皇家の家政、足利将軍、織田信長、豊臣秀吉といった武家権力者との対外交渉、訴訟の仲介、祭祀の取りしきりなど、多方面で活躍した。彼女たちの知られざる姿を解明する。

四六判 296頁

[電子書籍あり] 1,980円(本体1,800円)

15205-2 C0021 (22. 4)

「室町殿」の時代

安定期室町幕府研究の最前線

日本史史料研究会 監修 久水俊和 編

生駒哲郎 石原比伊呂 遠藤珠紀 川口成人 呉座勇一 駒見敬祐
相馬和将 辻浩和 永山愛 藤井崇 松井直人 山田徹 芳澤元

[電子書籍あり]

室町殿という存在から、室町幕府の性格や諸機関との関係を検討し、鎌倉幕府とも江戸幕府とも異なる点を含めた「室町幕府とは何か」について、新進気鋭の研究者による15本の論考によって、最新研究を紹介しながら明らかにする。

1,980円(本体1,800円)

B 6変型判 352頁
15208-3 C0021 (21.12)

八条院の世界

武家政権成立の時代と誇り高き王家の女性

永井 晋 著

[電子書籍あり]

院政の全盛期を築いた鳥羽院の皇女八条院と、彼女を賢才としたう廷臣たちの物語。保元・平治の乱に始まる動乱の時代に、中立を保ちながら臣下と領地を守った皇女の生涯を、『玉葉』『明月記』などの史料から描く。

2,420円(本体2,200円)

四六判 288頁
59122-6 C0021 (21.6)

分裂と統合で読む日本中世史

谷口雄太 著

[電子書籍あり]

東西南北に広い日本列島では、歴史のなかで地域的・文化的多様性が育まれてきた。「南北朝」「応仁の乱」など、分裂と統合を繰り返す中世史の実態を研究最前線から紹介。国家における「分裂と統合」の普遍的な意味を探り、現代を考える手段を提示する。

1,980円(本体1,800円)

四六判 240頁
15179-6 C0021 (21.8)

絵巻で歩む宮廷世界の歴史

五味文彦 著

『天狗草紙』『一漚聖絵』『春日権現験記絵』など多数の絵巻から、祈り、四季を通した人々の生活、祭り、事変など、描かれた「歴史」を読み取ることで、新たな宮廷世界像を描く「絵巻が語る日本の歴史」を試みる。

3,850円(本体3,500円)

A 5判 448頁
15194-9 C0021 (21.10)

順徳院と日蓮の佐渡

流入二人の生涯

五味文彦 著

承久の乱に敗れた順徳天皇。蒙古襲来を予言し、幕府から危険視された日蓮。鎌倉時代配流された佐渡の地から後世に大きく影響を与えることになった二人の生涯をたどる。

1,980円(本体1,800円)

四六判 176頁
15228-1 C0021 (23.2)

北朝天皇研究の最前線

日本史史料研究会 監修

遠藤珠紀 水野智之 編

家永達嗣 生駒哲郎 石原比伊呂 小川剛生 田村航
中井裕子 久水俊和 三島暁子 森茂暁 山口道弘

[電子書籍あり]

天皇や日本史を理解するうえで重要な南北朝期。室町幕府や南朝研究が進展するなかで、ようやく光があたった北朝天皇の政治的役割や存在意義を捉え直す。

1,980円(本体1,800円)

B 6変型判 288頁
15240-3 C0021 (23.11)

橋の社会文化史

五味文彦 著

日本各地、各時代の橋の歴史は社会の変化を物語っている。本書は、資料と発掘調査に見る橋の文化史である。

3,850円(本体3,500円)

A 5判 224頁
15248-9 C0021 (24.8)

『吾妻鏡』の時代

関 幸彦 編

伊藤一美 岡田清一 川島優美子 菊池紳一 久保田和彦
小島つとむ 小林健彦 酒入陽子 下山忍 高橋秀樹

鎌倉時代の基本史料『吾妻鏡』を、多様なテーマで掘り下げた1冊。安田元久先生没後「三十年祭」を期しての刊行。

2,200円(本体2,000円)

四六判 232頁
59146-2 C0021 (24.12)

幕藩体制論

中村吉治 著

検地帳と宗門帳の実証的研究を基礎にして、近世の石高、武家から戦国大名論におよび、諸家の学説を批判しながら幕藩体制を解体期封建制であると結論する、著者の研究の集大成。
A 5判 378頁

品切

3,850円(本体3,500円)

61240-2 C3021 (72. 5)

近世往生伝集成 全3巻

笠原一男 編

近世の浄土宗を中心とする念仏者の、生きざまと死にざまを記した「往生伝」「往生論」20篇を収載。近世民衆の信仰生活の実態を明らかにする。
A 5判 平均600頁

品切
品切
品切第1巻 6,824円(本体6,204円)
第2巻 9,024円(本体8,204円)
第3巻 9,569円(本体8,699円)61410-9 C3014 (78. 3)
61420-8 C3014 (79. 9)
61430-7 C3014 (80. 2)

近世における在町の展開と藩政

熊本藩を中心として

森田誠一 著

幕藩体制下で農村と城下町の中間的性格をもつ「在町」=領域市場の歴史的役割を熊本藩を中心に分析し、さらに明治維新期にいたる藩政の特徴をとらえる。著者の永年にわたる研究成果の集大成。
A 5判 396頁

品切

5,500円(本体5,000円)

61170-2 C3021 (82.12)

近世村落の経済と社会

原田敏丸 著

近世村落の経済と社会に関する諸問題を、著者が永年にわたって研究した史料の考証と現地調査にもとづき、さらに村落生活の内部構造や論理に民俗的考察も加えて解明する。
A 5判 464頁

品切

5,276円(本体4,769円)

61550-2 C3021 (83. 2)

上州近世史の諸問題

山田武麿 著

上州の地域的な特殊性をふまえながら、近世の封建村落構造、蚕糸業経営の実態分析、商品流通と地域生産、キリシタン信仰の実態などを実証的に考察した、著者の研究業績の集大成。論文21編を収載。
A 5判 488頁

品切

5,276円(本体4,769円)

61280-8 C3021 (80. 7)

北関東下野における封建権力と民衆

秋元典夫 著

黒羽藩、喜連川藩、宇都宮藩および旗本・代官支配領など封建権力の発動形態に重点をすえ、これに対する農民や草莽などの対応を通じて、下野における封建権力および民衆の特質を明らかにする。著者の研究成果を集大成。
A 5判 448頁

品切

5,276円(本体4,769円)

61290-7 C3021 (81. 6)

八百八町の考古学 シンポジウム 江戸を掘る

大塚初重 古泉 弘 坂詰秀一 鈴木公雄
寺島孝一 豊田有恒 著

大都市東京の地下に眠る江戸遺跡の発掘を通して、そこに暮らした武士や町人など、さまざまな階層と職業をもつ人々の生活を再現する。
四六判 240頁

品切

1,815円(本体1,650円)

60410-0 C0021 (94. 8)

日本近世の地域と流通

原 直史 著

物貨がいかなる担い手によっていかに移動してゆくのか。村と地域、物流構造、市と仲間といった、物流による地域の結びつきを通して、近世社会を新たな視点から再検討する。
A 5判 392頁

品切

7,480円(本体6,800円)

61690-5 C3021 (96. 2)

江戸時代の村人たち

渡辺尚志 著

品切

江戸時代の信濃国諏訪郡（長野県富士見町域）を対象とし、村人の家や村、村を超えた地域の実態を明らかにし、さらにそれらと領主(藩)との関係を検討する。一地域に視点を定めて、これを多角的に掘り下げ、江戸時代の村と村人の具体的な姿を描く。 **四六判 256頁**
2,970円(本体2,700円) 61190-0 C1021 (97. 6)

領域支配の展開と近世

杉本史子 著

品切

主要な検討対象として文字史料のみならず、絵図も取り上げ、幕藩領主と村の領域掌握・支配の在り方、および村の訴訟権と法的地位を明らかにする。第1編〈境界領域と裁判〉、第2編〈国絵図作成の特質〉、第3編〈近世における地域・国家認識〉。 **A 5判 322頁**
9,350円(本体8,500円) 52030-1 C3021 (99. 7)

大江戸 歴史の風景

加藤 貴 編

山本光正 井上潤 森朋久
根崎光男 豊田和平 外山徹

巨大過密都市江戸と江戸の消費需要に応える周辺農村。江戸市民と近郊で暮らす人々との交流を、街道・関所・農業生産・鷹場・祭礼・霊山・名所を通じて明らかにする。江戸を外からみると、これまであまり知られていなかった新しい江戸の姿がみえてくる。 **四六判 200頁**
2,090円(本体1,900円) 60760-6 C0021 (99.10)

巨大城下町江戸の分節構造

吉田伸之 著

品切

町人地社会を考察する上で重要な表店層の特質、市場が中核となり形成される市場社会の特質、寺社地と武家地の社会など、巨大城下町・江戸を構成する社会＝空間構造に関する研究をまとめた論文集。新規書き下し2本を加えた著者の集大成。 **A 5判 404頁**
7,150円(本体6,500円) 52070-7 C3021 (00. 1)

近世大坂の都市空間と社会構造

塚田 孝 吉田伸之 編

松尾信裕 谷直樹 三浦要一 森下徹 阪口弘之 神田由築
渡辺祥子 原直史 屋久健二 西村和江 八木滋

品切

「都城」「城下町」の2つの都市類型を経験した大坂。その歴史的性格を念頭に置きつつ、近世大坂の空間構造を歴史学・建築史をはじめ経済史・文化史・考古学なども織り交ぜて分析する。 **A 5判 336頁**
5,280円(本体4,800円) 52120-9 C3021 (01. 2)

女の社会史

17-20世紀「家」とジェンダーを考える
大口勇次郎 編

大森映子 柳谷慶子 浅倉有子 吉田ゆり子 青木美智子 岩田みゆき
中村文 鄭夏美 金文子 山田志乃布 森田朋子 片野真佐子
加藤千香子 野本京子

品切 4,730円(本体4,300円)

52130-8 C3021 (01. 3)

大名の奥方、農漁村の女奉公人、朝鮮の女たち、愛国婦人会…と、江戸時代から大正・昭和にいたるまで女性の生きた世界を多角的に描く。女性史必読の書。 **A 5判 356頁**

近世漁業社会構造の研究

後藤雅知 著

品切

房総地域の浦請＝漁場請負の構造を明らかにするとともに、海付村落における岡・浜関係を考察する。浦請と個々の漁場利用との関係から、改めて漁場利用の重層性を考える。 **A 5判 312頁**
5,280円(本体4,800円) 52110-0 C3021 (01. 5)

東廻海運史の研究

渡辺英夫 著

品切

東廻海運の成立過程を根底から問い直す。従来の常陸国那珂湊を廻着地として成立したとする定説を覆し、那珂湊でも銚子湊でもないその結節点を鮮やかに描いた新研究。 **A 5判 244頁**
4,620円(本体4,200円) 52210-7 C3021 (02.11)

大阪における都市の発展と構造

塚田 孝 編

古市晃 積山洋 八木滋 熊谷光子 町田哲 佐賀朝
島田克彦 井戸田史子 渡辺祥子 森下徹 屋久健二 飯田直樹

大阪において都市はどのように発展してきたのか？ 古代難波宮・城下町大坂・近代都市大阪まで、都市の社会構造と社会集団を軸に分析を試み、歴史的展開の中で大阪の都市地域史を見通す。

A 5判 400頁

品切 5,500円(本体5,000円)

52310-4 C3021 (04. 3)

近世日本における 石灰の生産流通構造

川勝守生 著

品切

石灰の生産から消費という流通構造や、そこにかかわる多様な社会集団、武州多摩・高麗など生産地の地域社会構造、さらに巨大都市江戸の煉売・売売などの流通・消費構造などについて、周縁的な諸要素を含めながら総合的かつ克明に解明した著者畢生の大著。

A 5判 576頁

13,096円(本体11,905円)

52013-4 C3021 (07. 5)

近世朝廷の法制と秩序

田中暁龍 著

品切

幕藩体制のもとで一定の機能を果たした朝廷が、いかにして260年間の長きにわたってその秩序を維持する装置としての法制をそなえたか、その実態を解明する。

A 5判 228頁

5,500円(本体5,000円)

52015-8 C3021 (12.10)

近世の家と女性

吉田ゆり子 著

品切

原則的に「家」の継承者は男性であった日本近世社会の中で、社会は女性をどのように位置づけようとしていたかを解き明かす論集。

A 5判 352頁

7,150円(本体6,500円)

52017-2 C3021 (16. 1)

江戸城大奥をめざす村の娘

生麦村関口千恵の生涯

大口勇次郎 著

品切

農村の名主家に生まれながら、身分や女性の立場などの制約を乗り越え大奥に奉公した江戸時代のキャリア女性。その数奇な生涯を、関口日記から明らかにする。

A 5判 256頁

4,950円(本体4,500円)

52021-9 C3021 (16. 7)

山里清内路の社会構造

近世から現代へ

吉田伸之 編

赤川学 小野歩実 角和裕子 小島庸平 坂口正彦 坂本広徳 芹口真結子
竹ノ内雅人 田中光 千葉拓真 中西啓太 藤田社介 前澤健 本島和人

在庫僅少

地域史料の調査から歴史叙述へ。長野県南西端の美しい山里、清内路。豊富な史料群の、十数年に及ぶ調査研究を基礎に、清内路の近世から現代を多面的に描き、山里社会から全体史を展望する。

A 5判 416頁

6,600円(本体6,000円)

52025-7 C3021 (18. 9)

近世甲斐国社家組織の研究

西田かほる 著

近世の甲斐国中地域の神社を分析対象として、その社家(神職の家柄)の組織や活動を考察することで、社家が近世社会の中でいかにその身分を確立していったのかを明らかにする。

A 5判 372頁

7,700円(本体7,000円)

52041-7 C3021 (19. 3)

近世蝦夷地在地社会の研究

谷本晃久 著

近世の蝦夷地(北海道)において、場所請負制度のもとに機能した地域社会の構造や特質を、文献史学的手法で明らかにする。研究成果をふまえ、交易や宗教などを手掛かりに実証的に分析した論集。

A 5判 480頁

9,900円(本体9,000円)

52042-4 C3021 (20. 2)

在庫僅少

読む解く学ぶ 日本近世史
全体史へ《山口啓二の仕事》
吉田伸之 森下 徹 編

戦後の日本近世史研究をリードした山口啓二の仕事から、古典となる2つの論文を精緻に読み解き、歴史資料への向き合い方や、民衆の視座から近世の全体史をみとおす研究法を学び、いま取り組むべき新たな課題を模索する。
A 5判 196頁
2,200円(本体2,000円) 59304-6 C1021 (20. 5)

日本史(近世)

明治期における地主経営の展開

岩本由輝 著

品切

封建制から資本主義への過渡期における地主制と、地主経営の実態を、長野県諏訪地方岡谷地区にもとめ、この地区の産業である製糸業を中心に、その急激な発展の中での農業構造の変容と地主経営の変遷を実証的に考察する。

A 5判 376頁
3,856円(本体3,505円) 61250-1 C3021 (74. 3)

戦間期の日本経済分析

中村隆英 編 佐藤和夫 トウヴィア・ブルメンソール
腰原久雄 西川俊作 原明 ヒュー・バトリック
尾高雄之助 ビーター・ドゥウス ロナウド・ネビア 中川敬一郎
森川英正 山崎広明 ギャリィー・R・サクソンハウス 清家篤 宮本又郎
コウゾウ・ヤマムラ

品切

「国際的視野から見た戦間期の日本経済」に関する国際会議(1979年 於ハワイ)の報告論文集。1920年代のデフレーションと、恐慌をはさんでの30年代のマイルド・インフレーションのなかで、世界的にみて最高の経済成長を達成した日本経済を分析する。

A 5判 432頁
6,824円(本体6,204円) 61530-4 C3033 (81. 2)

日本近代史における転換期の研究

坂野潤治 宮地正人 編

馬場康雄 御厨貴 M・W・スティール 森山茂徳
高橋進 宮崎隆次 伊藤之雄 広瀬順昭
品切

封建国家から近代国家へ、政党政治からファシズム体制へと、近代日本は二つの転換期に直面した。両転換期に内在する論理を巨視的にとらえ直し、歴史学・政治学の両側面のアプローチの中から、日本近代史を見直す枠組みを提示する。

A 5判 416頁
4,593円(本体4,175円) 61570-0 C3021 (85. 6)

中村隆英先生還暦記念

近代日本の経済と政治

原 朗 編

小風秀雅 室山義正 坂本雅子 服部英里子 李武嘉也
持田信樹 金子文夫 大豆生田稔 阿部武司 宮島英昭
照沼康孝 富永憲生 加藤陽子 宮崎正康 伊藤修

品切

明治から戦後の経済政策・構造、政治動向などを歴史的にさまざまな角度から分析した15論文を所収。中村隆英先生の還暦を記念し、若手研究者がその研究活動の成果をまとめた論文集。

A 5判 440頁
7,156円(本体6,505円) 61580-9 C3033 (86. 3)

大正デモクラシーと政党政治

伊藤之雄 著

品切

政党の基盤となる地方政治状況の変化をふまえて、原敬内閣から大隈毅内閣までの戦前期政党政治の展開過程を、膨大な公刊史料・未公刊史料などにもとづいて再構築する。

A 5判 384頁
5,060円(本体4,600円) 61590-8 C3021 (87.11)

象徴天皇制へのパフォーマンス

昭和期の天皇行幸の変遷

坂本孝治郎 著

敗戦前後から占領終結にいたる時期の昭和天皇の動静に焦点をあて、新聞報道写真・地方巡幸・短歌などにみられる《軍服から背広の天皇・象徴天皇へ》の変身過程を描く。

四六判 440頁

品切

3,418円(本体3,107円) 61600-4 C1021 (89. 8)

19世紀の世界と横浜

横浜開港資料館・横浜近世史研究会 編

三谷博 針谷武志 嶋村元宏 鶴田啓 小風秀雅 浅倉有子
飯島千秋 石崎康子 佐藤隆一 内田四方蔵 大口勇次郎
岩田みゆき 鈴木ゆり子 西川武臣

品切

幕末維新期における日本の政治・外交・経済・社会・生活の各方面にわたる問題を取りあげた14論文を所収。「開港」「幕末」「地域」の3部構成で、開港期の横浜を射程において、それぞれのテーマで19世紀の歴史的世界を構築する。

A 5判 384頁
2,990円(本体2,718円) 61450-5 C0321 (93. 3)

日本近代史の再構築

伊藤 隆 編

落合弘樹 小池ウルスラ 山崎有恒 西川誠 國岡啓子
マーガレット・メール エバ・P・ルトコフスカ 崔硯莞 鈴木淳
神山恒雄 小林和幸 小池聖一 田浦雅徳 劉傑 矢野信幸 日暮吉延

品切

新進気鋭の研究者たちが、既成の歴史研究を整理しながら、自己の研究を積み重ね、新しい日本の近代史像をつくりだす。16論文収録。

A 5判 432頁
6,835円(本体6,214円) 61460-4 C3021 (93. 4)

地租改正と地方制度

奥田晴樹 著

地租改正に関する歴史的研究の現況を分析し見直す。「地租改正」「地方制度」「地租と明治国家」の3編構成で、地租改正の実施過程と該期の地方制度、地租改正の所産たる土地・地租制度までを論じる。 A 5判 552頁

品切

8,544円(本体7,767円)

61490-1 C3021 (93.10)

模索する1930年代 [新装版]

日米関係と陸軍中堅層

加藤陽子 著

アメリカの外交姿勢が日本にどのような影響をおよぼしたか、また、内側からは陸軍中堅層に注目し、1930年代の日本をみる。新装版として待望の復刊。 A 5判 336頁

2,750円(本体2,500円)

59077-9 C1021 (12. 7)

危機のなかの協調外交

日中戦争に至る対外政策の形成と展開

井上寿一 著

日中戦争はなぜ回避できなかったのか、国際連盟脱退から日中戦争にいたる日本外交の展開過程を、〈政府内政治〉に焦点を合わせ、内外の未刊行史料を駆使し分析する。国際社会で新たな責任を果たす日本の今日的課題をも示唆する力作。 A 5判 360頁

品切

4,609円(本体4,190円)

61020-0 C3021 (94. 1)

昭和期の政治 (続)

伊藤 隆 著

膨大な史料を発掘・整理し、歴史の分析概念としての「革新派」論を提示し続けてきた著者が、その昭和史研究の視角を継承・発展させ、昭和初期から戦後にいたる政治史を実証的に分析した論文集。「近代日本研究双書」に収められた『昭和期の政治』の続編。 A 5判 484頁

品切

6,942円(本体6,311円)

61500-7 C3021 (94. 1)

帝国主義下の日本海運

国際競争と対外自立

小風秀雅 著

海運業は、日本の近代化を運輸面から促進したキー産業部門であるとともに世界経済の中で日本を代表する産業部門でもあった。本書は、19世紀後半の帝国主義的世界環境下における海運業の自立過程を解明し、日本近代化の国際的側面を考察する。 A 5判 360頁

品切

7,376円(本体6,705円)

61660-8 C3021 (95. 2)

アジアのなかの日本と中国

友好と摩擦の現代史

増田 弘 波多野澄雄 編

国分良成 木村昌人 小澤治子 添谷芳秀 金浩燮 平岩俊司 中川昌郎 波多野勝 別枝行夫 浜口裕子 片桐庸夫 真鍋一史

品切

冷戦後の国際秩序が模索される現在、東アジアの国際環境を視野に入れ、戦後50年の日中関係を、日本外交を軸に分析・考察する。本書は、池井優先生の遺稿を記念して出版された論文集。 A 5判 352頁

2,934円(本体2,667円)

61030-9 C3021 (95.10)

横浜居留地と異文化交流

19世紀後半の国際都市を読む

横浜開港資料館・横浜居留地研究会 編

石塚裕道 嶋村元宏 斎藤多喜夫 デルク・ファン・デア・ラーン 立脇和夫 福永郁雄 滑川明彦 服部一馬 生野拱子 大藤啓矩 向井晃 江間久美子 楠家重敏 浅岡邦雄 大山瑞代 中西道子 加藤祐三 樋口次郎

品切

横浜の外国人居留地に視座を据え、幕末・明治期の外交や対外交渉にユニークな切り口を提示し、新たなテーマと事実を探究する。17論文を所収。 A 5判 432頁

3,098円(本体2,816円)

61900-5 C0321 (96. 6)

明治維新とナショナリズム

幕末の外交と政治変動

三谷 博 著

18世紀末から王政復古に至る時期の、日本の対外政策と国内政治構造の変化に関する著者の論文を集め、これに明治維新に関する巨視的・比較史的な考察を加える。第1～4部で構成。1997年度第19回サントリー学芸賞受賞 A 5判 398頁

品切

7,266円(本体6,605円)

61180-1 C3021 (97. 1)

日本の経済発展と在来産業

中村隆英 編

松本貴典 奥田都子 内田金生 高橋桂子
谷本雅之 大森一宏 藤井信幸 原信芳
品切

明治以後の日本の急速な経済発展において重要な役割を果たした在来産業を考察した論文集。在来産業の分析視角・戦前期日本における全国展開、在来産業と伝統市場・女子労働・農村労働力・組織化・情報通信革命・商工行政、戦後の動向と変容を収載。
A 5判 274頁
3,740円(本体3,400円) 61080-4 C3021 (97. 3)

大正政治史の出發

立憲同志会の成立とその周辺

櫻井良樹 著

品切

日露戦争直後から大正政変に至る時期を中心に、非政友政党がどのような政界再編を理想とし、政治体制の改革を試めたのか、また同志会にどのように流れ込んでいったのかを跡づけ、桂太郎が政友会との提携路線を放棄するに至った理由に焦点をあて論述。
A 5判 370頁
4,730円(本体4,300円) 61090-3 C3021 (97. 3)

財界ネットワークと日米外交

木村昌人 著

品切

1910年代から50年代半ばまでの日米外交をめぐる諸問題を、財界ネットワークに焦点をあてて、従来の外交史とは違った観点から多角的に考察する。
A 5判 258頁

3,300円(本体3,000円) 61100-9 C3021 (97. 4)

日記が語る19世紀の横浜

関口日記と堤家文書

横浜開港資料館・横浜近世史研究会 編

大口勇次郎 鈴木良明 内田四方蔵 井上攻 斎藤司
鶴田啓 中村文 佐藤隆一 西川武臣 森田朋子

江戸時代の後半から明治初期における横浜とその周辺地を対象として、地域の歴史をさまざまな角度から明らかにしようとした論文集。
A 5判 320頁

品切 2,828円(本体2,571円) 52020-2 C1021 (98. 3)

昭和天皇とその時代

升味準之輔 著

昭和天皇を軸として綴る昭和期の政治史。「独白録」の回想と弁明を再検証し、公開された資料を読み解きながら、立憲君主としての天皇を歴史の中に位置づける。
四六判 400頁

2,860円(本体2,600円) 60650-0 C1021 (98. 5)

新時代の創造 公益の追求者・渋沢栄一

渋沢研究会 編 片桐庸夫 安彦正一 徳田敦司 島田昌和
松本和明 木村昌人 原輝史 中村義
松村正義 ジョージ・M・オーシロ 是澤博昭 山岡道男 三好信浩
影山礼子 沖田行司 長沼友兄 山名敦子 金澤貴之 平井雄一郎
井上潤 松川健二 五十嵐卓 福永郁雄 塚田孝雄

渋沢栄一は、企業家としての活躍のみでなく、国際交流・民間外交、社会福祉、教育の分野でも多大な貢献をした。健全な資本主義の育成と利潤の社会への還元をモットーとし、変革の時代を生き抜いた渋沢の多面的な軌跡を、今日的視点から模索する。
A 5判 416頁

品切 2,750円(本体2,500円) 52060-8 C1021 (99. 5)

徳川昭武幕末滞欧日記

宮地正人 監修 松戸市教育委員会 編

品切

慶応3年(1867)、実兄の將軍徳川慶喜の命を受け、パリ万国博覧会に將軍名代として派遣された徳川昭武自筆の日本文および仏文日記と、松戸徳川家に伝来する昭武随行団の本国幕閣宛滞仏期文書などを所収。
A 5判 288頁

4,180円(本体3,800円) 52010-3 C3021 (99. 5)

環太平洋の国際秩序の模索と日本

第一次世界大戦後から五五年体制成立

伊藤之雄 川田 稔 編

井口治夫 柴山太 石川慎浩 木村幹 小林道彦
大前信也 堀田慎一郎 中西寛 伊藤孝夫 喜志麻孝子

第一次世界大戦から五五年体制の成立までにおける、アメリカや、中国など太平洋をめぐる国々の国際関係の秩序の変化と日本の変化を、歴史学・政治学の立場から分析する。
A 5判 416頁

品切 7,480円(本体6,800円) 52080-6 C3021 (99.11)

大政翼賛会

国民動員をめぐる相剋

ゴードン・M・バーガー 著 坂野潤治 訳

昭和戦前期の政党の役割、挙国一致のなかでの政党と政党政治家の権力の防衛、近衛新体制の成立、戦後の復権にいたる過程を分析する。 A 5判 312頁

在庫僅少

5,500円(本体5,000円)

52050-9 C3021 (00.10)

地域から見直す占領改革

戦後地方政治の連続と非連続

天川 晃 増田 弘 編

我部政男 雨宮昭一 明神勲 福永文夫
品切

地方に視座をおいて、戦中から戦後の制度改革のもつ意義と可能性、あるいは限界を分析し、政治・経済の具体的な状況を解き明かす論文集。 A 5判 256頁

2,750円(本体2,500円)

52140-7 C3021 (01. 3)

石油化学産業と地域経済

周南コンビナートを中心として

徳山大学総合経済研究所 編

中村隆英 稲葉和也 大田康博 大森一宏
中谷孝久 藤井信幸 杉光英俊

1960年代、旧徳山海軍燃料廠の跡地に、周南コンビナートが形成された。それは地域発展の起爆剤であり、その後の地域経済の要諦をなした。周南コンビナートの地域経済に及ぼした諸影響を分析する。 A 5判 272頁

品切 5,280円(本体4,800円)

52200-8 C3021 (02. 3)

明治の面影・
フランス人画家ビゴーの世界

清水 勲 編著

品切

風刺画で著名なビゴーは、詩情あふれる風景・風俗画や、歴史的事件の報道画も数多く残している。約350点の作品を通してビゴーの描く明治の日本を明らかにする。 A 4判 192頁

2,530円(本体2,300円)

60590-9 C0070 (02. 9)

文化財と近代日本

鈴木 良 高木博志 編

岸本覚 伊藤敬太郎 武知正晃 山辺昌彦

新史料を駆使し、日本近代史を文化財の視点からとらえた初めての研究書。付録には文化財研究文献目録を掲載。 A 5判 208頁

品切

2,750円(本体2,500円)

52170-4 C3021 (02.12)

地方分権

改革と課題

宮崎正康 地域研究会 編

田辺宏太郎 杉原秀一 小沢康英 藤井英之 植田美津江
永井智哉 高屋繁樹 石川卓 名嘉憲夫 山室建徳

地方分権は壮大な失敗であったか? 大学教員、国家・地方公務員、民間研究者の共同研究により、地方分権への試みの現在を問う。 A 5判 240頁

品切 2,860円(本体2,600円)

52270-1 C1021 (03. 1)

加藤高明と政党政治

二大政党制への道

奈良岡聰智 著

加藤高明の政治指導を一次史料に基づいて分析し、戦前期の二大政党制の形成過程を明らかにする。憲政会総裁として、政友会総裁の原敬とともに大正政治史を二分した加藤の生涯を通じて、その政治指導を再評価し、近代日本の政党政治を大きく捉えなおす。 A 5判 464頁
7,480円(本体6,800円)

52011-0 C3021 (06. 8)

戦後知の可能性

歴史・宗教・民衆

安丸良夫 喜安 朗 編

磯前順一 島蘭進 臼杵陽 林淳

戦後日本の新たな現実と向き合うなかで、学知探求の筋道を摸索していった先学たちの軌跡をたどり、戦後啓蒙から出発した知の変貌のさまを示すとともに、いま、揺らぐ知の可能性を再考する意欲的論集。 A 5判 456頁

3,850円(本体3,500円)

67223-9 C3022 (10.12)

遠山郁三日誌 1940～1943年

戦時下ミッション・スクールの肖像

奈須恵子 山田昭次 永井 均 豊田雅幸 茶谷誠一 編

戦時下の立教学院総長（兼立教大学学長）が、激変する大学内外の動向をつぶさに綴った執務の記録。大戦期の高等教育史研究やミッション・スクール研究などの一次史料として価値の高い1冊。

A 5判 556頁

品切

6,600円(本体6,000円)

52016-5 C3020 (13. 2)

桂園時代の形成

1900年体制の実像

中里裕司 著

山県有朋・星亨・桂太郎・原敬をめぐる対立と妥協・提携や合意形成への努力をさまざまな局面から叙述し、藩閥の限界と政党の限界を探る。

A 5判 216頁

在庫僅少

5,500円(本体5,000円)

52018-9 C3021 (15. 5)

鹿児島県の近現代

原口 泉 宮下満郎 向山勝貞 著

激動の幕末から現代まで、鹿児島県では何が起こっていたのか。先人が培ってきた地域の知恵を学び、地域の歴史と文化を次世代に語り継ぐために、客観的かつ平易に叙述する。

四六判 384頁 口絵2頁

2,750円(本体2,500円)

59081-6 C0021 (15. 5)

福岡県の近現代

有馬 学 石瀧豊美 小西秀隆 著

「内と外」「中央と地方」「都市と農村」「体制と運動」の4つの視点から福岡県の近現代を叙述する。地域近代史の叙述では政治史に重きをおかなかったが、既成の「政治史」に分量をさいてある。

四六判 360頁 口絵2頁

2,750円(本体2,500円)

59082-3 C0021 (21. 8)

「昭和天皇実録」と戦争

栗原俊雄 著

『昭和天皇実録』には、太平洋戦争の開戦から終戦まで、昭和天皇がどう描かれているのか。裏づけられた史実、あえて記さなかったこととは…。分析を続けた気鋭の記者がその読みどころに迫る。

四六判 256頁

1,760円(本体1,600円)

15090-4 C0021 (15. 8)

ジャポニズムと近代の日本

東田雅博 著

幕末・明治期に見られたジャポニズムという日本ブームを、現在のクールジャパンに通じる現象として考察し、ジャポニズムを通して近代日本の歴史を学ぶことの意義を検討する。

A 5判 136頁

1,650円(本体1,500円)

59088-5 C1021 (17. 2)

横浜華僑社会の形成と発展

幕末開港期から関東大震災復興期まで

伊藤泉美 著

幕末の開港以後、横浜に進出し、中華街を形成した中国人たち。日清戦争、関東大震災など、激動の近代日本における横浜華僑社会の歴史的過程を明らかにする。

A 5判 520頁

8,800円(本体8,000円)

52024-0 C1021 (18. 8)

徳川斉昭

不確実な時代に生きて

永井 博 著

ドラマ、小説等では「頑迷固陋な攘夷主義者」という一面的な取り上げ方がされてきた徳川斉昭。幕末の重要人物でありながらこれまで評伝がない。公家や大名とのネットワークの役割や正室登美宮吉子の果たした役割などについても詳細に記述する。

四六判 240頁

2,200円(本体2,000円)

59301-5 C0021 (19. 6)

幕末明治旗本困窮記

御書院番士酒依氏の日記

西川武臣 著

幕末動乱の時代、御書院番士として江戸城の警備にあたっていた酒依氏。ペリー艦隊の来航や長州藩との戦闘で次第に追い詰められ困窮を極めた。残された酒依氏の日記をもとに、当時の幕臣の生活を興味深く描く。

四六判 176頁

2,750円(本体2,500円)

15201-4 C0021 (21. 6)

明治維新 勝者のなかの敗者

堀内誠之進と明治初年の尊攘派

遠矢浩規 著

幕府を倒し新政府の樹立に功ありながら、維新後切り捨てられた「草莽の志士」たち。「征韓論」「西南戦争」「自由民権運動」と幅広く関わった土佐藩の志士・堀内誠之進の生涯を追いつながら、明治維新のもうひとつの側面に光をあてる。

四六判 400頁

2,750円(本体2,500円)

15195-6 C0021 (21. 7)

[電子書籍あり]

幕末維新史への招待

町田明広 編

第一線で活躍する気鋭の研究者たちが、日々進化する研究動向について論点ごとにわかりやすく解説。世の中の常識と乖離する最新の時代像を明らかにする。

四六判 280頁

1,980円(本体1,800円)

15231-1 C0021 (23. 4)

[電子書籍あり]

「明治一五〇年」で考える

近代移行期の社会と空間

ダニエル・V・ボツマン 塚田 孝 吉田伸之 編

アン・ウォルソール 佐賀朝 ジョン・ポーター 杉本史子 高木博志 廣川和花 松沢裕作 横山百合子 吉田ゆり子

「明治一五〇年」。維新の元勳や偉人の顕彰ばかりが強調されるなか、明治維新期の意味を、社会史の深みから、ふつうの人々の視座から捉えなおす。

A 5判 248頁

4,180円(本体3,800円)

59108-0 C1021 (18. 11)

品切

都市鉄道の技術社会史

高嶋修一 著

動力や車両などのハードウェアだけでなく、都市計画や交通調整といったソフトウェアの技術にも着目し、東京都市圏における鉄道や軌道など交通機関の変遷と、それが社会にもたらした変化について考える。

四六判 232頁

2,750円(本体2,500円)

59109-7 C1021 (19. 7)

世界史のなかの近代日本

小風秀雅 著

開国から日露戦争までの歴史を、20テーマの講義形式で、多彩な図版を読み解きながら学ぶ。日本と世界、双方向からの視点で、日本の国際化・近代化の原点を確認する。

四六判 312頁

1,980円(本体1,800円)

59131-8 C1021 (23. 1)

[電子書籍あり]

一九世紀後半における国際関係の変容と国境の形成

琉球・樺太・千島・「竹島」・小笠原

麓 慎一 著

近代日本の国境がどのように形成されたのか、その過程を考証し、国境とは何かを考える。新史料の分析から、これまで知られていなかった問題を明らかにする。

A 5判 216頁

3,300円(本体3,000円)

59132-5 C0021 (23. 5)

[電子書籍あり]

都市大阪の戦後史

復興・再生・発展

橋爪紳也 著

戦時下から戦後復興期、高度経済成長期へと、大阪は各時代に生じた課題とどう向き合ってきたのか。「都市計画」「産業復興」「交通網の整備」「建築・建設」の視点から検証する。

四六判 304頁

2,640円(本体2,400円)

15230-4 C0021 (23. 7)

ゾルゲ工作と日独ソ関係

資料で読む第二次世界大戦前史

富田 武 著

ソ連の諜報員として日本に滞在したゾルゲの果たした歴史的な役割から、戦前の各国が試みた情報戦の実態を明らかにする。
四六判 248頁

[電子書籍あり] 2,420円(本体2,200円)

15250-2 C0021 (24, 9)